

252-19口



1200701749032

252

19口

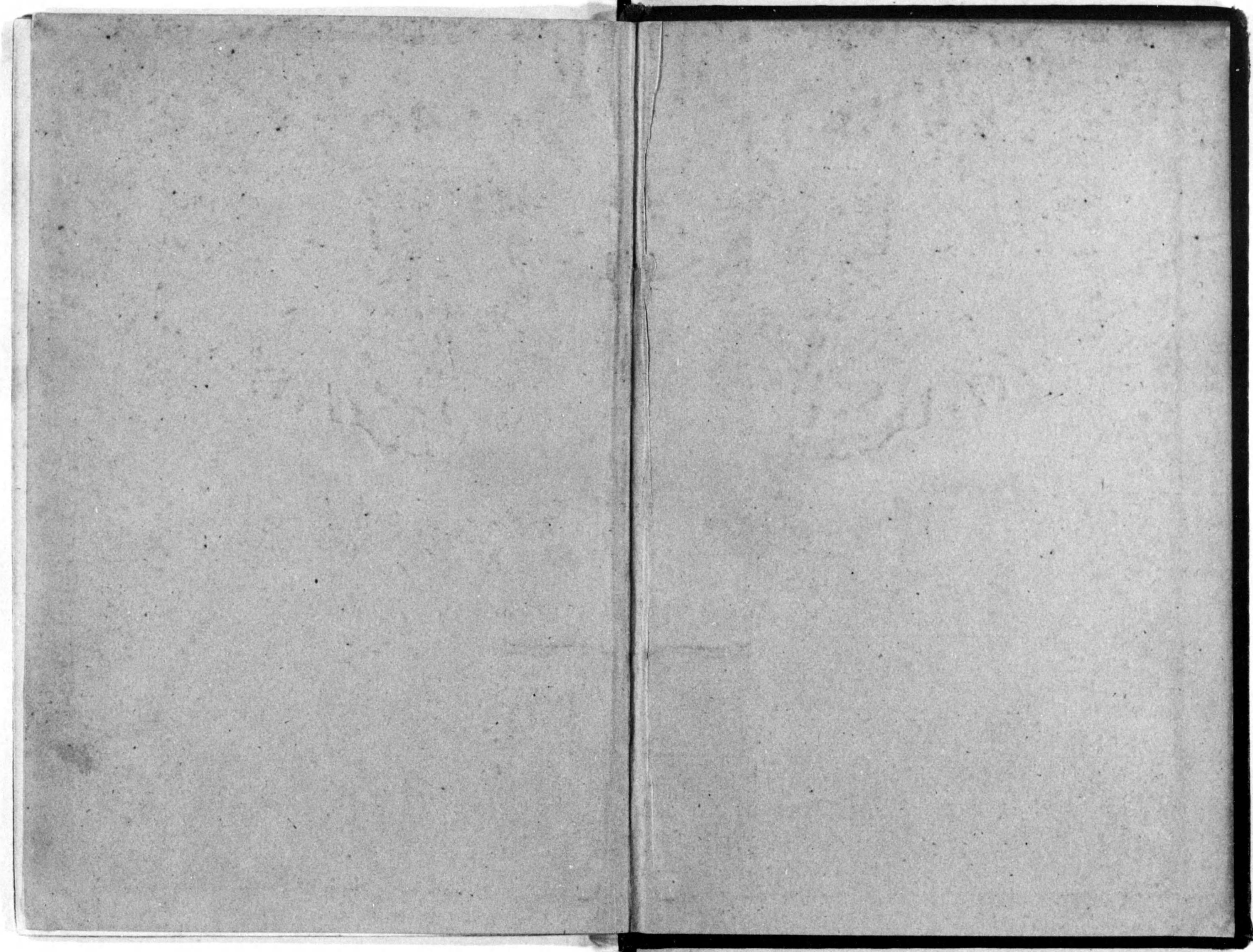
東泉園書

一	三			
七	一			
〇	六			
冊	架	函	屬	類



始





惹迷斯、如安諾氏原著
文學士有賀長雄譯註

譯註

如

氏教育學

下卷

有賀氏藏版
牧野書房發兌



明治十九年一月二十六日内務省贈付

如氏教育學卷之下目次



第十一章 身軀修練

◎緒言

三百八十七

相反對スル理論

三百八十八

身軀修練ノ要素

三百九十

授業ノ範圍

三百九十二

教師ニ於テ務ムヘキ準備

三百九十二

◎食物

三百九十三

食物ノ種類

三百九十四

制限

三百九十六

食物ノ資質

三百九十七

次

(一)

食物ノ分量	三百九十九
食物ノ參差	四百一
注意スベキ警省	四百四
喫食ノ時期	四百五
喫食ノ作法	四百七
忠告數條	四百八
飲料ノ功用	四百九
有害ナル飲料	四百十一
煙草	四百十四
教師ノ氣習	四百十六
◎温煖	四百十七
衣服	四百十八

衣服ニ供スベキ物質	四百十九
衣服ノ食物ニ對スル關係	四百二十
溫度ノ變化	四百二十一
衛生上ノ忠告	四百二十三
家屋	四百二十四
必要ナル憶度	四百二十五
◎光明	四百二十六
光線ノ方向	四百二十七
視力ノ不具	四百二十九
◎空氣及ヒ通氣	四百三十
不淨空氣ノ本源	四百三十
戸内ノ空氣	四百三十一

遵守スベキ條款	四百三十二
温煖ノ配布	四百三十二
不淨空氣ノ配布	四百三十三
空氣ノ外出	四百三十四
通氣ノ計策	四百三十四
運轉ノ方法	四百三十五
構造ノ費用	四百三十六
實地上ノ忠告	四百三十七
◎筋骨ノ直接教練	四百三十九
躰操	四百四十
運動ノ種類	四百四十一
躰操ノ裝置	四百四十二

運動ノ時間	四百四十三
注意スベキ警省	四百四十三
◎休息	四百四十四
變易ニ因ル休息	四百四十五
注意力ノ休息	四百四十六
完全ナル休息	四百四十七
日々ノ休息即チ睡眠	四百四十八
睡眠ノ分量	四百四十九
疲勞ノ休息	四百五十
第十一章 好尙修練	
◎好尙學ノ本性	四百五十四
美ノ標準	四百五十六

ラスキン氏ノ見解	四百五十七
經驗論	四百五十九
美術上ノ教練	四四六十一
◎形樣	四百六十三
形樣ノ分解	四百六十三
幾何上ノ分別	四百六十五
美術ニ用非ル形樣	四百六十六
自然ハ美術ノ基本	四百六十七
◎比例	四百六十九
建築ニ於ケル比例	四百七十
安全ノ元素	四百七十一
比例ノ觀念ノ普在	四百七十三

比例ノ觀念ノ應用	四百七十四
◎統一	四百七十五
自然ニ在ル實例	四百七十六
技術ニ於ケル統一	四百七十七
統一ノ忽棄	四百七十九
聚集ハ統一ニ非ス	四百八十
◎均齊	四百八十一
自然ニ在ル均齊	四百八十二
技藝ニ於ケル均齊	四百八十四
◎調和	四百八十五
儀態ノ調和	四百八十六
自然ニ於ケル調和	四百八十七

技術ニ於ケル調和
調和ノ缺乏

◎駁雜

自然ニ於ケル駁雜
技藝ニ於ケル駁雜
市中ノ純音
對比ノ例件

◎光彩

光彩ノ美ノ標準
對色
光彩ノ駁雜
光彩ニ注意スベキ事

四百八十八

四百九十

四百九十一

四百九十二

四百九十五

四百九十六

四百九十七

四百九十九

五百

五百一

五百三

五百三

◎音聲

音樂上ノ知覺力ノ根源
音樂ノ好尙上及ヒ道德上ノ價格
學校ニ於テ授クル音樂
學校ノ音樂ノ品格
發聲
不愉快ナル音調

◎全体ノ綱領

◎好尙上ノ授業

教場
學校ノ周圍
衣服

五百四

五百五

五百七

五百八

五百九

五百十

五百十一

五百十二

五百十四

五百十四

五百十六

五百十七

習慣及ヒ行儀

五百十八

◎書學

五百二十

筋骨ノ熟練

五百二十一

觀察ノ修練

五百二十一

遠近及ヒ晦明

五百二十二

彩色ノ使用

五百二十三

工業上ノ藝術

五百二十四

本眞藝術

五百二十五

國藝

五百二十六

第十三章 道德修練

◎道德ノ本旨

五百二十九

道德教訓ノ緩慢

五百三十

緩慢ノ原因

五百三十

◎道德ハ何爲者ソヤ

五百三十三

道德ノ基本

五百三十五

所須ノ際限

五百三十五

所須ノ平等

五百三十六

權利ノ基本

五百三十七

本分ノ基本

五百三十七

例件

五百三十八

反面及ヒ正面ノ本分

五百三十九

道德上ノ本分ノ標準

五百四十一

實例

五百四十四

道德ノ要素

五百四十六

一個人ノ道德

五百四十七

◎學校ニ於テ授クル道德上ノ教訓

五百四十八

儀範ノ勢力

五百四十九

行儀

五百五十

不行儀ノ儀範

五百五十一

責任ノ際限

五百五十二

道德上ノ感受性

五百五十二

道德上ノ偶發教訓

五百五十四

反而ノ結果

五百五十八

勞力及ヒ義舉

五百六十

警省

五百六十一

善行ノ認識

五百六十三

◎學校ノ管理

五百六十五

障礙ト成レル憶度

五百六十六

願フベキ改革

五百六十八

禁制

五百七十

間接ノ道德上感化力

五百七十一

怠慢ノ弊害

五百七十二

◎直接道德教育

五百七十三

格言及ヒ實行

五百七十四

日常偶事ノ功用

五百七十六

文詞ノ功用

五百七十七

文詞ノ妄用

五百七十九

歴史ノ功用

五百八十

具象例件
歴史ノ講究ノ缺乏
道徳理學
◎社會ノ關係

家族
一般社會
國政
實地ノ道徳
學校ニ於テノ應用
道徳教練ノ結果

第十四章 一般之課程

◎緒言

五百八十一
五百八十二
五百八十四
五百八十六
五百八十八
五百八十九
五百九十一
五百九十二
五百九十三
五百九十五
五百九十七

惹、如安諾 原著
有賀長雄 譯註



第十一章 身體修練

◎緒言 || 語ニ曰ク「第一人類ハ動物ナリ、故ニ其生活ニ於テ成功ニ到ルタメ第一ニ必要ナルハ、良佳ナル動物ト成ル事コレナリ」ト、宜井哉言マ。熟シ此語ノ旨趣ヲ考フルニ、生活作用ノ上ヨリ言フトキハ、人類モ下等動物ト同一ノ理法ノ管理スル所タル者ナレバ、其人類タル所以ノ性ヲ完全ニスルノ成否ハ、身體ノ健康ト強壯トニ因レリトノ理ヲ示ス

者ナリ。若シ身體ノ修練ヲ怠リ、或ハ活體ノ幸福ヲ保持スルノ要狀ヲ忽視ニ附スルカ如キヲアレバ、爲メニ教育上一切ノ事業ヲ荼毒シ、生徒ノ智心及ヒ道德ノ發育ヲシテ最高點ニ達セシムルノ計畫ハ悉ク無効ニ屬スベシトナリ。

相反對スル理論 || 往昔ニ在テハ身體修練ノ事ニ關シテ二派ノ理

論ヲ主張スル者アリタリ。其一ハ即チ人類ノ身體ト心靈トノ間ニハ元來永ク相容レザル所ノ者アリテ、心靈ノ健全ハ身體ノ健全ト轉比例ヲ做スモノナリトノ總念ニ基ツク者コレナリ。此理論ヲ主張スル輩ハ痛論シテ曰ク、凡ソ心靈有在即チ人ノ留意スルニ足ル者ハ、獨リ心靈上ノ事ノミニ限レリ、而シテ最貴至尊ナル心靈上ノ福田ヲ保占センガタノニハ、自然ノ慾望ヲ壓伏シテ肉體ヲ死枯セシムザルベカラズト。此等ノ論者ハ身軀ノ成長中途ニシテ過ミ、或ハ其病ミ惱メル様ヲ以テ

却テ尙フヘキ者ナリトシタリ。

第二ノ理論ハ身體ノ修練ヲ以テ教育ノ主要ナル目的トスベキ所ナリトセリ。此理論ニ於テハ筋骨ノ發育最高點ニ達セン事ヲ重スル過當ニシテ、一切ノ活力ヲ以テ單ニ此一事ノミニ費用セントセリ。

斯ク相反對スル見解ヲ調停スルニ足ル論旨トスヘキハ、双方ヨリモ一層高等ナル見識ニ出ツル者コレナリ、其論旨ニ曰ク、身軀ハ心意ノ依テ以テ發作セサルヲ得サル所ノ機械ナリ、是ヲ以テ心意作用ノ完全ナルト否トハ其由テ表ニ現ハル、所ノ機械ノ完全ナルト否トニ因テ定マルノ外無シト。今此觀念ヲ採ルトキハ、一方ニ於テハ舊來ノ心身相反ノ說ヲ拒斥スルニ足り、又一方ニ於テハ身軀修練ノ緊要ナル所以ト其制限トヲ測定スルノ標準ヲ立ツルヲ得ヘシ。即チ此レニ由テ視ルトキハ、凡ソ教育上ノ觀念ニシテ健康ヲ享有シ保維スルヨリ重大ナル

「無シト雖モ亦須ク其制限ヲ守リテ、之ガタメニ智心及ヒ道德ノ修練ノ範圍ヲ侵スノ極端ニ趨ルヲ避クヘキモノタルヲ知ルナリ。是ニ由テ之ヲ觀レバ、教育ノ主旨ニ照シテ要用ト定ムル身軀修練ニ於テハ、先ツ心意ト身體トノ間ニ親密ナル關係アルヲ認識シテ、身軀ノ成長ヲ十分ニシ、其存養ヲ完全ニスル事ト、健康及ヒ其他智心道德ノ強壯ヲ増進スルニ最モ適當シタル要狀ヲ保持スル事ト、人生通常ノ事變ニ處スルニ足ルヘキ強健ヲ具備スル事トヲ以テ目的ト爲スヘキモノタルナリ。今此定義ヲ採ルトキハ國中ノ教育事務ヲシテ必ス主トシテ筋骨發育ノ一事ノミニ生活力ヲ專用セントスル者ナラシム可シトノ觀念、即チ諸方ノ學校ノ正當ナル目的ト做スヘキ所ノ者ハ力士ヲ出タスニ在リトノ觀念ヲ驅除スルニ足レリ。

身軀修練ノ要素 —— 生徒ヲシテ身軀ノ幸福ヲ得シメシカ爲メニハ

教育ニ於テ四ヶ條ノ相異ナル要素緊要ナル要素ヲ憶度セサル可カラズ、(第一)ハ生活ノ理法ニ關シテ明智アラシム可キコトコレナリ、(第二)ハ此等ノ理法ヲ遵奉スルニ意ヲ留メシムヘキコトコレナリ、(第三)ハ教育上ノ器用ノ措置ヲシテ此等ノ理法ニ順應スルノ勢アラシムヘキコトコレナリ、(第四)ハ覺エズ知ラズ此等ノ理法ヲ遵奉スルノ氣習ヲ生セシムヘキコトコレナリ。明智留意ノ二事ニ關シテハ教師ノ務ムヘキ所、大抵間接ナリ、其故ハ此等ノ事ニ關スル生徒ノ行爲ノ大半ハ、教師ノ督責ヲ及ホシ得ヘキ範圍ノ外ニ出ツルヲ以テ是衣食住等ニ關スル攝生法ヲ指ス智心及ヒ道德ノ迂路ヲ經テ此ニ達スルノ外無ケレバナリ。又教育上ノ器用ノ措置ニ關シテハ、教師ノ務ムヘキ所、主トシテ忠告ノ体裁ニ出ツヘキモノトス、其故ハ此等ノ事ニ對スル權力ハ多ク校長ノ手ニ屬スレバナリ。直接ニ教師ノ力ヲ用非可キ所ハ、正當ニ教場ニ於テスル演習ノミニ限

レリ、即チ生徒教場ニ在テ課業ヲ修ムルノ間ニ之ヲ誘導シテ生涯保守スヘキ善良ナル氣習ヲ生セシメントキ勉ムヘキナリ。

授業ノ範圍 〓 生活ノ運営ヲ理解シ、之カ強壯ヲ保維スル方法ノ如何ヲ知ルニ必要ナル教訓ノ詳細ハ、生理、攝生ノ二學ヲ綿密ニ講明スル書籍ニ就テ之ヲ見ルヘシ。此書ニ於テハ紙數ニ限アルヲ以テ、只タ講明ヲ要スル事目ノ一般ヲ分解シテ、各目ニ屬スル原理中ノ二三條ノミヲ載セントス、即チ一方ニ於テハ此事ノ緊要ナル所以ヲ示シ、又一方ニ於テハ讀者ヲ誘促シテ尙ホ深く討究スル所有ラシメノカ爲メナリ。

教師ニ於テ務ムヘキ準備 〓 苟モ教師タラントスル者ハ、必ス先ツ講習尋究ヲ積テ生理攝法ノ理生ニ熟通シタルノ後ニ非ザレハ、進テ教育ノ業ヲ取ルヘキニ非サルナリ。此事ニ關スル知識ハ、自身ノ爲メ、并ニ生徒ノ爲メニ緊要ナルコト、適ニ算術及ヒ文典ノ巨細ニ關スル知識ノ

上ニ出ツ。若シ此類ノ知識無キトキハ、日々其教務ノ上ニ發スル種々ノ疑問ヲ答釋スル所以ノ關鍵ヲ得ザルヘク、且ツ重大ナル謬誤失策ニ陥リテ、爲メニ其教導事業ノ全体ヲシテ無功ニ屬セシムルニ至ルヘシ。之ニ反シテ若シ此事ノ知識ヲ備フルトキハ、生徒ヲシテ生理攝生ノ事ニ關シテ深ク銘心スル所有ラシムルニ適シタル教訓ヲ、或ハ直接ニ定規ノ課目トシテ授ケ、或ハ間接ニ時機ヲ計リテ勸戒ノ体裁ヲ以テ授クルコトヲ得ベシ。見識該博ニシテ眞理ヲ深信スル教師ハ、其日々ノ定規課業ノ外ニ於テ傍ラ勉ムル所ニ因テ不知不覺ノ際ニ生徒ヲ誘導シテ造化ノ理法ヲ認識シ、常ニ之ニ順從スルノ氣習ヲ發セシムルノ功、決シテ輕少ナラザルヘキナリ。

◎食物 〓 身體ノ安全ヲ増進スル方策ノ中ニ就テ最モ此事ノ本原

ニ接近セル者ハ食物コレナリ。身體ノ成長ニ必要ナル材料ト成リ、又腕力及ヒ心力ノ發作ニ因テ生スル消費ヲ補給スルニ必要ナル材料ト成ル者ハ食物ナリ。今此事ヲ憶度セントスルニ當テハ、茲ニ注目スヘキ者六ヶ條アリ、一ニ曰ク食物ノ種類、二ニ曰ク食物ノ資質、三ニ曰ク食物ノ分量、四ニ曰ク食物ノ參差、五ニ曰ク喫食ノ時期、六ニ曰ク喫食ノ作法コレナリ。

食物ノ種類

|| 今ヤ幼者ノ身軀ニ最モ善ク適シタル食物ノ種類ヲ

撰定セントスルニ當テハ、ペスタロッチ氏及ヒフロイベル氏ガ之ニ適シタル學科ヲ撰定セントスルニ當リテ用採セシ方法ニ倣ヒ、直接ニ兒童ニ就テ其何々タルヲ究ムルニ如カズトス。〔彼等ハ如何ナル食物ヲ切愛スルヤ〕彼等ハ何々ヲ喜フヤ〕トノ疑問ハ、我レ彼等ハ何々ヲ要スヘシト思ヘリヤ〕トノ疑問ヨリモ遙ニ緊要ナリ。兒童自ラ最モ切ニ求ムル

所ノ食物ヲ之ニ與フルヲ不可ナリトスルカ如キハ、自然ノ願情ヲ満足セシムルヲ以テ惡事ナリト爲セシ古代ノ嚴括主義ノ餘灰ナルノミ、此主義ヲ以テ推ストキハ、夫ノ恆河ノ濱岸ニ於テ食ヲ斷チ身ヲ責メテ生キナカラ死ヲ擬スル信徒コソ最モ完全ナル人物ト謂フ可ケレ。菓子及ヒ植物ノ酸葉實ヲ云乎ヲ食スルヲ禁スルハ即チ此ニ論スル事ノ倒ナリ。近世ノ生理學者ノ証明スル所ニ依レバ、殆ト世間一般ノ童兒ノ此等ノ物ヲ喜フハ、畢竟其一般ニ兒童ノ活體ノ要求スル所タル事ヲ表示スルモノナリ、是ヲ以テ之ヲ禁スルトキハ必ス兒童ノ身ニ害アリ。茲ニ一般ノ原理トシテ定説スルモ不可無カルヘキ者アルハ他無シ、凡ソ兒童ノ欲望スル所ノ食物ノ種類ハ、取リモ直サス其時其時ニ最モ活體ノ要求スル所タルガ故ニ、苟モ此理ヲ忽棄スルカ如キ衛生法アラバ、深ク疑難スベシト云フ是レナリ。

制限 〓 右ニ述フル如キハ之ヲ一般ノ原理トシテハ眞確ナリト雖モ、讀者ハ誤解シテ父兄ノ躑身宜シキヲ得ザルニ出ツル願情トイヘル據テ以テ之ニ給スヘキ食物ヲ撰定スルニ足ルノ標準ナリト思フコト有ルベカラズ。斯ル願情ハ必スシモ、皆眞實ニ身軀ノ要求スル所ニ根源セザルナリ。其實ハ正シキ欲望ナルニ非スシテ、或ハ遺傳ノ偏向タリ、或ハ曾テ過度ニ其物ヲ食セシノ結果タリ、或ハ嚮ニ之ヲ食スルヲ禁セラレシ鬱憤ノ致ス所タルヤモ計ラレズ。凡ソ此クノ如キ謬錯ハ、格外ニ属スル者ナリ、故ニ之ヲ目シテ順常ナル狀情ノ標識ナリトシ、或ハ正當ナル制督方ヲ撰定スルノ根據ト做スハ不可ナリ。蓋シ自然ニ出ツル要求ノ標識ト、順常ニ非ザル願情ノ標識トヲ辨別スルハ、該博ナル經驗ヲ要スルコトナレバ、其經驗未タ十分ナラザルニ當テハ、禁壓ニ失センヨリモ寧ロ寛大ニ失スルコソ過無キニ庶カルベシ。

食物ノ資質 〓 兒童ノ食物ハ殊ニ滋養質多量ナラントヲ要ス。大人ニ在テハ食物ノ主トシテ司ル所、消費ヲ補給スルニ在リ、然ルニ兒童ニ在リテハ尙ホ此外ニ成長ヲ増進スルノ用ヲモ爲サバカラズ、故ニ兒童ノ食物ハ大人ノ食物ニ比スレバ滋養質ノ一層多量ナラントヲ要スルナリ。幼者ニ資給スルニ粗惡ニシテ滋養質少ナキ食物ヲ以テスルノ方ハ万端ニ有害ナリ。斯ル食物ハ軀軀ヲ矮縮セシメ、或ハ其組織ノ資質ヲシテ粗惡ナラシム、是ヲ以テ健強及ヒ活潑ヲ減セザル無シ。斯ル食物ハ消化ノ作用ニ關シテ無益ニ神經ヲ消費セザルヲ得サラシム。斯ル食物ハ自餘ノ方向ニ對シテ發スル生活ノ作用ヲシテ遲々タラシメ、身體及ヒ心意ヲシテ遲鈍ナラシム。斯ル食物ハ身軀ノ基本ヲシテ甚タ虛弱ナラシメ、爲メニ身心ノ將來ニ期ス可キ力量ヲ甚タシク減少スルニ至ル。

此原理ノ証例トス可キ者ハ何レノ社會ニ於テモ多ク見ルヲ得ヘシ。平生滋養質最モ多キ食物ヲ用ル家屬ハ身軀ノ上ニ於テモ心意ノ上ニ於テモ最モ活潑ナリ。之ニ反シテ市街若シクハ田舎ニ居住シテ粗惡ナル食物ヲ常用スル人物ハ必ス皆社會ノ下等若シクハ中等ニ位セリ。素食スル人種ハ必ス下等人種ナリ、食物上等ナルニ非サレバ國ノ開明極處ニ到ラント難シ。

兒童就學スル時若シクハ勉強スル時ニハ、之ニ低劣ナル食物ヲ給スルヲ善シトスト思ヘル者、間、之レ有レド、是レ甚シキ誤ナリ。腕力ノ發作ニ比スレバ心意ノ發作ニ因テ組織ヲ消費スルヲ却テ遙ニ多量ナルモノナリ、故ニ就學勉強ノ時こそ滋養質一層多量ナル食物ヲ要スヘキ次第ナレ。久シク身體上ノ勞ヲ要スルニ勞働ニ從事シ、特ニ筋骨ノ消費ヲ補給スルニ適シタル食物ヲ常用セシ者、更ニ學業ニ就カントスルニ

臨テハ、其食物ノ資質ヲ變更セザルベカラザルヲアリ。即チ服役スル所ヲ異ニスルカ爲メ、食物ヲモ異ニシテ、今ハ神經組織ノ消費ヲ補給スルニ適シタル元素ニ富メル者ナラントヲ要スルナリ。但シ如何ナル場合ニ於テモ、從來常食トセシ所ニ比シテ各種ノ滋養質小量ナル食物ニ代フルカ如キハ決シテ爲スマジキ事タルナリ。

食物ノ分量 食物ノ分量ハ十分ナラントヲ要スル、猶ホ其資質ノ善良ナラントヲ要スルガ如シ。壯健ナル兒童ノ食慾ハ極メテ鋭敏ナルヲ世ノ諺ニモ言フ所ナリ。其成長ヲ増進セシカ爲メ、及ヒ其間斷無キ活動ニ因テ起ル消費ヲ補給セシカ爲メ、必ス多量ノ食物ヲ要スルナリ。

分量ノ場合ニ於テモ、資質ノ場合ニ於テノ如ク、直接ニ兒童ノ食慾ニ據リテ資給ノ加減ヲ量定スルヲ良策トス、父兄ノ獨斷ニ出ツル制限ノ如

キハ悉ク之ヲ排斥スヘシ。ハルバルド、スペンセル氏曰ク。

〔兒童ノ食慾ニ依頼スヘシトスル先天道理先天ハ論理ノ特立自全ノ實道
依倚セザル特立自全ノ實道
曰フハ甚タ確實ニシテ、之ヲ信用スル勿レトスル道理ハ無稽ナルノ
ミナラズ、食慾ヲ措キテハ外ニ少シニテモ信取スルニ足レル標準存
セザルナリ。兒童ノ食慾ニ代テ父母之カ食量ヲ裁斷セントスト雖
モ、其裁定ニ果シテ何ノ價格カ有ル、若シオリバー兒童尙ホ多ク食セ
ント乞フトキ、其母又ハ媒母之ヲ制止スルハ、果シテ何ノ據ル所有リ
テ此ニ出ツルモノナリヤ。彼レ思ヘ、ラクオリバーハ既ニ十分ニ食
シタリト、然レモ亦何ノ據ル所有リテ然カ思ヘルモノナリヤ。彼レ
果シテ兒童ヲ知ル不可思議ノ術アリヤ、兒童ノ身軀ノ要求ヲ看識ス
ル神通力ノ如キ者ヲ備フルヤ。若シ斯ル幻術無キナラシニハ、如何
シテカ其裁斷ノ誤ラザルヲ保スルヤ。試ニ思ヘ、人軀ノ食物ヲ要求

スルノ多寡ハ、其時其處ニ於テ甚タ繁雜ナル種々ノ原因ニ依テ變ス
ルモノナルコトヲ、即チ寒煖、及ヒ大氣ノ濕氣上并ニ電氣上ノ狀態ニ因
テ變シ、從事スル勞作演習ノ種類ニ從テ變シ、前ノ食時ニ於テ喰ヒシ
食物ノ種類資質ニ從テ變シ、前ノ食時ニ於テ喰ヒシ所ヲ消化スルノ
遲速ニ從テ異ナル者ナルヲ。彼レ如何シテ斯ク數條ノ原因ノ集合
ヨリ生スル結果ヲ商量スルコトヲ得ンヤ。其實ヲ言ヘハ、世ノ母タル
者、往々其子ノ胃臟ヲ節制シテ自ラ誤無キヲ信スルノ深キハ、取リモ
直サス、生理學ノ原則ニ暗キノ証據ト爲スヘキコトナルナリ。若シ此
輩ヲシテ更ニ深ク悟リ識ル所有ラシノハ、却テ無學ヲ謙遜スヘシ。
語ニ曰ク「知者ノ傲慢、無知者ノ傲慢ニ比スレハ、却テ謙厚ナリト」云云。
食物ノ參差 || 自然ニ出テ、偏曲無キ好惡スキ、ライハ以テ其一時ニ於テ、身
軀ノ最モ切ニ要求スル食物ノ何々タルヲ知ルニ足ル者ナリ。若シ一

種ノ食物ノミテ用非テ他種ノ食物ヲ雜ヘザルトキハ、必ズ速ニ嗜好ヲ失フニ至ルベシ、是レ體制ノ要求ニ充タス爲メニ欠乏スル所有レバナリ。又嗜好ハ消化ヲ完クセンカ爲メニモ必要ナルト多シ。幼者ノ食慾ハ大人ノ食慾ニ比スレハ一層銳利ニシテ敏捷ナリ、而シテ之ヲ満足セシムルト容易ナリト雖、亦食物鈍一ナレハ嗜好ヲ失フトモ速ナリ。夫ノ野人ガ「吾曹牛胆ヲ喰スル五十回若シクハ六十回ニ至ルニ堪ユ可シ」之ヲ常食スルト好マズト言ヒシモ、此ニ言フ所ノ通則ヲ格段ナル場合ニ應用シタルモノニ外ナラズ。サレバ食物ノ種類ニ參差アルハ嗜好ヲ失ハザルノ要狀ナリ。

食物ノ分析表ニ就テ之ヲ見ルニ、其種類異ナルニ從テ滋養質ノ上ニ著シキ差同アリ。或ル類ノ食物ハ身軀ノ組織ノ消費ヲ補給スルニ必要ナル元素ノ一二種ヲ全ク欠ケリ、是ヲ以テ若シ此レノミヲ給スルトキ

ハ、本人早晚死ニ至ルコト必然タリ、或ハ其速ナル、全ク食ヲ斷ツニ因テ死ニ至ルノ速ナルニモ異ナラザルベシ。故ニ若シ斯クノ如キ食物ヲ用非ントスルトキハ、之ニ他種ノ食物ヲ雜ヘント生存ノ爲メ缺ク可カラザル所トス。是レ亦參差ノ緊要ナル所以ナリ。

食物ハ又之ヲシテ氣候ノ變化ニ順應セシメザルヘカラザル者ナリ。寒日ニ際シテハ、體温ヲ生スルニ適シタル食物ヲ多量ニ用非ントテ要ス、サレド夏日ニ至ルニ及デハ此類ノ食物ヲ務メテ少量ニ用非サル可カラズ。冬寒ニ最モ善ク應合セル食物ノミヲ用非テ盛夏ニ至ルニ及テモ尙ホ改メザルトキハ、體温ヲシテ恰モ熱病ニ髣髴タル高度ニ達セシムルノ恐有リ。又力業^{チカララシ}ニ從事スル人ハ筋骨ヲ修補スル資質ニ富メル食物ヲ要ス、而シテ學業ニ從事スル人ハ神經質ヲ多量ニ包含スル食物ヲ要セリ。是クノ如キモ亦參差ノ必要ナル所以ナリ。

最モ善良ナル食物トイヘバ、食慾順當ナル人ノ最モ切ニ嗜ム所ニシテ、最モ多種ノ滋養質ヲ正當ナル比較ニ於テ包含スル者コレナリ。成分完全ナルニ最モ近キ食物三種アリ、即チ牛乳、牛ノ瘦肉、及ヒ大麥ノ全粒コレナリ。此等ハ自餘一切ノ食物ヨリモ久シク變更ヲ要セスシテ能ク生活ヲ保存ストイフ。

注意スヘキ警省 凡ソ何レノ地ニ於テモ、家屬ノ事情ハ種々差同アルモノニシテ、從テ此等ノ事情ニ因由スル生徒ノ習慣モ亦甚タ相違スルコト多シ。其或ル者ハ滋養ニ富メル食物ヲ十分ニ且ツ色々調合シテ常用ス、故ニ全体ノ體格強壯ニシテ、凡ソ其年齒ニ稱ヘル事業ニハ堪エズトイフコト無シ。之ニ反シテ或ル他ノ生徒ニ至テハ、食物ノ支給十分ナラズ、從テ其神經活潑ヲ缺キ、其筋骨強健ヲ缺ケリ。是ノ故ニ教師タル者、後者ニ負荷セシムルニ、前者ニ負荷セシムルト同一ノ事業ヲ以

テスルハ、不正ヲ免レズ、又學業及ヒ行狀ニ關シテ兩者ノ賞罰ヲ同様ニスルモ均シク公平ヲ失スルノ患無キヲ得ス。故ニ若シ教師孰レノ生徒ニ對シテモ公正ヲ失セズシテ最上ノ成功ヲ致サント欲セバ、須ク各一個ノ生徒ノ事情及ヒ習慣ヲ親シク洞察シテ、十分ニ斟酌ヲ加ヘ、辨裁ヲ密ニスヘキナリ。

喫食ノ時期 食ヲ取ルニ時期ヲ一定シテ、之ニ違ハザルハ、健康保全ノ爲メ緊要ナル素因ノ一ナリ。胃臟モ肺中自餘ノ諸臟器ト同様ニ、時々其勢力ヲ回復セシメ、要スル者ナレバ、發動ノ後ニハ必ス休息ノ時間有ラシメザル可カラズ。若シ絶エズ食物ヲ入レテ斷エズ之ヲ刺激スルトキハ、發動遲滯シテ、消化ノ用ヲ爲スコト不完全ナルニ至ルヘシ、然ルトキハ影響全身ニ及ヒテ、心身ノ機制ヲ錯亂スベシ。食ニ就クヘキ時間ヲ精密ニ定ムル規則ノ、何人ニモ適應スヘキ者ヲ設

定セシト到底難シ。然リト雖ヒ左ニ記スル原理ノ如キハ十分確定ニ至リタル者ト謂フ可ク、且ツ各自ノ時期ヲ定ムル所以ノ規矩ト爲スニ足レリ、曰ク

(一)就食ノ度數ハ空腹ヲ満足セシムルニ至ルヲ以テ制限トスヘシ、然レトモ常ニ定規ヲ定リテ之ニ違フベカラズ、且ツ消化ヲ完全ニシ及ヒ胃臟ヲシテ發動ノ疲勞ヲ十分ニ回復シメシカ爲メニ、每一回ノ後ニ十分ノ時間ヲ經テ再ヒ業ニ就クヘシ。

(二)幼者ハ就食ノ度數大人ヨリモ多カラシキヲ要ス、而モ定規ヲ守ルノ緊要ナルト大人ニ異ナラズ。

(三)一度喫食スルヨリ再度喫食スルマデノ時間ハ、氣候、職業、健康等ノ狀情相同シカラザルニ依テ異ナルベシ。

(四)寢ニ就ク前ニ多食スルノ習慣ハ有害ナリ、然レヒ空腹ノマ、ニテ睡

眠セシヨリモ寧ロ少量ノ食物ヲ胃ニ充テオクヲ善シトス。

(五)在學ノ兒童及ヒ就中其稍幼稚ナル者ハ、午餐西洋ノ午餐午後二時ナリ、ノ時到ル

ノ前ニ食ヲ要スルコトアリ、故ニ其爲メ別ニ時ヲ定メオクヲ善シトス、然レヒ時ヲ定メズ食シ、或ハ絶エズ食スルヲ免スハ不可ナリ。

喫食ノ作法 || 喫食ノ作法ハ須ク除々ナルベシ。消化ヲシテ完全

ナラシメント欲セバ、咀嚼ヲシテ完全ナラシメザル可カラズ。完全ナル咀嚼ニ必要ナル筋骨ノ發作ハ唾腺ヲ刺撃スルユエ、唾液流出ス、而シテ唾液ハ管ニ食物ヲ整滑シテ通下ヲ平易ニスルノ効アルノミナラズ、又消化ノ上ニ於テ緊要ナル官能ヲ司トル者ナリ。是ヲ以テ若シ、喫食急速ニシテ咀嚼十分ナラザルトキハ、唾液ノ流出ニ不足ヲ生シ、從テ胃臟ヲシテ消化ノ爲メ勞役セシムルコト適度ナルニ至リ、疲勞ヲ來シ、疾病ヲ致スヘシ。

忠告數條

|| 身體若シクハ心意ノ勞作ニ因テ軀軀疲勞スルトキ食ヲ喫スレバ害アリ。斯ル時ニハ先ツ暫時休息シ、活力ヲシテ相當ノ度量ヲ回復スルノ暇有ラシムヘシ、然セザルトキハ食物消化セスシテ久シク胃中ニ停滯シ、或ハ胃ノ全ク拒絶スル所ト爲リテ、嘔吐スヘシ。又既ニ食ヲ喫シ了リタルトキハ、再ヒ業ニ就クノ前ニ、暫ク時ヲ措テ消化ヲ完クスベシ。完全ナル消化ハ必ス幾分ノ活力ヲ要スルモノナリ、故ニ若シ活力ヲ筋骨又ハ心意ノ作用ニ轉用スルトキハ、爲メニ消化ヲ遲滯セシメ、或ハ全ク止息セシムルニ至ルナリ。是ヲ以テ喫食ノ後ハ暫時休息シテ、全ク何事ヲモ爲ササルヲ善シトシ、午餐ノ後ハ特ニ然リトス。馬匹ヲ飼養スル事ニ關シテハ、人皆既ニ能ク斯ル原理ヲ了解セリ。若シ馭驅時ヲ移シ、馬匹疲勞スルニ臨テ、直チニ之ニ飼食ヲ給シ、或ハ飼食ヲ給スルノ後直チニ之ヲ苦役ニ附シ、又ハ疾驅セシムル人有ラ

バ、識者ノ目シテ凡智ヲ缺ク者ト做ス所ト爲ラン、況ヤ人類ニ於テチヤ、必ス同一ノ理法ヲ遵奉セズンバ有ルベカラズ。就中世ノ教師タル者ハ能ク此理法ヲ認識シ、生徒ヲシテ喫食ノ後直チニ疲勞ヲ要スル心意ノ方作ニ就カシムルコト有ル可カラザルナリ。

飲料ノ功用

|| 相當ノ分量ヲ守テ適宜ノ時期ニ湯水ヲ飲ムハ、生活ノ爲メ必要ノ事トス。飲料ハ乾キタル食物ヲ潤シテ消化シ易カラシメ、或ハ又身軀ノ發汗ニ因テ消費スル所ヲ補給スルノ功アリ。消化ニ必要ナル飲料ノ分量ハ食物ノ資質、天氣ノ温度、及ヒ勞働ノ多寡ニ依テ異ナリ。世ノ生理學書ノ著者ハ大抵皆喫食ノ際、多量ノ湯水ヲ飲ムノ習慣ヲ目シテ有害ナリトセリ。喫食スルト同時ニ湯水ヲ飲ムコト多量ナルトキハ、咀嚼未タ十分ナラザル前ニ食物通下スルノ難アリ、且ツ消化ヲ完全ニスルニ必要ナル分量ノ唾液ノ流出ヲ障グ。又喫食ノ終ニ

臨テ多量ノ流動物ヲ胃中ニ下タストキハ、胃液之ト混シテ稀薄ニ成ルガ故ニ剩餘ノ分ヲ汲收シ了ルマテ消化遲延スヘシ。概シテ言ヘバ、喫食ノ終ニ至リ分量ヲ節制シテ湯水ヲ飲ムヲ以テ最モ善キ規則ト爲スヘキニ似タリ。

何時ニ限ラズ不規則ニ湯水ヲ飲ム習慣ノ有害ナルハ、猶ホ不規則ニ喫食スル習慣ノ有害ナルガ如シ。是レ決シテ身軀ノ眞實ニ要求スル所有ルニ應スルモノニ非ラズ、從テ許容スヘキ事ニ非ザルナリ。氷水若シクハ甚タ冷寒ナル水ヲ多量ニ飲ムトキハ、胃中ノ溫度ヲ減少シ、適宜ノ溫度ヲ回復スルニ至ルマデ、消化ヲ障止スルカ故ニ有害ナリ。兒童ノ學校ニ在ル間ハ教師ニ於テ其飲吸ヲ節度スルコト甚タ容易ナリ。天氣溫暖ナル日、及ヒ活潑ナル運動ニ依テ發汗シタルノ後ニ當テハ、水ヲ飲ムコト殆ト必要ナリ。概シテ言ヘバ、此ニ枚舉スル事情ヲ酌量シ、之ニ

依テ時期ヲ定メテ、油水ヲ餘ムコトヲ許スヲ善シトス、而シテ其餘ノ時間ニ於テ飲汲スルコトノ如キハ、學校ノ秩序ニ戻リ、一般ニ生徒ノ氣習ヲ調理スルノ路ニ害アル者トシテ禁遏ヲ加フベシ。然リト雖モ亦此制規ヲシテ必ス撓メ難キノ定則ヲフシムルハ良策ニ非ズ、何トナレバ、元來飲食ノ如キハ人ト場合ニ依テ要求スル所多少異ナル無キヲ得サル者ナレバ、生徒ヲシテ各自其己レノ要求スル所ヲ會得シテ之ニ從フノ自由有ラシメザル可カラサルバナリ。

有害ナル飲料

今日ノ如ク世ノ人皆自身又ハ社會ノ上ニ生スヘ

キ結果ノ如何ヲ顧ミズシテ飲慾ヲ恣ニスル時代ニ在リテハ、何々ハ避クヘク、何々ハ用井ヘキヤヲ究定センコト甚タ緊要ナリ。氣候我カ米國ノ如クナル土地ニ於テハ、亞爾箇兒質ノ酒類ヲ嗜好物トシテ用井ルノ習慣ハ弊害些少ナラズト云フコト既ニ確論ト謂ッ可シ。其弊害タル、一

ツニハ飲ム人ノ心身全体ノ健壯ヲ損ヒ、二ツニハ其劣情ヲ養成シ劣情發勃スルカ爲メ又益飲慾ヲ激クシ、三ツニハ活力ヲ轉シテ殆ト全ク情慾ヲ逞スルノミニ費用スルニ至ラシメ、四ツニハ高尙ナル諸能力ノ修練ヲ怠リテ出精ノ道ニ迂ク、親族及ヒ社會ニ對スル義務ニ關カラシム。飲酒ノ癖ヨリシテ續々相次テ生スル弊害ハ極メテ大ナルニ反シテ、之ニ因テ生スト言フナル利益ハ其眞ナラサルヲ最モ疑フ可ク、且ツ佞令眞ナリトスルモ最モ輕少ナレバ、斯ル習慣ヲ養成スルハ取リモ直サズ活體及ヒ神靈ノ安全ヲ殄滅スルノ所爲ナリト謂フ可シ。且ツ夫レ此問題ハ教育家ノ直接ニ與リ關スル所タリ。如何ナル教育ノ統系ニモ、セヨ、此事ヲ忽棄シ、或ハ酒類ヲ常用スル事ノ心身ニ有害ナル所以ニ關シ生徒ヲシテ半信半疑ノ中間ニ立タシムル者ハ、一概ニ之ヲ目シテ不完全ナリトスルモ正當ヲ缺カザルナリ。

教師タル者少シク心ヲ用井ルトキハ、間接ノ舉動ニ因テ此事ニ關シテ甚タ有益ナル公益心ヲ偶然生徒ノ間ニ發生セシムルヲ得ヘシ。諸方ノ公立小學校ノ生徒ノ中ニ於テ、酒味ヲ愛シ、或ハ既ニ飲酒ノ癖ニ陥リタル者ハ、甚タ稀ナリ、且ツ却テ自然ニ醉酩ヲ嫌忌スル念ノ堅牢ナル者彼等ノ間ニ存スルヲ見ルヘキニ似タリ。故ニ若シ此機ニ乘シテ時々訓戒ノ語ヲ加ヘ、間接ニ飲酒ノ有害ナル所以ヲ説キ示シタラシムニハ、嫌惡ノ念ヲシテ一層強烈ナラシムルヲ得ヘク、終ニハ血氣盛ナル比ニ至リ誘惑最モ急激ナルニ逢ヒテモ、終始能ク持重シテ陷沒無カラシムルヲ得ベシ。又稍、高等ノ科級ニ登リタル生徒ニ至リテハ、一層直接ナル方策ヲ施スモ可ナリ。即チ生理學ヲ教授スルノ際ニ、時々此事ニ涉リテ亞爾箇兒質物ノ、神經及ヒ身體ノ組織ニ及ホスヘキ結果ヲ十分ニ説明スヘシ。又普通ノ作文科ニ於テモ道德上ノ疑問及ヒ行狀ノ

規律ニ關シテ論說ヲ綴ラシムルトキ、陋惡ナル習癖ヲ養成スルニ因テ
 間接ニソノ道德ヲ害スルコトノ多キ所以ヲ知ラシムヘシ、即チ或ハ他人
 ノタメ不良ナル儀範ヲ示スニ因テ之ヲ害シ、或ハ自己ノ本分ヲ完クス
 ルノ能力ヲ減スルニ因テ之ヲ害シ、或ハ賤劣ナル性癖ヲ獎勵スルニ因
 テ之ヲ破ル等ノコトヲ示スベシ。此習癖ハ又自身ノ負荷スヘキ養育ノ
 任等ノ子ヲ社會ニ負擔セシムルニ至ルニ於テモ直接ニ道德ヲ破ルコト
 成ルノ理由ヲ説明スヘシ。之ヲ要スルニ、亞爾箇兒質ノ酒類タル、之ヲ
 用井ルノ分量如何ヲ問ハズ、決シテ善果ヲ生スルコト無ク、却テ惡事ヲ生
 スルノ危難ハ最モ多キ者ナレハ、初メヨリ斷然之ヲ避クルノ安全ナル
 ニ如カストノ意ヲ十分ニ了解セシムベキナリ。

烟草

烟草ハ食物ニ非スト雖モ、此序ニ之ヲ用井ルノ不可ヲ論ス
 ベシ。烟草モ亞兒箇兒質ノ酒類ノ如ク、人造ノ刺撃物即チ麻醉質ノ毒

劑ニシテ、壯健ナル人ニハ更ニ善功無ク、必ズ惡弊有ル者ナリ。世人ハ
 普通ニ之ヲ用ユト雖モ、是レ決シテ人類一般ノ活躰ニ要求スル所有ル
 ニ應スルモノニ非ズ、其證據ニハ、婦女子ノ如キ、人類總數ノ半ニ居ルト
 イヘドモ、之ヲ用井ル者甚タ僅少ナリ、且ツ世代ヲ追テ減少セントス。
 烟草ヲ用井ルコト一旦習癖ト成ルトキハ、之カ爲メニ身躰ノ諸官能ヲ
 錯亂スルノ甚シキ、遂ニハ茲ニ一種ノ激烈ナル願情ヲ起シ來リテ、烟草
 ヲ以テスルニ非サルヨリハ之ヲ満足セシメ難キニ至レリ、是レ第一ノ
 弊害ナリ。第二ニハ躰中二三種ノ泌別物ヲシテ、其正當ナル機關ヨリ
 出テズシテ、轉シテ唾腺ニ入テ口中ヨリ流出セシムルニ至ル。第三ニ
 ハ不潔ナル習慣ヲ生シ、又呼吸ニ惡臭ヲ生シテ他人ニ對スル禮節ヲ缺
 クニ至ル。第四ニハ費用ヲ増シ、多クノ場合ニ於テハ現ニ本人又ハ其
 家族ノ貧困ヲ招クニ至リ、孰レノ場合ニ於テモ必ス同類ノ資財ヲ以テ

之ニ比スレバ更ニ善良ナル事物ニ轉用スルヲ得サラシム。サレバ本人ニ對スル關係ヨリ言フモ、社會ニ對スル關係ヨリ言フモ、子孫ニ對スル關係ヨリ言フモ、最モ忌ムヘキノ犯罪ハ、吸煙ノ癖ナリ、故ニ一切ノ正當ナル方法ヲ用ヰテ之ヲ禁遏セサル可カラサルナリ。

教師ノ氣習

誰レニマレ自身ニ激烈ナル酒類モシクハ煙草ヲ用ヰルノ性癖アル者ハ、躬ヲ教師タルノ任ニ當ラントスルノ非ナルヲ論ヲ待タズ。其示ス所ノ儀範ハ惡習ヲ傳播スルノ勢、最モ強キモノナレバ、他ニ何如バカリ注意シテ道德上ノ教訓ヲ授クル所有リトモ、此一事ノ爲メニ全ク其功ヲ失ヒテ、尙ホ多クノ弊害ヲ遺スニ至ラソ。大体ヨリ言フトキハ、會、學識ハ有リトモ身心全体ノ調治ヲ紊リ一生ノ力量ヲ縮ムルヲ斯クマテ甚タシキ性癖アル人物ニ比スレバ、假令通常ノ學科ニハ通セズトモ斯ル惡習無キ人物コソ、却テ貴重スヘキニ似タリ。』

此習慣社會一般ニ流行シ、醫師、代、言、人、政治家ハ言フモサラナリ、甚タシキハ「福音」ノ傳教師ニ至ルマテ、自ラ儀範ヲ示シテ之ヲ贊成スルノ今日ニ在リテハ、教師タル者、勉メテ「自然」及ヒ「神明」ノ其手ニ授ケシ「一切」ノ手段ヲ用ヰテ之ヲ革除センヲ最モ緊要ナリ。其此事ニ關シテ施ス教訓及ヒ感化ハ、清淨ト慈悲トヲ天下ニ布揚スル真正聖差ノ業タル可キコト疑チ容レサルナリ。

◎温煖

身躰上ノ幸福ヲ増進スルノ効力物ニシテ、次ニ論及スヘキハ、温煖コレナリ。人體ノ温度ハ必ス之ヲシテ一定ノ狹隘ナル制限内ニ留止セシメサルベカラズ、若シ此制限ヲ越エ、或ハ之ニ及ハザルトキハ、甚シキ禍害アリ。温煖ニ體內ヨリ發スル者ト、體外ヨリ受クル者トノ二種アリ、内温體温ハ活力食物ノ上ニ發動スルノ結果ナレバ既ニ

食物ノ條下ニ於テ大概ヲ論究シタリ、然レモ外温ノ本源、度量、及ヒ要狀ニ至リテハ、尙ホ精密ニ論辨センコトヲ要スヘシ。四季トモニ大氣ノ温度殆ト一樣ニシテ、且ツ身體ノ温度ニ能ク順合スル國土ニ於テハ、深ク此事ニ法意スルヲ用ヰズト雖モ、米國ノ如ク氣候極寒極暑ノ間ニ變化スル境域ニ在テハ、身體ノ温度ヲシテ大氣ノ温度變化スルニ際シテモ殆ト一樣ナラシメシコトヲ計ルニ非サルヨリハ、獨リ健康ニ害アルノミナラズ、亦生活ヲ保存スルコトスラモ難カラントス。人工ヲ以テ温暖ノ一樣ヲ保持スルノ方策ニ三種アリ、曰ク衣服、曰ク家屋、曰ク人工ヲ以テ温暖ヲ採ルノ諸法コレナリ。

衣服 凡ソ衣服ノ用ハ、季ニ依テ相同シカラズ、夏ハ外部ノ暑氣ヲ遮蔽センガタメ之ヲ要シ、冬ハ身體ノ温暖ノ射出神速ニ過クルヲ豫防センガタメ之ヲ要ス、サレバ衣服ヲシテ斯ク相同シカラサルノ用ニ適

セシメント欲セハ、季ニ從テ其物質、其分量、其染色ヲ變更セサル可カラズ。夏衣ハ空氣ノ流通ヲ自由ニシ、且ツ寧口温暖ヲ反射ストモ、之ヲ汲収スルコト無キ者ナラシメサル可カラズ、而シテ此等ノ目的ヲ達スルタメニハ、物質疎薄ニシ、テ染色淡白ナラシメテ要ス。冬衣ハ全体ヲ掩蔽シ、就中四肢ヲ善ク被覆シテ、寒氣ヲ障屏スル者ナラシメザルベカラズ、而シテ此等ノ目的ヲ達センカタメニハ、分量十分ニシテ、且ツ物質容易ニ温暖ヲ傳達セザル者ナラシメテ要ス。

衣服ニ供ス可キ物質 經驗ニ因テ之ヲ觀ルニ、色淺キ綿布ト麻布トハ、夏衣ト爲スニ最モ善ク適當セルモノ、如シ、之ニ反シテ、質厚ク、色濃キ毛織類ハ冬衣ト爲スニ最モ善ク適當セルモノ、如シ。木綿又ハ麻苧ノ織素ヲ扭リテ織ルトキハ、善ク温暖ヲ傳達スルノ布疋ト成レリ、故ニ此類ノ布疋ヲ以テ衣服ヲ製スルトキハ、外氣ノ温度體中ノ温度ヨ

リモ低キニ際シテ、必スイツモ涼冷ヲ覺ユヘシ。然リト雖也直接ニ大陽ノ光線ヲ受クル處ニ在テハ、此クノ如キ布疋ハ十分ノ庇護ヲ爲サズ、是ヲ以テ夏日綿布モシクハ麻布ヲ着用スル人ハ、必ス別ニ日光ヲ遮蔽スルノ具ヲ携フヘキナリ。又棉麻ノ織素ヲ扭ラサルマ、ニ薄キ布疋ノ内ニ包ミテ蒲團ノ如キ物ヲ製スルトキハ、多量ノ空氣ヲ含ムニ因リテ、温熱ヲ導達スルヲ遲シ、從テ體温ノ射出ヲ遮止シテ寒冷ヲ防禦スルノ具ト成レリ。毛類ハ温熱ノ導達遲キモノナルヲ以テ、寒氣ヲ防禦スル所以ノ衣服ヲ製スルニ最モ善ク適當セリ。毛織ノ衣服ハ又或ル製造品ニ於テノ如ク、猛烈ナル外氣ノ温熱、若シクハ急突ナル温度ノ變化ニ際シテ、身體ヲ保護スルノ資ニ供スルヲチモ得ヘシ例ヘバ「フ」ヲ以テ夏衣ヲ製スルノ類ハシ

衣服ノ食物ニ對スル關係 || 食物ハ内温ノ本源ナリ衣服ハ内温ヲ

保持シ節制スル所以ノ具ノ主要ナル者ナリ。是ルカ故ニ衣服不足スレバ温氣ノ消費多ク、温氣ノ消費多クレバ從テ其供給大ナラント要シ、温氣ノ供給大ニセンガタメニハ、食量ヲ増加セント要セリ。總明ナル農業家ハ此原理ヲ了解スルユエ、其牛羊ヲ飼ヒ置ク處ヲ温暖ニシテ以テ之カ食量ヲ減省スルノ策トセリ。冬天ニ戶外ニ出テ、身ヲ寒風ニ曝ス人ハ、室内ニ坐スル人ニ比スレバ、多量ノ食物ヲ要スヘシ。又兒童ノ衣服不足スル者ハ、最モ多量ノ糧食ヲ要スルモノナリ、是ヲ以テ貧困ニシテ食物不足スル輩ハ、是レ却テ食物最モ十分ナラント要スル者タルコト、不幸ナル次第ト謂フ可シ。一方ニ於テハ食量ヲ少ナクシナガラ、又一方ニ於テハ衣服ヲ薄クスルトキハ、其結果タル必ス、活カチ減スルノ外有ラス。

温度ノ變化 || 天氣ノ變化スルニ逢ヒ、或ハ温暖ナル房室ヨリ寒冷

ナル戶外ニ出ツルトキハ、必ス急突ナル温度ノ變化ニ遭遇スルモノトス。斯ル事ニ遭遇シテ温度急突ニ下落スルトキハ、必ス感冒アリ、然ルトキハ、爲メニ皮膚ノ毛孔閉塞シテ微細ナル發汗ヲ遮蔽シ、皮膚ノ排泄物ヲシテ生活ノタメ貴重ナル機關ノ上ニ凝滯セシムルニ至レリ。是レ即チ風邪ト稱スル錯亂ノ原因ニシテ、其害タル、最モ嚴重ナル病痾ヲ來タシ、或ハ爲メニ一命ヲ殞スニ至ルヲアリ。是ヲ以テ此感冒ヲ防禦セシカ爲メニハ温度ノ變化ニ順應シテ衣服ヲ變更スルニ十分ノ注意ヲ施ス一專一ナリトス。則チ温室ヲ出テ、寒氣ニ觸レントスルトキハ、十分ナル外服ヲ着用セザルベカラズ、而シテ又歸リ來テ温室ニ入ラントスルトキハ、必ス之ヲ脱セザル可カラズ。氣候不順ニシテ一定セザル時ニ際シテハ、「フロンチル」ノ襦袢ヲ着用スルヲ善シトス、「フロンチル」ハ會極メテ温暖ナル日アリ、或ハ一日ノ中甚タ温暖ナル時アルニ際

シテハ、稍不快ノ感ヲ生スルヲ有ルベキモ、急突ノ感冒ヲ完全ニ豫防スルニ足ル者ハ之ヲ措テ亦有ル可カラザルナリ。

衛生上ノ忠告

—— 冬月ニ際シテハ、深ク注意シテ四肢ヲ被覆シ、以テ

之ヲ寒氣ニ曝サザランコトヲ務メザルベカラズ。被覆ヲ完クセンカタメ缺ク可カラザル者ハ、十分ナル襦袢ト、厚ク温ナル靴履トコレナリ。女兒ハ男兒ニ比スレハ着服温暖ナラザルヲ常トス、從テ身ヲ寒氣ニ曝スヨリシテ禍害ヲ被ルコト男兒ヨリ多シ。此弊害ハ務メテ之ヲ除カサルベカラズ。生徒運動シテ五體發熱スルトキハ、風陣ノ至ル處、若シクハ寒冷ナル處ニ坐セシムルコト不可ナリ。生徒ヲシテ寒日ニ運動セシメタル後ハ必ス温暖ナル室内ニ休息セシメ、或ハ直チニ衣服ヲ添増セシメサル可カラズ。

授業モシクハ勉強ニ際シテ生徒ヲ坐セシムル室内ノ温度ハ、常ニ一樣

ニシテ、凡ソ七十度内外ナルベシ。全級ノ生徒ヲシテ運動ニ從事セシムル時ニ際シテハ、温度遙ニ低キモ妨ケ無シ。濕氣ハ務メテ之ヲ防カサルヘカラズ。生徒セシ途上ニ於テ雨ニ逢ヒテ、衣服潮濕スルトキハ、必ス直チニ之ヲ乾カサシムヘシ、仮令ソレカ爲メ授業ノ秩序ヲ動カサントテ要スルニ至ルトモ、敢テ顧ミル所無カルヘキナリ。

家屋 —— 家屋ハ庇蔭ト温煖トノ爲メニ建築スル所ノ者ナリ、是ヲ以テ其形様、構造、及ヒ材料ハ明智以テ之ヲ營畫セントテ要スヘキモノトス。然ルニ世ノ校舍ヲ築造スル者ハ、唯タ節儉ノミ是レ事トシテ、往々吝嗇ニ流ル、ハ何事ソヤ。校舍ヲ築造スルニ於テ目的トスヘキ所ノ者ハ、吝嗇ニ非スシテ、生徒ノ健康ト、易安ト、便利ト、構造ヲシテ十分其用ニ適合セシムル事トコレナリ。然ルニ費用ヲ節約セントスルノ念ヨリ、往々此等ノ目的ヲ忽忘シテ外觀陋醜、構造粗荒、裝飾鄙野ナルカ上ニ、

寒冷ヲ防禦スルコト十分ナラサル屋宇ヲ築造スルニ至レリ。又易安、便利ハ言フニ及ハズ、甚シキハ健康ノコトマテモ度外ニ置キテ、極メテ狹隘ナル教場ヲ造リ、爲メニ生徒ヲシテ甚タ相接近シテ着坐セザルヲ得サラシメ、心情不易ヲ覺エ、運動自在ナラサルガ上ニ、空氣ノ供給太タ不足スルモ顧ミザルナリ。

必要ナル憶度 —— 先ツ第一ニ校舍ノ建築ヲ善良ニシ、以テ一方ニ於テハ直接ニ學生ノ利益ヲ計リ、又一方ニ於テハ其永存シテ却テ節儉ノ理ニ合ハントテ計ラザル可カラズ。構造善良ナル屋宇ハ、材料工作粗惡ナル者ニ比スレバ、初メ之ヲ建築スルノ費用コソ稍、大ナルベケレ、後ニ至リ速ニ且ツ屢、修復ヲ要スルコト無キカ上ニ、存立ノ年月モ遙ニ長カルヘシ。凡ソ粗惡ナル事業ニ依テ真正ノ節儉ヲ遂ケ得ヘキ場合ハ決シテ無キモノトス。石又ハ練瓦ノ壁ハ木板ノ壁ニ優レリ、何トナレバ

能ク永存シテ夏ハ涼シク、冬ハ温ナレバナリ。若シ又木ヲ以テ壁ヲ造ルトキハ、必ス紙ヲ以テ風雨板ノ下邊ヲ被ヒ、或ハ粘土ヲ以テ其内部ヲ塗リテ極寒ノ防禦ニ供ヘサルベカラズ。基壁ノ如キモ構造ヲ周密堅牢ニシ、以テ常ニ地板ヲシテ温煖ナラシメノコトヲ計ルヘシ。

校舍ハ十分ニ廣濶ニシテ生徒各名ニ別々ノ坐ヲ給スルニ足リ、且ツ生徒及ヒ諸級ノ運動ヲ自在ニ完全ニシテ、互ニ障支スルコト無カラシムルニ足ル者ナルベシ。教場モ亦裝置ヲ運轉シ、博物學科ノ標品ヲ研究シ、且ツ稍、幼稚ナル生徒ヲシテ相別レテ遊戯ニ就カシムルニ足ル者ナラザルベカラズ。空氣ノ爲メニ有要トスル面積及ヒ採温ノ方策ノ事ハ通氣ノ條下ニ讓ル。

◎光明 —— 校舍ノ構造ニ於テハ光線ノ布置ヲシテ宜シキヲ得シム

ルコト最モ緊要ノ一事ト做ス。窓ハ成ル可ク大ナルヲ善シトス、若シ之ヲ大ニスルコトヲ得スンバ、必ス其數ヲ多クシテ、數箇ヲ同處ニ集ムベシ。小キ窓ヲ甚タ相隔タレル一定ノ距離ニ排置スルトキハ、明線晦線相交リテ井然畫立シ、光明動搖シテ、爲メニ眼ヲ痛マシムルニ至ルヘシ。大窓ヨリ光明ヲ容レントスルトキハ、内部ニ窓蓋ヲ設ケ、上下左右開閉ヲ自在ニシテ、日ノ晴曇ニ順ヒ光線ノ分量ヲ節制スルノ用ニ供スルヲ善シトス。

光線ノ方向 —— 單ニ教場ノ一方ノミヨリ光明ヲ容ル、ヲ以テ、他ニ

比スレバ遙ニ上策ト做ス。若シ一方以上ニ窓ヲ設ケザルヲ得サル場合アレバ、必ス窓蓋ヲ設ケテ、必要ト認ルトキ、一方ノ光明ヲ全ク遮蔽スルノ用ニ供スベシ。光明ヲシテ相横斷セシムルコト、即チ一方ノ窓ヲシテ他方ノ窓ト直角ヲ畫セシムルコトハ、必ス避ケザル可カラズ。窓ノ布

置若シ斯クノ如クナルトキハ、光明相異ナル方向ヨリ相異ナル度量ヲ以テ來リテ眼ヲ射ルユエ、到底結合シ難キノ事情ニ強テ順應セントシテ罷マザルニ因リ、眼ノ筋骨疲倦シ官能錯亂スベシ。

窓ヲ生徒ノ面前ニ置クヲ決シテ有ルベカラズ。嗚々光明直接ニ眼ヲ射テ間斷アル能ハサルトキハ、心中不易ヲ感シテ、視力ニ害アリ。光線眼球ヲ射撃スルガ上ニ、書籍ノ表面ニハ陰影ヲ生スルユエ、却テ最モ喜シトスル所ニ反對セル形狀ヲ生スルナリ。

室内ニ生徒ノ坐ヲ排置スルノ法ハ、生徒ノ左ヨリ多量ノ光線ヲ射入セシメ、且ツ種々ニ之ヲ折曲散布シテ、深淵ナル陰闇ヲ生スル處無カラシムルニ適シタル者ナラシムベシ。斯ク接置スルトキハ、書籍ノ紙面ヲ十分ニ彰明スルヲ得ヘク、且ツ生徒ノ雙眼ヲ半ハ遮陰シテ手頭ノ陰影ニ因テ書寫ヲ障礙スルヲ無カルベシ。

視力不具

光線ノ排布ニ注意シテ宜シキヲ得シメザルトキハ、其弊タル、往々生徒ノ視力ヲ損害スルニ至レリ。日耳曼ノ高等ナル學校ヲ審査センカ爲メニ選任シタル委員ノ近比ノ報告ヲ見ルニ、生徒ノ視力不具ニシテ、其原因ヲ直チニ光線排布ノ不當ナルニ歸スヘキ者、每百人中三十六人ノ比例ヲ做スト言フ。斯クノ如キ結果ハ光線ノ十分ナラザルヨリ來タル者アリ、光線過多ナルヨリ來タル者アリ、光線橫斷スルヨリ來タル者アリ、光線面前ヲ射撃スルヨリ來タル者アリ、光線不定ナルヨリ來タル者アルベシ。凡ソ窓ヲ設クルノ法ハ、之ヲシテ宜シキヲ得シムトモ、然セズトモ、敢テ難易ノ差同無キモノナリ、而シテ光線ヲ正當ニ調理センカタメ更ニ費用ヲ要スル者ト言ヘバ、只タ内部ノ窓蓋ヲ造ル事ノ外ニ出テザルナリ。日光直接ニ教場ニ射入スルハ、生徒健康ノ爲メ甚タ賀スベキトス、但タ窓蓋ヲ以テ之ヲ適宜ニ料理シ緩和

セノコヲ要スルノミ。

◎空氣及ヒ通氣

室内通氣ノ事ハ、空氣ヲ通スル事ト、人工ヲ以テ温氣ヲ探ル法トニ關スル一切ノ考案ヲ包括ス。國中各所ノ學校ニ於テハ、全ク教場ノ通氣ニ注意セズ或ハ其注意最モ不足スル者、十中ノ九ニ在リ、是ヲ以テ管ニ教育ノ功力ヲ減スルニ於テ失フ所有ルノミナラズ、又種々ノ疾病ヲ生スルニ於テ正面ノ害アリ。此弊タル、實ニ恐ルベキ者ニシテ、又殆ト避ケ難キ所ナレバ、教師及ヒ其他學校ノ事業ニ關與スル人々ハ殊ニ深ク注意セサル可カラス。

不淨空氣ノ本源

風ノ流通自由ナル處ニ於テ存スル空氣ノ大塊ハ清潔ナリト做スベシ。戶外ノ汚氣ハ主トシテ燃燒、滯水、及ヒ腐敗セル動植物質ニ由テ來ルモノトス、此等ノ源因ヨリシテ國中ノ廣大ナル

境域ニ泥沼氣毒ノ害ヲ及ホスコト亦少ナシトセズ。然リト雖モ、風ハ一大洗氣機ナルヲ以テ、有害ノ瓦斯類生ズモ又直チニ之ヲ霧散セシムルヲ常トス。泥沼多キ地方タリト雖モ、絶エズ之ニ因テ毒氣ヲ生スルニ非ザリセバ、速ニ變シテ健康ノ地方ト成ランコト難キニ非ザルベシ、且ツ實際毒氣ノ浸染スル所ト爲レル空氣ハ、平地ヲ去ルコト僅々數尺ノ中ヲ出テズト云フ。

戸内ノ空氣

室内ニ在テハ空氣ノ状態、戶外ト甚タ異ナリ。雨露

寒暑ヲ防クニ必要ナル障壁及ヒ天井ハ流通ヲ遮蔽スルガ爲メ不淨空氣ヲシテ内ニ積聚セシム。此不淨空氣ハ燃燒炭薪等ト室内ニ在ル人ノ呼吸、及ヒ微細發汗ニ原因スル者ニシテ、炭酸瓦斯ト動物排泄質トヲ包含ス、是レ兩ツナガラ少量ニシテ尙ホ且ツ健康ヲ害スルモノナリ。若シ空氣閉塞スル所ニ於テ呼吸スルコト永キニ及ブトキハ、炭酸ノ分量

次第ニ増加スルガ爲メ遂ニ死ニ致スコトアリ、而シテ細微發汗ニ依テ排
泄スル汚物甚タ積聚スルトキハ、空氣極メテ不淨ニ成リテ、殆ト堪エ難
キニ至レリ。

遵守スベキ條款 〓 通氣ノ事ニ關シテ答釋スベキ疑問ハ室ノ各部

ニ一様ノ溫度ヲ生シ且ツ保チナガラ、之ト同時ニ通氣ヲ十分ニシテ、空
氣ノ清淨ヲ失ハザルノ法如何ト云フニ在リ。是クノ如キ結果ヲ生ゼ
ンカタノニハ、採温ニ必要ナル勢力ヲ以テ直チニ轉シテ通氣ノ用ニ供
セソコト計リ、通氣機ト採温機トヲ結合シテ此目的ヲ達スルノ効力最
モ大ニシテ且ツ費用最モ小ナル者ヲラシメザルベカラズ。

温暖ノ配布 〓 温暖ヲ室内ニ配布スル所以ノ勢力ニニアリ、即チ温

體薪炭等ノ如キノ外面ヨリ直接ニ射出スル所ト、温暖ナル空氣ノ旋流ト是レ
ナリ。單ニ射出ノ一ノミニ由ルトキハ、室内ノ部分異ナルニ依テ温暖

ノ供給ニ甚タシキ差同チ生シ、煖爐ニ近ク坐スル生徒ハ煖ニ過キテ不
愉快ヲ感スルニ反シテ、最モ遠ク坐スル生徒ハ寒ニ過キテ不愉快ヲ感
ズ。温氣温氣ル煖煖ナハ昇リ、冷氣冷氣ル寒寒ナハ降ル者ナリ、此故ニ煖爐ヲ以テ採
温ニ備フル室内ニ於テハ必ス其煖爐ニ近キ處ニ於テハ空氣下ヨリ上
ニ流ルルニ對シテ、稍、寒冷ナル處ニ於テハ冷氣上ヨリ下ニ流ル。是ヲ
以テ通例ノ煖爐ノ周圍ニ上下ヲ開キタル鑛板製ノ表被ヲ設置スルト
キハ、温熱射出ノ度ヲ減シ且ツ温氣ヲ稍、一様ニ室内ニ配布スルコト得
ベシ。

不淨空氣ノ配布 〓 呼吸ニ因テ肺臟ヨリ泄出スル空氣ハ、溫度高キ

カ故ニ微シク上昇スルヲ常トス、然レモ又直チニ熱ヲ失フテ落下セリ、
蓋シ空氣ニ比スレバ稍、重キ炭酸瓦斯ヲ包メバナリ、而シテ後瓦斯質敢
布ノ理法ノ作用ニ由テ漸次自餘ノ空氣ト混淆ス。

空氣ノ外出 || 室ノ高キ處ニ於テ窓ヲ造ルトキハ、徒ラニ温暖ト新

鮮ナル空氣トノ外出ヲ促スノミ、採温過度ナル場合ヲ除クノ外ハ、更ニ
効能ヲ見ズ。之ニ反シテ低キ處ニ於テ窓ヲ造ルトキハ、寒冷ニシテ不
淨ナル空氣ヲ排除スルヲ得ベシ、サレド其措置宜シキヲ得ルニ非ザ
レバ却テ外ヨリ空氣ヲ入ル、ノ恐アリ。空氣ハ常ニ室内ニ充滿セン
トスル者ナルヲ以テ其一部分外ニ流出スルトキハ、必ス同量ノ空氣外
ヨリ流入スベキモノナリ、而シテ是クノ如キ場合ニ於テハ冷氣窓戸ノ
間隙ヨリ流入スルヲ常トシ、若シ身體ヲ其風陣ニ曝ストキハ必ス健康
ヲ害ス。

通氣ノ計策 || 新鮮ナル空氣ノ供給ヲ十分ニシテナガラ、無益ニ温暖

ヲ消費セサルニ適シタル通氣法ヲ施シテ、成功ヲ期センガタメニハ、前
記ノ條款ヲ遵奉セバ則チ事十分ニ整フベシ。先ツ大小能ク室ノ廣狹

ニ應スル普通ノ煖爐一箇ヲ備ヘテ採温ノ機ト爲シ、此煖爐ヲ繞圍スル
ニ鍍板製ノ表被ヲ以テシ、其下端ハ床板ニ達シテ其上端ヲ開キオクベ
シ。サテ煖爐ノ下邊ニ當リテ外ヨリ空氣ノ流入スル管ヲ設ケ下ニ冷
氣管ト
云フ是又室ノ低部ニ於テ數孔ヲ穿チテ櫃渠又ハ導管ヲ以テ各孔ト煙
筒トヲ連續スベシ下ニ通氣管ト
云フ是レナリ室ニ坐セシムル生徒ノ年齢ト、員數ト
ニ依テ導管ノ大小ヲ定メ且ツ事情ニ應シテ自在ニ空氣ノ通行ヲ節制
シテ或ハ増シ或ハ減スルノ備ヲ設クヘシ。生徒一人ニツキ二百五十
方フットトノ空氣ヲ供スルニ足ル室内ニ於テハ、一時間ニ生徒一人ニツ
キ少ナクトモ三百方フットトノ空氣ヲ容レザルベカラズ。

運轉ノ方法 || 右ノ如ク裝置シ、サテ煖爐ニ火ヲ燃ストキハ、温度ノ

差同チ生スルカタメ、室内ノ空氣ノ平稱ヲ破リテ、茲ニ旋流ヲ起スベシ。
然ルキハ煖爐ノ下邊ニ位スル冷氣管ヲ經テ新鮮ノ空氣流入シ、煖爐ト

表被トノ間ヲ經テ上昇スルニ際シ、變シテ温氣ト成リ、室ノ高部ニ達シテ、散布シテ低處ニ在ル冷氣ノ上ニ壓下セントス。之ト同時ニ又煖爐ヨリ出ツル煙ト熱トハ煙筒ヲ經テ空氣ノ上昇ヲ生シ、其勢ニ依テ室ノ低部ニ設ケタル導管及ヒ節制機ヲ經テ外ニ出テントスル風陣ヲ誘引スベシ。斯クノ如クスルトキハ、二箇ノ勢力ヲシテ共ニ室内ノ寒冷ナル空氣ヲ排除スルノ効アラシムルヲ得ベシ、即チ高處ヨリ壓下セントスル勢力ト低部ヨリ外出セントスル風陣ト是レナリ。若シ此簡單ナル裝置ヲ正當ニ修整シ、導管ト煙管トノ連續ヲ精密ニシテ、一一大小適當ナラシムルトキハ、通氣ヲ十分ニシテ温煖ヲ一様ニ配布シナカラ大ニ薪炭ノ費用ヲ減少スルヲ得ベシ。

構造ノ費用

斯ル裝置ヲ構造スル爲メニ要スベキ費用ハ、普通ノ煖爐ヲ購買スルノ費用ヲ越ユルコトヲ得ベシ。

煖爐ヲ繞圍スル表被トノ三項ヲ出テズ。當今ハ此通氣法ヲ施スニ適當セル煖爐ヲ製造スル者アリテ、表被ト通氣管トノ二ヲ合併シタルノ体裁ヲ備フルカ上ニ、其代價ハ決シテ通例ノ煖爐ノ同様ニ善良ナル者ノ代價ヲ越ユルコト無シ。故ニ今若シ此類ノ煖爐ヲ購求ストスレバ、餘分ノ費用ハ只タ冷氣管ノ代價ノミニ止マルベシ。之ヲ要スルニ通氣法ヲ施シテ功ヲ奏スルノ費用ヲシテ如何ニ大ナラシムルモ、毎年生徒ノ健康ヲ増進スルニ由テ得ル所ハ必ス其費ス所ニ百倍スヘキナリ。

實地上ノ忠告

通氣ノ備ヘ無キ學校ニ於テハ、教師絶エズ室内ノ空氣ノ事ヲ小心看守セザル可カラザルナリ。此事ニ注意ヲ施スニハ必ス定規ヲ履ミ統紀ヲ守ラザル可カラズ、何トナレバ、室内ノ空氣タル得テ感覺ス可カラザル微細ノ度ヲ經テ不潔ヲ致ス者ナルガ故ニ、動モスレバ之ヲ覺エズシテ注意ヲ怠ルノ恐有レバナリ。サレド中途ニシ

テ戶外ヨリ入り來ル者ハ直チニ汚穢ヲ感覺スルヲ得ベシ、室ノ高處ニ在ル窓ヲ開クハ、室内ノ溫度過度ナル時ヲ除クノ外ハ有害ナリ。其故ハ寒冷ナル空氣急激ニ落下シテ被覆無キ帽子等ヲ生徒ノ頭部ヲ風陣ニ曝シ、爲メニ感冒風邪ヲ生スレバナリ。室ノ低處ニ於テ煖爐ニ接近スル窓ヲ開クヲ以テ右ニ比スレバ稍良策ト爲ス、蓋シ斯クスルハ寒冷ナル空氣直チニ落下シテ煖爐ニ達スベケレバナリ。每一時間ノ終ニ至リ、數分時間窓戸ヲ悉ク開放シテ室内ノ空氣ヲ全ク一變スルトキハ、甚タシク不淨質ヲ積聚セシムルノ患ヲ除クニ足ルヘシ。サレド此時ニ際シテハ決シテ生徒ヲ坐ニ止マラシムベカラズ。此時ヲ以テ體操ノ練習ニ供スルノ準備ヲ立ツルトキハ、二箇ノ重大ナル利益ヲ計ルヲ得ベシ、即チ新鮮ナル空氣ヲ室内ニ充タスト、筋骨ノ活力ヲ増ストト是レナリ。

◎筋骨ノ直接教練

以上數段ニ開示セシ身體習練ノ通途ハ、其目的トスル所造化ノ理法ニ曉通スル事ト、此理法ヲ遵守スルニ最モ便利ナル事情ヲ裁決スル事ト、此理法ニ須應スルノ氣習ヲ養成スル事トニ在リ。サテ此餘ニ解答ヲ要スル疑問ハ、直接ニ筋骨ヲ教練センガタメニ取ルヘキノ方策如何ト云フニ在リ。毎日智力ヲ活動スルノ時間ニ交フルニ、筋骨ヲ活動スル應分ノ時間ヲ以テスベキトハ、身體ノ健康及ヒ活潑ト、思想ノ剛正トノ間ニ存スルヲ現然タル關係ニ照シテ彰灼タル所ナリ。勉強ハ血液ヲシテ腦髓ニ注カシメ、運動ハ之ヲ引テ體肢ニ致セリ。智力ノ演習ニ際シテハ、神經ノ精力、神經ノ中樞ニ凝聚シ、身體ノ運動ニ際シテハ、此精力全体ニ周透ス。思想及ヒ感情過度ナルトキハ、交感神經ノ作用ヲ經テ生活機關ノ官能ヲ錯亂セントシ、筋骨ノ活動

過度ナルトキモ、神經ヨリ生活機關ニ及ホス激因發動ヲ起ニ不足ヲ生シテ、等シク之ガ官能ヲ錯亂セントス。專ラ智力上ノ事業ニ從事シ、隨テ身体上ノ動作ヲ怠ルトキハ、身體ノ能力減シテ其最下點ニ達シ、反動シテ又智心ノ能力ヲ減ゼントス。專ラ筋骨ノ演習ノミニ從事シ、隨テ智心ノ發作ヲ怠ルトキハ、智力減シテ其最下點ニ達シ、反動シテ又身体上ノ能力ヲ減スベシ。發育ヲ完全ニセンカタメニハ、心身共ニ發動セシメテ要スルニテ、一ハ他ヲ補修シ互ニ他ニ原由スル疲倦ヲ治療スルノ効有リ。夫レ學校ニ於テハ元來智力上ノ事業ヲ主トスルヲ止ミ難キヲ以テ、十分ノ注意ヲ身体上ノ運動ニ施シ、以テ生活ノ諸能力ノ間ニ正當ナル權衡ヲ保維セザル可カラズ、此目的ヲ達センガタメニ採用スルヲ得ベキ直接ノ方策ハ體操ノ演習ト勞働ノ教練トニ在リ。

躰操 〓 近年ニ至リ體操ヲ以テ學校ノ課目ニ加フルヲ起レリ、今其

好結果ノ著明ナル者ヲ名狀セバ則チ左ノ如シ。

〔久シク續キテ坐スルノ疲倦ヲ除ク事〕

〔往々學校ノ秩序ヲ紊亂スルノ原因ト成レル神經ノ活潑自動ヲ慰ムル事〕

〔頭痛及ヒ其他ノ神經ノ煩苦ヲ減スル事〕

〔永ク同一ノ容儀ニ於テ坐スルヨリ生セントスル不具ヲ防ク事〕

〔智力上ノ事業ヲ推シテ極度ニ至ラシメテ運動ヲ忽棄スル學校ノ生徒ノ間ニ必ス見ル所ノ輕浮ナル蹣跚又ハ神經質ノ疾跳ニ替フルニ、強剛ニシテ活潑ナル自由ノ運動ヲ以テスル事〕

〔智力上ノ事業ノ分量ヲ大ニシ體容及ヒ科話シカタノ從容ヲ養成スル事〕

運動ノ種類 〓 公立學校ノ課業ニ最モ適當ナル運動ノ種類ハ世上ニ流布スル體操ノ必携ニ記載スル所ノ自在體操ト稱スル者是レナリ。

此等ハ級生ノ操練ニ供スルニ適シタル体裁ニ排列シタル筋骨悉皆ノ
整齊ニシテ律度ニ稱ヘル運動ヲ包括セリ。又腕及ヒ胸ノ筋骨ノ育成
ニ格別ノ注意ヲ加ヘ、以テ肺臟ノ活動ヲ十分ニセシメテ計レリ。成ル
可ク運動ヲシテ十分ニ律度ニ順合セシメ、ンガ爲メ、體操ヲ導クニ唱歌
又ハ奏樂ヲ以テスルヲ善シトス。樂器ノ備ヘ無キ場合ニ於テハ、カストリ誦數
ノ法ニ依テ共發ノ運動同様に同時ニテ導クニモ難キニ非ス。

躰操ノ裝置

此ニ指示スル所ノ如キ目的ハ之ヲ達センガタメニ

少シモ裝置ヲ要セス、且ツ現ニ公立ノ學校ニ於テハ、大抵教場ノ排置機
械ノ運轉ニ適當セザルヲ常トス。假令教場ニシテ十分ニ廣濶ナルモ、
學校ニ於テ使用スルニハ簡單ナル機械コソ尤モ利アルニ似タレ、木製
ノ啞鈴、輕筒ナル棍棒、球竿、木環、及ヒ重サ四ポンド^トチ上ヲザル豆袋ヲ備
フルキハ、凡ソ緊要ナリトスル各種ノ運動ニ供スルヲ得ベク、且ツ歡

喜ノ情ヲ保維スルニ必要ナル參差ヲ畫スルヲ得ベシ。此等ノ機械
ヲ用非ルトキハ、多量ノ筋力ノ消費ヲ要スル^{シムル}叮重ナル強躰術ニ依ラズ、
寧ロ輕易敏捷ナル運動ニ依リテ身體ヲ修練スルヲ得ベシ、而シテ其
得ル所ハ身體ノ最大強力ニ非スシテ寧ロ健康ト活動ト是レナリ。

運動ノ時間

運動ハ其度數ヲ多クシテ毎度永ク續ケザルヲ善シ

トス。初等ノ生徒ニ在テハ、各授業時間ノ終リニ運動ヲ爲サシムルモ
不可無シ。高尙ナル科級、及ヒ科級ヲ立テザル學校ニ於テハ、各就業期
中^{即チ午前ヲ一期トス}、^{午後ヲ二期トス}二回ツ、運動ヲ授クベシ、而シテ時間ノ長短ハ學
校ノ事情ニ依テ異ナリト雖モ、大抵五分前後ナルベシ。何レノ場合ニ
於テモ、其時間ヲ永キニ失シ、活潑ヲ増サズ却テ疲倦ヲ醸スノ點ニ達セ
シムルヲ決シテ有ルベキニ非ズ。

注意スヘキ警省

教師ハ深ク注意シテ體操ヲ看守スヘシ、生徒若

シ病有り、或ハ又運動ニ因テ病ヲ生スルノ恐有ルトキハ、決シテ之ニ逼テ體操ニ從ハシメ、或ハ其從ハント請フヲ許スヘキニ非ズ。此事ニ關シテ教師ノ注意不足スルガタメ、世人ヲシテ信ヲ體操全体ノ效能ニ置クヲ薄クセシメタル所少ナシトセズ。

◎休息 —— 觀察ト經驗トニ依テ之ヲ觀ルニ、活力ヲ費用スルコト有リタルトキハ、則チ消費セシ元素ヲ補給シ、發作セシ活潑ヲ十分ニ回復セシガタメ、必ス一定ノ時間ヲ要スルモノナリ。此回復ニ供スル時間ヲ稱シテ休息ト曰フ、是レ亦人體ノ安全ニ必要ナルコト運動ニ讓ラザル者ナリ。身體ノ發動タルト智力ノ發動タルト論セズ、苟モ發動ノ時間アレバ、又必ス之ニ次ク休息ノ時間アルベシト云フコト不易ノ理法タルニ似タリ。發動永ク續キテ休息ヲ要スルコト現然タルニ至ルトキハ

其狀態ヲ稱シテ倦解ト曰フ、則チ休息スレバ復タ直チニ發動力ヲ挽回スベキナリ。然リト雖モ若シ此時ニ至ルモ尙ホ休息セスシテ發動ヲ續クルキハ、爲メニ諸機關ヲ榮養スル所以ノ元素ヲ轉シテ發動ニ供スル事ト成リテ、軀軀疲勞ス此狀態ニ至ルトキハ尋常ノ休息ニ因テ發動力ヲ復回センコト難シ。疲勞過度ナルノ點ニ至ルマテ發動力ヲ消費スルトキハ、爲メニ全ク活機構造ノ強壯ヲ損壞スルノ甚シキ、遂ニハ全身ノ神經官能急突ニ衰弱スルコト往々之レ有り、世ニ稱シテ痿痺ト曰フ者即チ是レナリ。

變易ニ因ル休息 —— 若シ一條ノ筋骨又ハ官能ノミ使用ニ因テ倦解スルトキニ當リテ、苟モ喚起スルコトヲ得ヘキ限りノ發動力尙ホ未タ悉ク盡キサルトキハ、別條ノ筋骨又ハ官能ヲ發動セシムルニ因リテ休息ノ感ヲ生スルコトヲ得ベシ、人ノ稱シテ變易ニ因ル休息、又ハ事業ノ參差

ト曰フ者即チ是レナリ。是レ純音ニ因テ生スル厭倦ヲ破ルノ法ニシテ、教師タル者カ課程ヲ編成シ、或ハ日課表ヲ選定スルニ際シ、須ク參考シテ利益ヲ謀ルヘキ所ナリ。例ヘハ博物學上ノ課業ハ數學上ノ課業ノ休息ト成リ、體操術ハ一切ノ智心發動ノ休息ト成ル事、全ク此原理アルニ因ルナリ。

注意力ノ休息 〓 若干時ノ間、注意チ一ノ課目ニ着セシムルトキハ其方向ニ對スル分ノ注意力倦懈スベシ、而シテ若シ數條ノ課目ニ着セシムルキハ、甲ニ注クニ由テ乙以下ニ注ク所ノ厭倦ヲ破ル等ノ勢ヒ無キニシモ非スト雖モ、要スルニ一定ノ時期ヲ經レバ必ス注意力ノ用ニ供スルヲ得ベキ精力ノ資本ノ全体ヲ費耗スルニ至ルベシ、然ルトキハ則チ注意力ヲ休息セシメ、之ヲ要セリ。注意力ヲ久シク續ケテ發動スルノ能力ハ、年齢ト發育トニ依テ異ナリ。兒童ハ注意力ヲ專注セ

ントスルニ由テ疲勞スルヲ速ナル者ナリ、是ヲ以テ其課業ハ毎回一課目ニ關スル所、數分時間ヲ越ユベカラズ、又數課目ニ關スル所トイヘハ甚タ永キニ涉ルハ不可ナリ。躰操ハ注意力倦懈スルニ際シテ休息ヲ致ス所以ノ方法ト爲スニ足ラズ、何トナレバ體操モ亦自ラ注意ヲ要スレバナリ。兒童ニ在テ注意力ノ倦懈ヲ治スル所以ノ休息ノ正當ナル者トス可キハ、自由ノ遊戲コレナリ、而シテ學生若シクハ業務ニ從事スル大人ニ在テハ、夏月ノ休暇ニ際シ遊獵、捕魚、野遊、海邊漫遊、山中旅行等ニ依テ得ベキ完全ナル變易ヲ以テ正當ノ休息ト做ス。

完全ナル休息 〓 凡人タル者必ス皆多少ノ活力ヲ有シテ之ヲ勞作若シクハ遊戲ニ係リ或ハ益アリ或ハ害アル身体上又ハ智力上ノ發動ニ費用スルヲ得ザルハ無シ、而シテ若シ一方ニ於テ之ヲ費用スルトキハ、必ス他ノ方ニ於テ之ヲ費用スルヲ得サルナリ。發動ノ種類多

シト雖也、疲勞ヲ招クニ於テハ皆一ナリ、只タ彼レ此レ其度ヲ異ニスル
ノミ。疲倦ヲ招ク身体ノ勞作ハ、心意ノ發動ヲ大ニスルコト妨グ、疲倦
ヲ來タス心意ノ勞作ハ、身体ノ發動ヲ大ニスルコト妨グ。浪費ハ如何
ナル体裁ニ出ツルヲ問ハス、管ニ好結果ヲ見ザル活力ノ費耗タルノミ
ニ止マラズ、又常ニ生活ヲ官能ヲ錯亂シテ勢力ノ供給ヲ減スルコト免
レザル者ナリ。何等ノ原因ニ由ルヲ問ハズ、喚起スルコト得ベキ活力
ノ資本ヲ盡費スルニ至ルトキハ、完全ナル靜安ニ居テ十分ニ休息スル
ノ外ニ回復ノ術有ラズ。

日々ノ休息即チ睡眠 || 人類ハ生來其體格ニ於テ日々ノ費用ニ供
スル爲メニ餘分ノ活力ヲ備フルモノタルニ似タリ、而シテ人皆朝ヨリ
夕ニ至ルノ間ニ必ズ此餘力ヲ消費セザルハ無シ、賢者ハ天下ノ公益ヲ
保維増進スル爲メニ之ヲ消費シ、痴者ハ勢力ヲ消費スル所以ノ遊蕩、若

シクハ諸機關ノ病性ノ發作ニ依テ勢力ヲ失フ所以ノ者タル懶惰ノ爲
メニ之ヲ消費ス。此日々ノ費用ハ休息ノ最モ完全ナル者ヲ以テ之ヲ
補ハントチ要ス、即チ睡眠コレナリ。睡眠ニ際シテ一切ノ官能其活潑
ヲ回復シテ明日ノ使用ニ供ス可キ活力ヲ貯蓄スルナリ。日々定規ニ
準シテ安眠スル事ハ、健康ノタメ缺クベカラザル所ニシテ、人々勉強、實
業、勞作又ハ遊戯ノタメニ睡眠ノ時間ヲ、或ハ減省シ、或ハ其他ノ方法ニ
依テ之ニ關涉セシメザラントチ計ルベキナリ。

睡眠ノ分量 || 生活ノ能力ヲ充分ニ回復スルニ必要ナル睡眠ノ分
量ハ、種々ノ事情ニ依テ異ナリ、今其重ナル者ヲ言ヘバ、人々ノ躰格、職業
ノ性質及ヒ費消ノ度量コレナリ。衆人ノタメニ同數ノ睡眠時間ヲ撰
定スルノ愚ナルハ、尙ホ衆人ノタメニ同量ノ食物ヲ制定スルノ愚ナル
ガ如シ。之ヲ要スルニ、倦懈スト雖モ尙ホ未タ疲勞セザルニ際シテハ、

正當ナル分量ノ睡眠其人ノ銳氣ヲ回復シテ、能力ノ活動ヲ十分ニ挽回スルニ足レリ。智力ノ發動ハ特ニ多量ノ睡眠ヲ要スル者ナリ、是ヲ以テ教師ハ須ラク生徒ニ訓戒シテ決シテ勉強ノ爲メニ睡眠ノ自然ノ分量ヲ減少スルガ如キヲ無カラシムベキナリ。凡ソ學生ノ健康ヲ害スル者睡眠ヲ要スルトキ強テ勉強ヲ試ルノ如キハ無シ。寢ニ就クノ晚キヲ過度ナルモ、寢ヲ辭スルノ早キヲ過度ナルモ共ニ有害ナリ。深更ノ勉強ハ睡眠ヲ減省スルニ依テ有害ナルノミナラス、又知識ヲ切磋スルノ路ニ於テ得ル所殆ント無キ者トス。銳氣充滿スルトキニ際シテノ一時間ノ勉強ハ半バ睡眠スルトキニ際シテノ六時間ノ勉強ニ平等スベシ。

疲勞ノ休息

|| 十分ニ休息ノ時間ニ備ヘズシテ、發動ヲ久シク續クルトキハ、全体ノ疲勞ヲ來シ、遂ニ睡眠ノミニ由テ疲勞ヲ治センコト難キ

ニ至ル。斯ル場合ニ於テハ、完全ナル休息即チ注意ヲ要スル一切ノ發動ヲ全ク罷ムルコト外ニ、回復ノ法絶エテ無シ。繁雜ナル商業上ノ事務ニ奔走スル人ハ、爲メニ注意力ヲ運用スルノ久シキコト正當ノ度ヲ越エ、活力ヲ消費スルコト過分ナルカタメニ、單ニ餘分ノ資本ヲ盡悉スルノミナラス、又機關ノ供給スルコト得ル限リヲ費耗シテ、更ニ活力ヲ殘サ、ル事アリ。然ルトキハ疲勞ヲ治療スル所以ノ者、只タ十分銳氣ヲ回復スルニ至ルマテ完全ナル睡眠ヲ取ルノ一有ルノミナリトス、然ラザレバ生活ノ官能ヲ永ク損ヒ、或ハ全ク之ヲ失フニ至ルベシ。休息ノ種々ノ度量及ヒ之ト發動トノ關係ニ曉通スル事ハ、教師ニ取リテ無比ニ重大ナル者トス。世ノ人活力ノ回復ヲ管理スルノ理法ヲ知ラサルニ依テ愚昧ノ習慣ニ陥ルコト古來其例多シ。往時ニ在テハ高等ナル學生ヲ強迫シ、四期ノ別無ク午前五時ニ起キ出テ拜堂ノ演習ニ與

ラシメタリ、是レ上帝ノ理法ニ違戾シテ以テ上帝ヲ欽崇セシメントス
 ルモノニ非スシテ何ソヤ。或ハ又過度ニ多量ナル課業ヲ授ケテ若シ
 勉強ノ効十分ニ見エザルトキハ、或ハ公ニ其罪ヲ問ヒ、或ハ暗ニ其非ヲ
 責メテ以テ生徒ニ苦學ヲ勸ムルヲ、世ノ教師者流中ニ多ク見ル所ナリ。
 斯クノ如キ苦學主義ヲ催促スル學校ニ於テハ、深ク名譽ヲ重スルノ心
 有レド、體格彫弱ナル學生ヲ過リ、其心意ノ能力ヲ破リテ夭折アラシメ
 或ハ斯クノ如キ逆施ニ會フニ非サリセバ達シ難キニ非サル才能ノ僅
 ニ片碎ノミヲ抱テ一生ヲ卒ヘシムルニ至ルコト多シ。過多ナル課業
 ヲ授クル教師ハ自己ノ力量ヲ以テ生徒ノ力量ヲ推シ、兒童ヲシテ大人
 ト雖也未ダ必ズシモ難ンゼズンバ非ザルガ如キ多量ノ事業ニ堪エシ
 メントスルノ過失ニ陷ルモノナリ。生徒自立シテ勉強スルコトヲ得
 ルノ年齢ニ達シタルトキハ、則チ之ニ左ノ如キ訓戒ヲ授クルヲ正當ト

ス、曰ク「汝ノ課業ニ供スルニ、汝ノ睡眠又ハ必要ナル保養ノ時間ニ干渉
 セズシテ供スルヲ得ベキ分ノ時間ノミヲ以テシ、其時間ニ應シテ要
 用ナル勉強ノ多寡ヲ節制セヨ」ト。

第十二章

好尚修練

英語、エス、テ、ナ、ツ、ク、ス、ハ、元、ト、番、臘、語、ニ、出、ツ、即、チ、知、覺、學、ノ、義、ナ、リ、爾、來、轉、シ、テ、自、ラ、二、種、ノ、意、義、ア、チ、ル、ニ、至、ル、曰、ク、美、妙、ノ、學、曰、ク、嗜、好、ハ、知、覺、學、ト、云、因、テ、翻、譯、者、從、來、此、字、ヲ、譯、シ、ク、テ、或、ハ、知、覺、學、ト、云、

學、ヒ、美、妙、ヲ、取、ラ、ズ、ヒ、審、美、學、ト、云、フ、此、ハ、別、ニ、知、覺、

モ、ノ、ナ、リ、審、美、ノ、字、未、ダ、出、處、ヲ、詳、ニ、セ、ズ、美、妙、ノ、

字、人、物、志、ニ、見、ユ、然、レ、モ、出、處、ノ、字、原、語、ノ、本、意、ニ、於、

ト、テ、未、タ、妥、當、ナ、リ、ト、セ、ズ、故、ニ、此、ニ、譯、シ、テ、好、尚、學、

ト、曰、フ、大、學、衍、義、補、ニ、謹、ニ、好、尚、以、率、民、ノ、一、篇、ア、リ

◎好尚學ノ本性——智心ノ教練ニ於テハ、目的トスル所、眞理ヲ究定

スルニ在リ、即チ形而下并ニ形而上ノ境界ニ屬スル事實ニ關係ニ理法ニ就テ謂フノ斯眞ナル者ヲ究定ルスニ在リ。道德學ニ於テハ目的ト

スル所、斯善ニ在リ、是レ一方ニ於テハ人倫上ノ關係ニ就テ謂フ斯眞ヲ修述シ、又一方ニ於テハ之ヲ轉シテ行爲ニ發セシムル者ナリ。好尚學ニ於テハ目的トスル所、斯美ニ在リ、是レ物体及ヒ其資質ノ五官ニ及ホス影響ニ就キテ謂フノ斯眞ナリ。斯眞ハ一切ノ現象ヲ包含シ、斯善ハ人類ノ行狀ニ關係シ、斯美ハ快樂ヲ生スル外物ノ關係ニ涉與ス。

此三者ハ相互ノ連絡極メテ親密ナリ、是ヲ以テ其一ニ達スル所以ノ方策ノ最モ確實ナル者ハ、他ノ二ニ於テ最モ高度ノ成功ニ達センガ爲メニモ緊要ニシテ、預メ各科ノ大概ニ通スルノ後ニ非サレハ他ノ二科ノ極處ニ到ラノコト難シ。

好尚修練ヲ剖析スレバ、包含スル所ニ二アリ、一ハ即チ美ノ既ニ存存スル者ヲ知覺スル事コレナリ、他ハ即チ之ガ元素ヲ適宜ニ保合シテ更ニ美ヲ生セシムルノ才能コレナリ。即チ其本旨トスル所ハ單ニ鑑識上

ノ能力ノミニ止マラスシテ、原造上ノ能力ニモ涉ルナリ。此修練ニ於テ無上ノ目的トスル所ノ事情ハ、想像力ヲ教練スル方策ノ主要ナル者ノ一ナツ之ニ達セントスル事ハ、想像力ヲ教練スル方策ノ主要ナル者ノ一ナリ。稱シテ嗜好ト曰フ所ノ者ハ好尚上ノ感覺ナルニテ、是レ固ヨリ人々ノ天資ニ依テ異ナルコト些少ナラスト雖モ、亦統紀ヲ正シテ教練スルトキハ、必ス進歩スヘキモノトス。

美ノ標準 〓 美ノ本原及ヒ本性ト、其之ヲ檢討スル所以ノ標準トニ關シテハ、茲ニ二派ノ普關理論アリ。其一ヲ稱シテ直覺論ト云フ、此理論ニ於テ主張スル所ニ依レバ、神靈ノ境界ニ美ノ絕對ノ標準ナル者在テ存スルニテ、造化ハ、或ハ疎ニ、或ハ密ニ、此標準ノ趣ヲ實現スル者ナリ、然リ而シテ人類ノ心意ハ、有形界ノ美ト、神靈界ノ美トノ間ニ契合ノ存スルアル毎ニ、直覺ニ依テ之ヲ知覺シ、以テ此理想ノ標準ニ應和スル者

ナリト。西洋物事ハ一派ノ哲學アテ完ニ其論旨ニ曰ク、此世ニ存在スル有形ノ境界ナル者有リテ、此處ニ在テハ、事物悉ク圓形ノ全円満ナリ、之ヲ其ノ事ノ理想ト云フ、又圓觀ト譯ス、假ヘバ、夫ノ圓形ノ全円満ナリ、之ヲ得ハ、如何カカリ機巧ヲ盡シ、精密ヲ窮メテ、畫ストモ、決シテ完全ナルヲ得ス、必ス瑕瑾アリ、則チ完全ナル圓形ハ、只タ理想ノ境界ノ完全ナルヲルモノ、埃ヲ始テナリ、理想タル所以ヲ決スルニ非ズ、蓋シ理想ノ物タル、敢テ他方ニ於テハ、此絶對理想ノ間ニ往來スルノ事ヲ得ル者ア、寓シテ何ソヤ、人類ニ於テナリ、人類ノ分ハ、接觸スル所ノ心意ノ觀念スル所ニ照シテ、形而下界ニ於テナリ、身體ノ分ハ、接觸スル所ノ心意ノ觀念スル所ニ照シテ、形而上界ニ於テナリ、然リ而シテ自然ノ形樣理想上ノ標準ニ近ケレバ、之ヲ稱シテ美ナリト謂ヒ、遠ケレバ目シテ醜ナリト倣スナリ。

ラスキン氏ノ見解 〓 近世英國第一ノ美術家ラスキン氏カ美ノ源由及ヒ本性ニ關シテ立テタル見解ハ、右ニ述フル所ニ符合セリ、左ニ抜抄スル所ニ就テ之ヲ見ルベシ。

今々余ハ一條ノ理義ヲ定述スルヲ得ントス、曰ク他無シ、美ナル者ハ「神明」ノ撰定シテ以テ人類ノ精神ノ開達ヲ絶エズ振起スル所以ノ元素ノ一ト爲ス所ナリ、是ヲ以テ吾人自然一切ノ物体ノ上ニ於テ之ヲ見ルヲ得ルナリ、然リト雖モ亦人類ヲシテ之ニ倦ムニ至ルヲ無カラシメンガタメ、極度ニ到レルノ態ヲ現示スルヲモ甚タ稀ナルナリ。吾人若シ果シテ斯ク極處ニ到レル者ヲ見ルコト有ルトキハ、心目ノ此ニ牽カル、甚タ剛強ニシテ、永ク忘失スルヲ無シ、例ハ非常ニ美ナル景色、又ハ艶ナル顔色ヲ見タルトキノ如キ是レナリ。之ニ反シテ純全ニ醜ナル物ニ至リテモ亦其稀有ナルヲ、尙ホ完全ニ美ナル者ノ得難キカゴトシ、サレド幾分ノ度ニ達シテ多少明著ナル者ハ、何ニ依ラス死ト罪惡トヲ免レザル物ニ就テ見ル可キヲ猶ホ美ノ、何ニ依ラス徳ト性命トヲ備フル者ニ就テ見ル可キカゴトシ。

何ニ依ラス「自然」ノ作ス所ノ物ハ、必ス幾分カ美ナラサルハ無シ、且ツ何ニ依ラス「自然」ノ作ス所ノ物ハ、極メテ美ナルヲモ醜ナルヲモ稀ナリ、而シテ若シ只タ一己ノ感情ノミニ依據スルヲ甘セズ、事理ニ徴シテ美醜ノ孰レニ歸スルヤヲ辨決セント欲セバ、之ヲ爲ス誠ニ簡易ナリ、即チ其物ノ存スルニ至リシ次第ニシテ果シテ十分ニ自然ノ理法ニ順應シタルノ結果ナルトキハ、必ス美ナルヘシ、之ニ反シテ自然ノ理法ニ違戾シタルノ結果ナルトキハ、必ス醜ナルヘシト云フ甚タ單純ナル規律ニ於テ判斷スヘキナリト。

經驗論 || 今一ノ理論ニ於テハ、美ヲ以テ經驗ノ結果ト爲セリ。人幼少ナルトキハ、慈悲アル者ヲ見レバ快樂ヲ感シ、有害ナル者ニ會ヘバ苦痛ヲ感ス、平生習性スル所ヲ見テハ總ヘテ欲スル所ノ觀念ヲ起シテ快樂ヲ生シ、平生習性セザル所ヲ見テハ泛濫タル恐怖ヲ發シテ苦痛ヲ

生ス。發育稍進ムニ及テハ事物ノ參差駁雜ナルヲ見レバ、心意其食ト
スル所ヲ得テ快樂ヲ生ス、之ニ反シテ純一無雜ナルヲ見レバ、心意饑渴
ニ迫リテ苦痛ヲ感ズ。

物体又ハ其資質ノ或ル類ノ結合ニ因テ起レル印象ハ善ク人類ノ體制
ニ和合スルヲ以テ快樂ヲ生ス、然レモ他ノ類ノ結合ニ依テ起レル印象
ハ、體則ニ和合セズ、從テ苦痛ヲ生ス。例ヘバ激烈ナル光明ハ眼球ノ構
造ニ和合セズ、從テ之ヲ受ケ、或ハ之ヲ避ケントスルニ當リテ、苦痛ヲ生
スルナリ。同シ次第ニテ室内ノ光線縱横スルレバ、光明ノ度量絶エズ
變化スルニ因テ、眼簾ノ筋骨ハ絶エス内部ノ構造ヲシテ外部ノ變化ニ
應合セシメントシテ煩勞スルヲ以テ頓ニ疲倦セリ。彩色ニ至リテモ
亦然リ、其或ル類ノ結合ハ眼球ノ構造ニ順應スルガユエニ易安ヲ生ズ、
之ニ反シテ其他ノ結合ハ此構造ニ背戾スルガユエニ煩悶ヲ生ス。總

ヘテ是クノ如キ場合ニ於テ快樂ヲ生スル者ハ皆之ヲ稱シテ美ナリト
謂ヒ、苦痛ヲ生スル者ハ皆之ヲ稱シテ醜ナリト謂フナリ、即チ内界ノ感
情ヲ以テ外物ヲ判斷スルモノナリ。

發育尙ホ一層高尙ナルニ至ルトキハ、智力感覺ノ上ニ反動シテ、初メハ
汎濫ナリシ總念ヲ矯正ス。此ニ至レバ體制ニ有害ナル者ハ力ヲ振テ
壓服スルコトヲ得ヘシ。今ハ資質ヲ其附着スル所ノ物体ヨリ離別シ
テ憶度スルコトヲ得ベシ。外物ト内界トノ和諧ヲ見ル事ノ益、著明ニ
進ミ、「自然」ノ表現スル所ノ理想ヲ領會スル事益、十分ナルニ至ル。想像
力ハ孜々トシテ新奇ノ理想ヲ構成セリ。是ヲ以テ美ニ關スル總念絶
エズ増大シ、漸々辨識ヲ明細ニスルニ至リテ、影響ヲ情緒ノ上ニ施ス
益、深遠ナラントス。

美術上ノ教練 || 自ラ振テ斯美ヲ表現セントスル事ハ美ノ鑑識ヲ

切磋スルノ業ヲ補益スルコト甚タ大ナルモノナリ。今其表現ノ次第ヲ言ヘバ、第一ニ美ナル物ヲ摸擬スル事はレナリ、第二ニ美ナル物ヲ分解スル事はレナリ、第三ニ分解シテ得タル諸ノ元素ヲ排安シテ更ニ新シキ保合ヲ構成スル事はレナリ。此クノ如キ次第ヲ進ムトキハ、自然ニ曉通スルコト益、周密ナルニ至リ、現存スル形様ノ或ハ密ニ或ハ疎ニ類似スル所タル種々ノ元型儀儔則チテ領知スルコト益、明瞭ナルニ至リ、現存スル形様ヲ其マ、寫出センヨリモ、寧ロ元型儀儔ヲ選テ表現スル事ニカチ用非テ、却テ「自然」ヲ修良スルコトヲ得ヘシ。斯クスルハ是レ人工ヲ以テ斯美ヲ實現スルノ業ニシテ、純粹ノ美術ナリ。今マ進テ好尚學上ノ修練ニ於テ履踐セサル可カラサル諸ノ程度ニ論及セントスルニ當リ、先ツ美ヲ組成スル元素ノ何タルヲ稍、綿密ニ稽查セシコト必要ナリトス。

◎形様 || 美ノ最モ樞要ナル元素ノ一ハ形様コレナリ。「自然」ヲ觀察スルトキハ殆ト無限ナル形様ノ參差及ヒ結合ヲ見ルコトヲ得ヘシ。蒼々タル昊天ノ圓宇ノ如キ、綠々タル平地ノ表衣ノ如キハ、日ゴトニ見ル所ナリ、赫々タル星宿ノ運行ノ如キハ夜ゴトニ見ル所ナリ、是レ快樂ノ源泉ナリ、蓋シ其然ル所以ノ者、人ノ其功用ヲ知ルニ因ルニ非ス、偏ニ萬物ノ間ニ在テ人ノ平生熟通スル所タル一定ノ秩序ニ属スルニ因ルナリ。天文ノ理未タ開ケザル昔ニ在テハ、玄妙ヲ感スルコト是レ爛々星海ヲ仰觀スルヨリ生スル快樂ノ一源ナリキ、然リト雖モ今ハ其玄妙ヲ剖析シテ、宏大ナル理法ノ「貫徹六合、無分割、無息止」トモ言フヘキ者ニ歸スルコトヲ得タルヨリシテ、快樂一層増大セリ。

形様ノ分解 || 今マ形様ヲ分解シ、其普遍ナル者ヨリ起テ、特殊ナル

者ニ下ラシニ、山水ノ形勢、草木ノ特異ノ形様ハ快樂ヲ生スルカ故ニ稱シテ美トス。サレド概シテ美ナリト言フ中ニモ、自ラ差別アリ。巖々タル地形ノ、人類ノ住處タルニ適セザル者ヲ見ルトキハ、初メノホドハ美ナリト思フコト殆ト難シ、何トナレバ、愉快ナル感情ノ之ニ伴フ者無ケレバナリ。即チ此クノ如キ景色ノ美ヲ鑑識スルヲ得ルハ、獨リ知覺ノ境界ヲ越エテ既ニ沈思冥想ノ境界ニ遊フノ人ノミナリトス。同シ次第ニテ、風嵐ノ間ニ生育シテ屈曲セル樹木ノ節々タルハ最モ好恰ナル事情ノ間ニ生長セシ樹木ノ儀範ヲ去ルヲ甚タ遠シト思フベシ。然レモ修練高尙ナル人ニトリテハ、此屈曲セル形狀コソ却テ一層ノ美ヲ添フルノ元素タルナリ、其故他無シ、斯クノ如キ形狀アルニ至リシハ、自然ノ勢力ノ宏大ナルノ發作ノ証跡ニシテ、之ヲ瞻觀スル毎ニ、神心振起シテ、快活ノ念ヲ發スレバナリ。

幾何上ノ分別

尙ホ深ク物ノ形様ヲ分解スルトキハ、之ヲ剖析シテ幾何學上ノ元素ニ歸セシムルニ至ルヘシ、今其分割ノ主要ナル者ヲ言ヘバ直線ト曲線トノ二是レナリトス。凡ソ「自然」ハ直線ヲ表現スルヲ稀ナルニ反シテ、殆ト種々無量ナル曲線ヲ表現セリ、而シテ通例曲線ハ直線ニ比スレバ一層深厚ナル快樂ヲ生スト云フ事モ是レマタ均シク明白ナル真理タリ、是ヲ以テ曲線ヲ目シテ美ノ元素ノ精要ナル者ト做スナリ。曲線ニ依テ生スル快樂、直線ニ依テ生スル者ニ比スレバ深厚ナル所以ノ理由ハ何如ト問フニ、答ヘテ曰ク、眼ノ曲線ヲ視ル、直線ヲ見ルヨリモ安易ナルヲ是レ其理由ナリト。即チ直線ヨリ成リ立ツ各種ノ形様ヲ視ルトキハ、一線ノ終末ニ至ルマテ純一無雜ナルニ、終末ニ於テ他ノ直線ト接合スルニ及テ俄然轉移アリ、爲メニ眼球ノ筋骨ヲシテ其運轉ヲ急變セサルヲ得サラシム、之ニ反シテ曲線又ハ曲面ニ於テ

ハ變化漸次ニナルガユエニ、純音ヲ破リ、且ツ其方向ノ如キモ得テ知覺
ズ可カラザル微細ノ差等ヲ經テ着々轉移シ、遂ニ之ヲ全クセリ、漸ク起
ル變化ハ其急ニ起ル變化ニ比スレバ快樂ノ情ヲ生スルコト一層深淵ナ
ル者ナリ。

美術ニ用ヰル形樣 || 美ナル形樣ヲ表現センカ爲メニ第一ニ必要

ナル者ハ自然ノ形樣ヲ其マ、ニテ精密ニ再現スル事是レナリ。其次
ニ位スル一步ハ、自然ノ形樣ヲ工業上ノ目的ニ適當セルヤウ變改シテ
再現スル事是レナリ、之ヲ自然ノ形樣ヲ摸コンベンション表モダライズスル事ト曰フ。其次ニ位
スル一步ハ美術ニ於テ自然ノ點出スル所ノ理想ヲ實現スル事是レナ
リ、委シク言ヘバ、自然ノ形樣ヲ分解シテ之ヲ其幾何學上ノ元素ニ歸シ、
得ル所ノ新元素ヲ再結シテ、稱シテ幾何學的ノ圖案、又ハ「亞刺比粧形」ト
曰フ所ノ新圖案ヲ更ニ構綴スル事是レナリ。總ヘテ此等ノ場合ニ於

テハ、其表視スル所ノ美術上ノ形樣ニ因テ快情ヲ生セザルハ無シ、即チ
第一ノ場合ニ於テハ、忠實ニ「自然」ヲ再現スルニ因テ之ヲ生シ、第二ノ場
合ニ於テハ「自然」ノ暗指スル所ノ理想ヲ一層十分ニ實現シ、以テ「自然」ヲ
化シテ理想ト爲スニ因テ之ヲ生シ、第三ノ場合ニ於テハ未タ實物ノ間
ニ於テ十分ニ目撃スル能ハザル所タル完全無缺ノ態ヲ暗指スル複雑
ナル圖案ヲ構成スルニ因テ之ヲ生ズ。

自然ハ美術ノ基本 || 人類ノ製作ニ出ツル物体ノ中ニ於テハ形樣

ノ意匠ヲ直チニ「自然」ニ取ル者多キニ居レリト言フモ誣ズ。世ニ一派
ノ建築アリ、之ニ屬スル者ハ種々等級ヲ異ニスト雖モ、是レヲ下ニシテ
ハ北亞米利加ノ因度人ノ荒粗ナル草舎ヨリ、是レヲ上ニシテハ「ゴシツ
ク」風ノ寺院ノ腿凹形ノ宏大ナル弓形門ニ至ルマテ、皆其大体ノ形狀ヲ
樹木ノ枝ノ梢ヨリ垂レテ弧線ヲ畫スルニ象トル者ナルヲ現然タリ。

又一派ノ建築アリ、下ハボリヤン人種ノ極寒地ノ地下ノ房室ヨリ亞刺比亞及ヒ印度ノ石ヨリ刻リ出タル市府ヲ經テ、上ハ古代ノ希臘人ノ輕簡ニシテ從容ナル構造ニ至ルマデ、其大体ノ形狀ヲ自然ノ洞穴ニ取レルモノ、如シ、而シテ斯ク連々タル程度ヲ經テ美術變遷スルノ間ニ、此形様ノ如キモ種々無數ノ變化ヲ經由セシト疑無シト雖モ、要スルニ皆件ノ一原形即チ變様タルニ過ギザルナリ。

獨リ建築ノミナラス、人類ノ技術工藝ノ他ノ部門ニ屬スル者ト雖モ、亦皆人工ノ形様ニシテ直接ニ自然ノ形様ニ源由スルノ實例タラザルハ無シ。重大ナル支柱及ヒ堅牢ナル敵樓ヲ備ヘタルノルマン人ノ城堡ハ、甚タ忠實ニ山岳、絕壁、巖窟等ヲ表現ス、且ツ恰モライン川ノ濱岸ニ沿テ聳ル高嶺ノ頂上ニ乗ルガコトク見ユルヲ以テ、善ク四隣ノ風景ト調和シ、更ニ人造ノ物ナリトハ見エズシテ、寧ロ其立ツ所ノ嵯峨タル山嶺

ノ一部分ナリト見ユ。サラサン人ノ尖高塔及ヒ東洋諸國ノ重塔ノ幹長ク頂張ル者ハ、棕欄パームツリーヲ以テ植物ノ摸型トスル地邦ニ於テ起リタリ、サレバ是レ亦美術上ノ構造ヲ以テ忠實ニ自然ノ物象ヲ摸表センコトヲ務ムルモノタルナリ。ナイル川ノ水邊ニ於テハ蓮多ク生長ス、是ヲ以テ埃及人ノ墓碑及ヒ裝飾ヲ見ルニ果シテ蓮ヲ摸表セザルハ無シ、又其花アガサ芳ハ南歐ノ植物ナリ、是ヲ以テ希臘及ヒ羅馬ニ見エタル「コリンス」風ノ圓柱ノ美々タル意匠ハ趣向ヲ此ニ取レリ。

◎比例 || 美ノ觀念ヲ組成スル元素ニシテ此次ニ言フヘキ者ハ、比例コレナリ。人ノ物体ヲ稽查スルヤ、則チ之ニ關シテ十分ナル知識ヲ得ヘシ、而シテ此知識中ニハ功用ノ觀念ト、功用ニ順應スト云フ事ノ觀念トヲ包含セリ。順應ト云フ事亦自ラ種々ノ元素ヲ包含ス、其一ハ大

小コレナリ、然リ而シテ全体ノ大小ノ善ク全体ノ功用ニ順應スルヲ見、諸部分ノ大小ノ善ク其各部分ノ功用及ヒ自餘諸部分ノ大小ニ順應スルヲ見、各物体ノ大小ノ他ノ諸物体ノ大小ニ對比シテ權衡宜シキヲ得タルヲ見ルトキハ、爰ニ比例ノ解念ヲ生ス。自然ノ形様ノ間ニ在テ、比例ノ觀念ヲ呈スル者ハ、其各部門ニ屬スル各類各種ノ物体ノ最モ完全ナル標品コレナリ。例ヘハ、各種ノ樹木ノ儀型ト爲スヘキ者ヲ見ルニ、必ス其幹枝ノ大小ノ間ニ一定セル關係アラザルハ無シ、吾人之ヲ稱シテ比例善良ナル樹木ト云フ。若シ此關係ニ違ヒタル樹木有ルトキハ、吾人必ス其不具ニシテ完全ナラザルヲ感ズ、即チ別語ヲ以テ言ヘバ、比例ニ外レタルヲ感スルナリ。

建築ニ於ケル比例 || 建築ニ於テモ必ス屋宇ノ長、幅、高ノ間ニ稱シ

テ善良ナル比例ト曰フ可キ一定ノ關係アリ、而シテ正當ノ制限内ニ在

リテハ尺量變化ストモ此關係上ニ損益ヲ及ホサスト雖モ、一朝其制限ヲ越ユルトキハ、則チ之ヲ覺ル者、心ニ不整合ノ觀念ヲ生スルナリ。此事ニ關シテ一條ノ理論ヲ提唱セシ者アリ、曰ク建築ニ於テ真正ノ比例ト做スヘキ者ハ、其結果上ヨリ言ヘバ音樂ニ於テ謂フ自然ノ樂格ニ比準スル者ナリ、即チ音聲ノ波動ト波動トノ間ニ契合スル所アルニ因テ調和ヲ生スルト同様ニ、光線ノ波動ト波動トノ間ニ契合スル所アルニ因テモ調和ヲ生スルナリト、夫レ或ハ然ラン。房室ヲ構造スルニ當リテモ、十分ノ満足ヲ見ント欲セバ、必ス之ニ屬スル種々ノ尺目ノ修整、配合ヲシテ宜シキヲ得シメサルヘカラス。直方形ノ房室ハ、不完備ノ感ヲ生ス、高サ不足スルトキハ、天井動作ノ自由ヲ制限スルガ如ク見エ、高サ過度ナルトキハ、又四壁ヨリシテ同シ壓塞ノ感ヲ來タセリ。

安全ノ元素 || 比例ノ觀念ハ、往々安全ノ感ト親密ニ聯結スル者ナ

リ。吾人ハ經驗ニ依テ、物質^{建築材料}ノ強力及ヒ勢力ノ結果ニ係ル一定ノ觀念ヲ得タルヲ以テ、若シ現ニ重シト見ユル物体ヲ提捧シ、兼テ強シト知ル勢力ヲ支持スルニ、現然不十分ナル材料ヲ以テスルヲ視ルトキハ、爰ニ不安全ノ感ヲ生シ、之ニ依テ比例ノ觀念ヲ破ル事ト成レリ、即チ斯ル場合ニ於テハ、安全ト不安全トニ依テ、比例ニ稱ヘルト稱ハザルトヲ決スルナリ。此ノ感情ヲ示ス善キ的例ハ、橋梁ノ構造ニ於テ見ルヘキ者はレナリ。古風ニシテ堅牢ナル石橋ハ、何レノ地ニ於テモ、必ス善キ比例ニ合ヒテ、美ナリトセリ、蓋シ人皆其安全ナルヲ知レバナリ。之ニ反シテ鐵橋ノ場合ニ在テハ、吾人理ニ於テ其安全ナルコト石橋ニ讓ラサルヲ知ラザルニ非スト雖モ、比例ニ合ハザルカ故ニ醜ナリ。ラスキ^氏其理ヲ説明シテ曰ク、真正ノ建築ニ於テハ、構造ノ各部分ニ對シテ外ヨリ見ル可キ提捧有ラン事ヲ要スルカ故ニ、例ヘハ鐵棒ノ如キ現實

ノ支柱ハ之ヲ藏隠スルモ可ナリ完全ニ十分ナル支持体ト見ユル者、支柱圓柱等ノ体裁ニ於テ必ス外ヨリ見ル可キ處ニ存セザル可カラサルナリト^{云フ意ハ鐵橋ノ場合ニ在テハ、十全ナル支柱ト見ユル者外ニ現ハレズ故ニ不安全ノ感ヲ生シテ形醜ナリトナリ。}

比例ノ觀念ノ普在

|| 比例ノ觀念ハ人類ノ思想ノ全域ニ周透スル

者ナルカ如シ、是ヲ以テ何等ノ事物ニ關シテモ、方法ノ善ク目的ニ稱ヒ原因ノ善ク結果ニ應スルヲ見レバ、則チ満足ノ感ヲ生シ、之レニ反對セル者ヲ見ルレハ、則チ安カラザルヲ覺ユルナリ。斯ク相稱フヘキ所ニ於テ相稱ハサルノ甚シキヲ見ルキハ、則チ異形ノ感ヲ生シテ、正シク惹笑ノ原由ト成レリ。ホッウド^氏ノ滑稽畫ハ往々此性質ニ出ツ、即チ事物ノ現然タル不整合ノ態ヲ以テ惹笑ノ資トセントスル者ナリ。今其一ヲ言ヘバ小駒ヲシテ、乘客充滿セル運車ヲ引テ、峻シキ坂ヲ登ラシムル所ヲ圖シ、題シテ曰ク「圖ヲ引ク繪」ト^{英語圖ヲ「ロツト」ト言ヒ、物又今一ノ多キヲモ「ロツト」ト謂フ}

繪ニハ肥大ナル荷馬ノ努力シテ嬰兒ヲ乗セタル小細ナル車ヲ引ク所
ヲ現シ、号シテ「反進大」ト曰フ。「反進大」ハ修辭家ノ語ナリ、文章ニ於テ先ツ
ト對テ反進大其他滑稽ヲ旨トスル新聞雜誌ナドニ載スル戯畫中ニハ、人
ヲ嘲弄スルタメ、相貌ノ大概ヲ寫出シナガラ、奇異ナル一點ノミヲ太シ
ク張大スルコトアリ、是レモ現然比例ヲ破ルニ因テ笑ヲ惹クノ一例タル
ナリ、又夫ノ「大山分娩生」一痴鼠」ト云フ羅旬ノ諺ニ至リテモ、之ト同一ノ
原理ニ因ル者トス。

比例ノ觀念ノ應用 || 比例ノ觀念ハ、實ニ普遍ニシテ到ラザル所無
ク、且ツ思想ト行爲トノ權衡ヲシテ正當ナラシムルニ極メテ必要ナル
者ナレバ、學校ノ事業ノ各部門ニ於テモ必ス之ヲ憶度セサルヘカラサ
ルナリ。即チ教師ガ據テ以テ教育ノ課程ヲ定メ或ハ日課表ヲ撰テ、成
功ヲ期スル所以ノ者モ此觀念ニ外ナラサルナリ。就中勉強ノ作法、及

ヒ業務運營ノ次第ニ關シテハ、此觀念ヲ十分ニ修練スルノ地ヲ得ヘシ。
又有形ノ境界ニ在テハ、言字ノ布置ヲ經營スルコト、文字圖形ノ大小ヲシ
テ其之ヲ容ル、ノ地即チ石盤若シクハ塗板ノ大小ニ順應セシムルコト、
及ヒ各種ノ書言文詞ノ排安ヲ修整スルコトノ間ニ比例ノ觀ヲ發展スル
ノ地有リ。又無形ノ境界ニ在テハ時分ヲ畫シテ就業時間ト休息時間
トニ分チ、各科ノ講究ニ盡クスニ一々其分ニ應シタルノ注意ヲ以テス
ルノ間ニ此觀念ヲ育成スルコトヲ得ヘシ。

◎統一 || 美質ノ今一ノ元素ニシテ樞要ナル者ハ統一コレナリ。
各物体ニ關スル觀念ノ最モ原本ナル者ハ即チ功用コレナリ、其所謂功
用ナル者ハ單ニ人類ノ有形上ノ幸福ニ關係スル功用ノミヲ指示スル
モノニ非スシテ、他ノ諸ノ物体ニ對シテ一々正當ナル處ヲ得タルノ意

義ヲ包含スルナリ。茲ニ一個ノ物体アリテ其構造善ク全体ノ功用ニ稱ヘルカ上ニ其諸部分ヲ見レバ一々其司ル所ノ功用ニ稱ヘルト同時ニ全体ノ功用ヲモ直接ニ贊助スルノ効有リ、或ハ又種々ノ物体相互ニ關係スルノ間ニ各自中央普關ノ一功用、若シクハ一意匠ヲ贊助スルノ効有ルトキハ、其斯ク功用ニ順應スルノ次第ニ因テ統一ノ觀念ヲ生スルナリ。

自然ニ在ル實例

例ヘハ一樹ノ形樣從容ニシテ諸部分善キ比例

ニ合ヒ、數枝風ニ從テ動搖スル者ハ、既ニ美ナリ、サレド若シ之ニ加フルニ左ニ言フ所ノ如キ事情ヲ以テスルトキハ、此美ノ觀念ヲシテ一層親密且ツ高尙ナラシメントス、即チ曰ク幹強クシテ能ク風景ニ拒抗スルヲ、曰ク枝分レテ小枝ト成リ、小枝復タ分レテ漸々瑣細ニ進ミ、以テ無數ノ葉ヲ提捧スルヲ、曰ク葉廣ク薄キ平面体ヲ爲シテ、織キ莖ニ掛リ、以テ

空氣トノ接觸ヲ十分自在ニスルヲ、曰ク葉ノ用ハ空氣ヨリ動物ノ生活ニ害アル不淨質ヲ汲収シテ其木ニ給スルニ成ル可ク十分ナル營養ヲ以テスルニ在ルコトナリ。諸部分ノ間ニ斯クノ如キ修整ノ次第アルヲ見ルトキハ、茲ニ功用ニ順應スト云フ事、即チ善ク統一スト云フ事ノ念ヲ生スルナリ。

技術ニ於ケル統一

人類ノ事業技藝ノ各部門ニ屬スル者ヲ稽ヘ

テ満足ノ念ヲ生スル所以ノ者モ、大抵其意匠ノ一定ノ功用ヲ以テ目的トシ、且ツ其構造果シテ此意匠ヲ實現シ得タリトノ觀念ヲ生スルニ因ラザルハ無シ。此次第ハ特ニ機械ニ關シテ眞實ナリ。機械ニシテ功用無キ者ハ所謂無用ノ長物ニ非スシテ何ソヤ、敢テ顧ミルニ足サルノミ、且ツ仮令一定ノ功用ヲ目的トストモ、其構造尙ホ未タ十分ニ其功用ニ順應セザルモ、人必ズ之ヲ改良センコトヲ望マザル無シ。正當ナル

方法ヲ以テ正當ナル事業ヲ實施スルトキハ、是ニ於テ始メテ十分ノ満足ヲ來タスナリ。
家屋建築ノ事ノ上ニモ均シク此意匠ハ、統一ト云フ者アラソク要ス。屋宇ヲシテ如何バカリ美術ノ元素ニ富マシムトモ、若シ其功用ニ適セザルトキハ、却テ人ノ心ニ不滿ヲ生スルヲ免レス。夫レ然リ然レバ則チ苟モ屋宇タル所ニ於テ缺ク可カラサル諸部分ノミヲ設ケテ其間ニ主一ノ功用ニ適センコトヲ勉メタル排置アラシメ、其他ノ功用ニ係ル部分ノ如キハ悉ク之ヲ省カザル可カラズ。建築上ノ才能ヲ檢討スル所以ノ標準ノ最良ナル者ハ、屋宇ノ必須ノ諸部分ノ布置排安ヲシテ、成ル可ク十分ニ其全体ノ功用トスル所ニ適セシメ得タル事是レナリ。斯ク統一ヲ主トスルノ制限ヲ守リナガラ、其範圍内ニ在テ種々様々ノ情致ヲ琢キ嗜好ヲ練ラソク決シテ難キニ非サルヘシ。

一室ノ修整、即チ器具什物ノ排布ノ事ニ關シテモ、十分ニ統一ノ原理ヲ實施スルトキハ、最大ノ満足ヲ覺ユルニ至ルベシ。此事ニ就キテモ功用ニ依テ全体ノ形勢ヲ定ムヘキニテ、此制限ヲ守リナガラ、其範圍内ニ在リテ各般ノ飾裝ヲ裁制スヘキナリ。坐室[#]及ヒ客室ノ如ク日々數時間身ヲ置クノ處ニ於テハ、繪畫及ヒ其他ノ美術品ヲ陳列スルコト正當ナリトス、是レ即チ視覺ノ及フ所ニ在ル物ヲシテ眼ノ生理上ノ要狀ヲ完クシ心意ノ所須ヲ充タスニ適當ナラシメントノ策ニ出ツルモノナリ。此旨趣ヲ體シテ適宜ノ參差ヲ計ルハ、統一ノ觀念ト毫モ矛盾スル所無シ。

統一ノ忽棄 || 世上建築ノ事ニ關シテ、統一ノ原理ヲ全ク忽棄スルコト多シ。例ヘバ寺院講堂等ヲ建築スルニ當テモ、只タ舊弊獨斷ノ格律ノミヲ墨守シテ其比例ヲ定メ、毫モ音聲上ノ功利ヲ考ヘサルガ故ニ、講

者ニ取リテモ聽衆ニ取リテモ、不滿ノ情ヲ來スノ外無キ者多キニ居レリ。公廳及ヒ家屋ヲ立ツルニ於テモ、只タ外貌ヲ主トシテ全ク實用ヲ忽ニスル者何ソ夫レ多キ。

又只タ粧飾ノミヲ旨トシテ無用ノ形容ヲ屋宇ニ添フルヲ(即チ直チニ粧飾ヲ目的トシテ粧飾ヲ施ス)ニ至リテモ、統一ノ原理ヲ破ル者タルヲ免レズ。屋背窓孔門戶及ヒ其他ノ必要ナル部分ノ構造ニ於テ形樣及ヒ修整ノ美ヲ求ムルハ則チ可ナリ、然リト雖モ、苟モ其構造ノ爲メニ必要トスル所ニ非サル形容ヲ以テ故サテ裝飾ノ爲メニ加フルハ不可ナリ。

聚集ハ統一ニ非ズ || 博覽會又ハ公立美術館ニ參觀スルトキハ、事々物々美ハ則チ美ナリト雖モ、尙ホ此統一ノ觀念ニ於テ喪フ所有ルモノ、如シ。其故何ソヤ。曰ク普ク此ニ採集スル物品ノ總數ニ周透ス

ル觀念トスヘキ者ハ斷エテ無ク、只タ聚集アルノミナレバナリ。是ヲ以テ尋常ノ參觀ヲ爲スノミニテハ、只タ心中何ト無ク錯雜シテ不滿ナル感情ヲ殘スベシ、更ニ快樂若シクハ利益ヲ得ルヲ無シ。若シ快樂又ハ利益ヲ得ント欲セバ、必ス注意ヲシテ單一箇ノ物体ノミノ上ニ凝聚セシメサル可カフズ、而シテ斯クスル場合ニ於テ觀念スル所ノ統一ハ、現ニ心目ヲ專注スル所タル一箇ノ物体ノ上ニ存スル統一ノミヲ容レテ、他ハ悉ク之ヲ遮蔽スルニ於テ始メテ全キヲ得ルモノタルナリ。

◎均齊 || 殆ント各種ノ有機生活物ノ標品ヲ取テ其諸部分ノ排布ノ次第ヲ觀察スルニ、必ズ左右兩偏ニ位スル部分ノ間ニ權衡ヲ保維スル一定ノ秩序ヲ見ザルハ無シ、而シテ此排布ノ次第ハ同一種ニ屬スル衆個體ノ表現スル所必ス同一ナルノミナラズ、同一類ニ屬スル數種屬

ノ間ニ在テモ亦必ス彼レ是レ相比類セサルハ無シ。例ヘバ植物ノ葉ノ如キモ或ル草木ニ於テハ莖幹ノ上ニ相反對シテ位シ、或ハ相交轉シテ位シ、或ハ其他ノ様式ニ於テ位スト雖モ、之ヲ要スルニ皆左右兩偏ノ載スル所ノ大体ノ上ニ相均一スル所有ラザルハ無キナリ。之ト同シ次第ニテ動物ニ至テモ、前肢ト後肢トノ間ニ權衡アリ、四肢及ヒ感覺機關モ各、二箇有リテ一箇ツ、左右相反對スル所ニ位セリ。斯ク左右二偏ニ在ル部分ノ間ニ權衡ヲ保維スト云フ排布ノ次第ヲ稱シテ均、齊ト曰フニテ、心之ヲ覺知スルトキハ則チ満足ノ感ヲ發ス、是ヲ以テ美妙ノ一元素ヲ爲スナリ。

自然ニ在ル均齊

|| 吾人住麗ナル木ヲ觀ルトキ感スル所ノ快樂ハ、

其暗ニ示ス所ノ均齊ノ觀念ニ原因スル所多シ。即チ斯クノ如キ木ハ、左右ノ表現スル所必スシモ精密ニ均一セストイヘモ、尙ホ且ツ全体ノ上ニ權衡ヲ喪フコト無シ。吾人ノ木ノ美ニ關スル觀念中ニ於テ、此均齊ト云フ者ノ占ムル所ノ部分輕少ナラサルコト知ラント欲セバ、試ニ落雷ニ逢ヒテ裂ケタル木ヲ觀察スベシ、然ルトキハ一偏ヲ損フニ由リテ、全ク美觀ヲ失ヘル次第ヲ悟ルコト得ヘキナリ。

就レ中動物界ニ在テハ諸部分排列ノ均齊トイフ觀念、吾人ノ心裡ニ銘刊スル極メテ深キヲ以テ、若シ少シニテモ之ニ違ヘル者ニ逢ヘバ、必ず異形ニ見エテ、不易ノ情ヲ起シ、憂苦ノ感ヲ生スルニ至レリ。例ヘバ彼ノ比目魚ヲ見ルニ、口ト双眼トノ相對ノ位置、甚シク通常ノ魚類ニ違ヘルテ以テ、果シテ過失ニ出ツル者ニ非スヤトノ念ヲ生シ、想像力徒ニ之ヲ矯正セント欲シテ止マサルカ爲メニ、心目不平ヲ覺エザル無シ。一肢又ハ一眼ヲ失ヒタル人ヲ見ルニ當テモ、同一ノ原因ヨリシテ、同様ノ憂苦ノ情ヲ發スルナリ。

技藝ニ於ケル均齊 || 凡ソ構造ヲ旨トスル人事ノ各部門ニ於テ、必
ス均齊ノ觀念ヲ實施セントセザルハ無シ。特ニ建美ノ業ニ在テハ、均
齊ヲ以テ殊リテ緊要ナル元素ト爲ス、則チ此業ニ於テハ、先ツ中心ノ一
觀念トスベキ者有ラン。トテ要シ、次ニ此觀念ニ朝揖スル衆部分ノ配
合ノ間ニ於テ平稱有ラン。トテ要ス。若シ此二ツノ要狀ノ一ツヲ缺ク
コトアレバ、必ス不易ノ情ヲ生シ、不具ノ感ヲ來タシテ、美ノ一元素ヲ喪
フナリ。

物体ノ位置正當ナラザル者ヲ見ルニ當テモ、右ニ比類スル感情ヲ來タ
セリ。即チ窓戶及ヒ其他總ヘテ屋宇中ノ直立スヘキ部分ニシテ若シ
準繩ニ違ヘルアルトキハ、此ニ憂苦ノ感覺ヲ生ズ、而シテ此感覺ハ觀察
力ノ教練上達セル人ニ於テ益、鋭敏ナリ。是レ蓋シ觀念聯合ノ心理ニ
因リテ、傾斜セル構造ヲ見ルトキハ、危險ノ念之ニ伴テ生スルニ歸スベ

キトナルベシ。

◎調和 || 諸部分ヲシテ功用ニ順應セシムル事ヲ主トスル統一ニ

親密ノ關係アル者ハ調和コレナリ、調和ノ係ル所ハ諸部分ノ係屬ト其
儀態ニ對スル關係トニ在リ。先ツ系屬ニ關シテ言ハノニ、此ニ調和ト
稱スル一事アラシガ爲メニ、物ノ諸部分中ノ主要ナル者ヲシテハ、最モ
著明ナラシメ、主要ナラザル部分ヲシテハ、成ル可ク注意ヲ牽合スル
無カラシメザル可カラズ。此意味ニテ言フトキハ、調和ハ甚タ比例ニ
近キ者ナリ、即チ通常比例ト云ヘバ、只タ部分ト部分トノ間ノ關係ヲ指
ストイヘ、今若シ此語ノ意義ヲ擴延シテ、首尾統一セル一個ノ完全ナ
ル構造ヲ組成セル一切ノ部分ヲ憶度スル者ナラシムルトキハ、則チ此
ニ謂フ所ノ調和ノ義ニ當ルナリ。

此意義ニテ謂フ調和ノ缺乏セル例ヲ舉クレバ、窓戶ノ其所在ノ壁ニ對シテ甚ク大ニ過キ、或ハ甚ク小ニ過キタルコト、屋背ノ微薄ニ過キテ殆ト見ル可カラザルコト、玄關ノミ廣大ニシテ恰モ玄關ノ後ニ家在リトノ評ニ當レルコト、屋宇ノ小ナルニ對シテ圓頂格ノ大ナル恰モ兒童ノ父ノ帽ヲ戴ケルガゴトクナルコト、及ヒ農家ノ排列法ノ常トシテ庭ノ却テ本宅ヨリモ著明ナルコトコレナリ。

儀態ノ調和 || 第二ノ意義ニテ曰フ調和ハ普ク諸部分ノ排列ノ細點及ヒ雕修ノ上ニ略ボ一定セル儀態ヲ保維シ、一部分ノ主トスル所ノ儀態ト、他ノ部分ノ主トスル所ノ儀態トノ間ニ、著大ナル異様無カラシメノコトヲ要ス。

此二者ヲ調和ノ理法ト云フ、若シ之ニ戻ルトキハ其物功用ニ適セザルニ非ザルモ尙ホ且ツ異ナル排列法ヲ取ルノ優レルニ如カシトノ念ヲ生シ、或ハ他ノ物ニ屬スヘキ部分ヲ以テ誤テ其物ノ一部ト爲セシニ非スマトノ疑ヲ招クナリ。

自然ニ於ケル調和 || 有機生活物ノ構造ヲ稽查スルニ、果シテ皆調和ノ觀念ヲ實現セサルハ無シ。各種ノ樹木ハ一々其固有ノ成長ノ法式アリ、又其儀型アリテ、其種ニ屬スル各一個ノ樹木ハ皆此法式ニ順合シ、多少其元型ニ類似セリ。松柏科ニ屬スル樹木ハ、通例尖塔形ヲ畫シ、且ツ此科ニ特異ナル枝ト葉トヲ有ス、又槭樹ハ其形其葉ノ儀型全ク他ニ異ナレリ、而シテ此二類ニ屬スル樹木ノ性質ヲ雜合セル者ノ如キハ、到底有ルヘキニ非ザルナリ、此儀態ノ調和セル例ニ於テハ一種一科ノ生

リナ
動物界ニ於テモ一般ノ形樣部分ノ排布、及ヒ特殊ノ形質ノ間ニ同一ノ調和ノ理法ノ在テ存スルヲ見ル。比較解剖學ノ士ヲシテ單ニ一本ノ

骨ヲ見テ以テ其動物ノ全体ヲ察知スルコトヲ得シメ、或ハ土石中ニ留
存スル片肢碎骨ノ印象ヲ見テ以テ既ニ現世ニ生存セサル生種ノ形状
ヲ追構スルコトヲ得シムル所以ノ者モ、一ニ此理法アルカ爲メニ生種ノ
儀態一樣ニシテ不易ナルヲ知ルニ因ルナリ。此ニ動物構造ニ調和ア
リトノ觀念、世人ノ心理ニ刊銘セルノ深淵ナルヲ証スルニ足ル一事ア
ルハ他無シ、曾テ澳斯太利ニ於テ鳥類ノ形質ト哺乳動物ノ形質トヲ併
セ備フル生種ノ遺骨ヲ發見セシトキ、世人ハ久シク之ヲ信用セズシテ
虛説ト做シ、既ニ十分ノ証據アリテ、猜疑シ難ク成リタルニ及テモ、尙ホ
之ヲ以テ天地自然ノ秩序ニ合ヘル物トセズ之ヲ視ル恰モ怪物ヲ視ル
カ如キ感アリシコトナリ。

技術ニ於ケル調和 || 建築ニ於テハ調和ナル者特ニ緊要ナル元素

ヲ做ス。建築ノ儀態タル、一ニシテ足ラスト雖モ、偶然ニシテ定マレル

者ニ非ズ、必ス種々相異ナル事情ノ有ルニ因テ起リシ者ナリ、是ヲ以テ
各種ノ儀態ニ屬スル種々ノ形様ハ、一々畫然トシテ一定セル觀念ヲ表
現シ、悉ク皆完全ナル一体ノ上ニ於テ缺ク可カラザル所タル者ナリ。
此レ彼レ相異ナル儀態ノ間ニ普通ニ屬スル形様ハ殆ト一モ無シ。是
故ニ若シ誤テ甲ニ屬スヘキノ形様ヲ以テ、乙ニ屬セシムルカ如キコト
ルキハ其不整合ナル、恰モ同一格ニ松ト楸トノ枝葉相交リテ成長スル
ヲ見ルトキノ如クナルナリ。

例ヘバ希臘ノ建築ハ氣候温暖ニシテ人民年中ノ大半ハ戶外ニ生食ス
ルニ適シタル地ニ於テ廣大ナル殿堂ヲ構造セントスルニ因テ發達セ
シモノナリ、故ニ其形状ハ斯クノ如キ事情ニ依テ定マリタルモノナリ。
即チ此派ノ建築ノ儀型トスル所タル殿堂ハ四角形ヲ畫スル四壁ト、圓
柱ヲ以テ提捧セル内外ノ前亭ト、殿堂ノ前面ニ在テ我カ繪馬堂ノ如ク
四方ヲ開キタル構造ヲ云フ、昔者ゼノ

ト稱スル哲學者アセン、スノ殿堂ノ前亭ニ於テ徒第ニ授講セシ四壁ノ
事ナド傳記ニ見ユタリ、サレバ甚タ廣大ナル者タリシナルヘシ
内部ニハ濶大ナル内庭アリタリ。希臘人ノ繕飾上ノ精巧ヲ悉ク前亭
ノ嚴裝ニ盡シタリ、蓋シ前亭ハ人民ノ公會處ニシテ構造ノ主要ナル部
分ナリシヲ以テナリ。然ルニ今若シ寒冷ヲ防禦セシテ以テ家屋ノ
第一ノ目的トスヘキ地邦ニ於テ希臘風ノ殿堂ヲ建築スルトキハ、實際
前亭ヲシテ無用ニ屬セシムルノミナラズ、却テ光明ヲ障蔽スルユエ、正
面ノ不利アリ。即チ斯クノ如キ宮殿ノ主要ナル部分ヲシテ其功用ニ
調和セザラムルニ至レリ。又希臘ノ殿堂ト共ニ發展セシ形様ヲ以
テ、異ナル事情及ヒ必須ニ因テ成長セシ屋宇ヲ繕飾スルニ用非ルニ於
テモ、調和ノ理法ニ遠戻シテ不愉快ノ感ヲ生セザル無シ。

調和ノ缺乏 —— 一派ノ建築ニ雜フルニ、他派ノ建築ニ屬スル特異ノ
形質風様ヲ以テスルニ於テモ、等シク調和ノ缺乏ヲ來タセリ。ノルマ

人ノ城堡ノ凸壁及ヒ敵樓ハ、中古戰爭間斷無カリシ時代ニ際シテ、防
禦ノ爲メニ築構セシ者ナリ、又ゴシック風ノ十弧線ノ弓形門ハ、宗教上
ノ熱心ニ根原スルモノナリ。是ヲ以テ此二風ノ形様ヲ結合シテ以テ
今日ノ住居ノ所須ニ應用セントスルカ如キハ、二重ニ整合ノ律ヲ犯ス
モノト謂フ可シ。

◎駁雜 —— 自然ノ形象ヲ細密ニ研究スルトキハ物トシテ比例統一、
均齊ノ理法ニ順應セサルハ無シト雖モ、之ニ順應スルト同時ニ、又二物
トシテ全ク相同シキハ決シテ無キヲ知ルベシ。例ヘバ木葉ノ如キ
皆普通ノ儀型ニ順合スト雖モ、尙ホ且ツ一々相異ナラサルハ無シ、二條
ノ枝ニシテ形様相似タル者ハ無ク、二株ノ木ニシテ様貌ノ相近キ容易
ニ辨別シ難キカ如キハ無シ。動物界ニ於テモ亦然リ、曾テ二頭ノ動物

ノ全ク相等シキヲ見シ事無ク、同一動物ノ軀軀ノ左右二半ノ如キモ全ク相同シキニ似タリト雖モ、尙ホ且ツ精密ニ觀察スルトキハ、微細ノ點ニ於テ差違セルヲ見ルベシ。斯クノ如キ差違ハ物ノ純音ヲ破リ、絶エズ印象ヲ新奇ニシ以テ愉快ノ情ヲ惹起スルノ徳有リ、知ルベシ參差駁雜モ亦美ノ本然ノ元素ノ一ナル事ナリ。

自然ニ於ケル駁雜 || 自然ノ形象ノ間ニ見ル可キ駁雜ニ關シテラ
スキソ氏言ヘルアリ、曰ク

〔主トシテ郊野ノ美ヲ呈スル者ハ、樹木ト芳花トナリ、今試ニ手ニ隨テ其一枝ヲ採ルトセンカ、例ヘバ余ハ普通ノ秦皮トナリコノ一條ヲ採ラン。サルホドニ「自然」ハ等均ト云ヒ類似ト云フイテ厭惡スル、猶ホ痴者ノ之ヲ戀愛スルカゴトクナルガ故ニ、能ク此條ヲ稽查スルトキハ、其嫩芽ハ葉ヲ荷ヒテ四方ニ射出スル四箇ノ綠莖ニ終リ、上ヨリ望メバ恰モ

十字形ニ髣髴タリト見エ、初見ニハ此十字形ノ四肢皆等均スト思フベシ。サレド尙ホ親密ニ觀察スルトキハ、反對ノ二肢、即チ二莖ハ各、五葉ヲ有スレトモ、他ノ二肢ハ各、七葉ヲ有スルヲ知ルベシ、或ハ又二肢ハ各、七葉ヲ有スレトモ、他ノ二肢ハ各、九葉ヲ有スルヲ知ルベシ、何ニシテモ一對ノ莖ハ他ノ一對ニ比スレハ二葉ヅ、多クヲ有スルイ動カザル所タルベシ。或ハ又稀ニ此木自ラ迷フ所有リテ何レヲ最モ長キ莖ト成スベカリシヤヲ忘レ、九葉ヲ備ヘシムヘキ一肢ヲシテ誤テ七葉ヲ備ヘシメントシ、將ニ成就セントスルニ臨テ始メテ其非ヲ悟リ、急キニ急キテ今一葉ヲ加ヘタルカ故ニ、八葉ヲ備ヘタル莖ヲ生スル事モ無シトセズ。總ヘテ其心ヲ用井ルノ深キ斯クノ如クナルハ、單タ等均ニ陷ルイテ避ケンガ爲メナルノミ、而シテ其形ノ從容ナル事ト、人目ヲ悞マシムルノ徳トハ、畢竟斯ク心ヲ用井ルノ深キニ因ル

モノナリ。又斯ク排列シタル四莖ノ本條ヨリ生へ出ズルニ於テ畫
スル曲線ノ婀娜ナルモ自ラ美容ノ一原因ヲ爲セリ。
ラスキン氏又曰ク、

「吾人同一ノ事ヲ幾回モ聞クトキハ歡娛ヲ感スル事無シ、之ト同シ次
第二テ、世界ニ於テ最モ善且ツ美ナル者トイヘトモ、之ヲ見ルコト數
度ニ及フトキハ、好味ヲ失フヘキモノナルニ、間、然ラザルコトアルハ、
果シテ何ノ故ソト思フト。或ハ言フ人アラン、吾人朝陽ノ東ニ登リ、
夕陽ノ西ニ沈ミ、董菜ノ野ニ咲キ、薔薇ノ庭ニ笑フヲ見ルコト幾回ナ
ルヲ知ラズト雖モ、曾テ厭倦ヲ來タセシ事ヲ知ラズト。答テ曰ク、其
實ハ人決シテ今朝ノ日出ノ、前日ノ日出ノ如クナルヲ見シ事無キニ
テ、上帝ハ毎朝毎夕雲霞ヲ變易シ給ヘルアリテ此世界ノ回轉スルニ
從ヒ大圓球ノ或ハ顯レ或ハ隠ル、コト是レ既ニ幾千万回ノ多キニ

至ルトモ尙ホ且ツ人ヲ喜バシムルニ足ル者ナルヘシト雖モ、其實ハ
尙ホ此上ニモ日々模様ヲ改メズト云フ事無キナリ。人屢、董菜及ヒ
薔薇ヲ見ルモ倦マズ其故何ソヤ、二箇ノ薔薇ノ相同シキヲ見ズ、若シ
之ヲ見ルモ快意ヲ失ハントヲ恐レテ同一ノ花束ニ加ヘ置カザレバ
ナリト。

技藝ニ於ケル駁雜 || 斯ク「自然」ニ於ケル美ノ樞要ノ元素ト爲レル

駁雜ハ、又技藝ノ上ニ在テモ同様ニ重大ナル地位ニ居レリ。此事ハ吾
人ノ住居ノ建築ニ關シテ特ニ著シキ者アリ。一室ニ就テ之ヲ言ヘバ、
四方ノ窓孔ノ大小及ヒ布置ヲ異ニシ、嵌板ヲ裝置シテ四壁相同シク見
ユルヲ避クルハ、大ニ快愉ヲ加フヘシ、又一字ニ就テ之ヲ言ヘバ、其諸
部分ノ排列ニ於テ應分ノ參差ヲ計リ、以テ均齊ノ方正ヲ破ルトキハ、大
ニ美觀ヲ加フヘキナリ。諸方ノ製造場ヲ見ルニ前面ノ諸窓皆形ヲ同

クシ其距離ノ如キモ、全ク相等均スルヲ以テ、純音特ニ甚シク、醜モ亦極マレリ、自餘ノ屋宇トイヘテ製造處ノ風ニ近キニ從ヒ益醜ナラサルハ無シ。

市中ノ純音 〓 市府ニ於テ家屋ノ聚合スル景勢ニ關シテモ、同一ノ原理アルヲ見ル。即チ建築ノ規模、全体ノ比例ヨリ謂ヘバ、如何ニ善良ナルモ、若シ街ノ一端ヨリ多端ニ至ルマテ戸々規模ヲ同クスルトキハ、必ス究屈ヲ感セサルコト無シ、是ヲ以テ會、一茅屋ノ弊ル、ニ垂タルヲ見テモ、純音ヲ破ルノ効有ルカ爲メニ、却テ斷然愉快ヲ添フルナリ。若シ世人一統ニ技藝ノ旨趣ヲ解シ、建築ノ原理ニ通スルノ日到ラバ、其築構スル所、人々ノ特殊ノ嗜好ヲ表現スル事ト成リ、從テ斯ル家屋ノ聚合スル處タル市街ノ如キモ、駁雜ニシテ參差アル、恰モ人心ノ相同シカラザルガ如クナルニ至ルベシ。然ルトキハ、市街モ亦新奇ノ形様ヲ以テ

絶エズ心目ヲ喜ハスノ本源ト成リテ、一家一字美恣ノ變態ナラサルハ無ク、其全体ニ於テ教育上最モ貴重スヘキ影響ヲ及サスンハアルヘカラズ。

對比ノ例件 〓 米國ノ主要ナル都會ノ一ニ於テ、二個ノ高價ニシテ堅牢ナル公廳、相近ク岐立ス。其一ハ均齊方正ニシテ同數ノ窓、中央ノ門道ノ左右ニ整列セリ。窓及ヒ戸ニハ最モ緻密ニ彫刻シタル石造ノ裝飾アリ、又腰線ニ沿ヒテモ高價ナル彫刻簇々粲々タルアリ。然レモ其窓ハ皆形ヲ同クシ、其彫刻ハ皆象ヲ一ニシテ、恰モ同一模型ヲ以テ塑造シタルモノ、如シ。是ヲ以テ一見スルトキハ、則チ全体ノ旨趣ヲ領會スルコト得テ、更ニ餘情ヲ殘サズ、只タ巨額ノ勞力ト費用トノ展覽タルニ外ナラザルナリ、故ニ見ル者若シ厭惡ノ情ヲ發セザレバ、必ス愛玩ノ念ヲ起ス事無シ。

之ニ反シテ今一ノ公廳ニ至テハ、該部分一般ノ權衡素ヨリ其宜シキヲ得テ、均齊ニ關シ、心目満足スルガウヘニ、窓及ヒ其他ノ諸部分、一々形様、大小、及ヒ裝飾ノ彫刻ヲ異ニセリ。各窓其意匠ヲ異ニシ、二箇ノ彫刻トイヘニ相似タルハ無シ。サリトテ又差違急突ニ過キテ調和ノ理法ヲ破ルニ至ラズ、全体ヲ評シテ駁雜ノ中ニ統一アリト謂フノ外無カラシム。是ヲ以テ眼圖ラズ此構造ニ着スルキハ、先ツ其全体ノ形様及ヒ彩色ノ美ニ致リ、之カ爲メニ誘ハレテ尙ホ綿密ニ觀察スル所有ラントス、然ルキハ次ニ諸部分ノ排列其宜シキヲ得テ、各部分全体ノ美ヲ資クル事ニ留マルベシ、而シテ最後ニ至リ、彫修繕飾ノ功妙ヲ極メタルニ心ツキ、一形一象トシテ趣ヲ異ニセサルハ無ク、新奇ノ快情ヲ振起スルノ原因ト爲ラサルハ無キヲ悟ルヘシ。斯ク觀察ヲ密ニシ研究ヲ疊ヌルニ從ヒテ最初ノ一見ニ因テ得タル愉快ノ情ヲ益、深クシ、美ノ感覺ヲシ

テ十全ノ満足アラシムルナリ。

◎光彩 美ノ原本ノ元素ノ今一ハ光彩コレナリ。眼ノ物体ヲ見

ルコトヲ得ル所以ノ光明ハ、主トシテ太陽ニ出ツ、而シテ眼ト日光トノ間ニ本來相應スル所アルニ因リテ、日々見ル所ノ通常ノ光明ハ、眼ノ爲メニ最大満足ヲ來タスモノナルニ反シテ、日光ト精要ヲ異ニスル類ノ光明ヲ見ルトキハ、不易ノ念ヲ起スモノナリト假定スルモ誤謬無カルヘシト信ス。然リト雖モ亦人ハ大抵直接ニ太陽ノ光線ヲ眼ニ受クル事無ク、其屈曲シテ種々ノ物体ノ上ニ緩散セルヲ見ルヲ常トス、而シテ衆物体ノ反對スル所決シテ一樣ナラズ、必ス種々厚薄ノ度ヲ異ニセリ、是ノ參差ハ單ニ眼ヲ息ムルノ効アルノミナラズ、又之ニ依ラズンハ視覺ニ依テ外物ノ形情ヲ辨別スルニ由無キモノナリ。若シ人ノ眼ニ入ル

一切ノ光明ヲシテ其度チ一ニセシメタラシムニハ、物体ノ形樣ト云フ者悉ク化消シテ美ト云フ者モ全ク虛無ニ歸スヘシ。

光彩ノ美ノ標準

太陽ノ光線ヲ分析スルトキハ、所謂三角鏡色ナ

ル者ヲ得ヘシ、是レ實ニ光彩ノ美ノ標準ナリ、而シテ光彩結合ノ比例ノ最モ善ク眼ヲ喜ハスニ足り、從テ最モ美ナル者モ、太陽ノ七色コレナリト假定シ、又一々別在スル彩色ノ中ニ於テモ、眼ノ最モ久シク見ルニ絶ユル諸色ハ此等ニ外ナラズト假定スルコソ最モ誤無キニ庶シト信ス。例ヘバ原色ノ中ニ於テ青ハ殆ト光線ノ二分ノ一ニ居リ、黒ハ其四分ノ一ニ居リ、青ト黃トノ結合ハ綠ヲ生ス、今ヤ經驗ニ依テ是レヲ觀ルニ、果シテ眼ノ善ク青ヲ見ルニ絶エテ不易ヲ感セサルノ久シキ、他ノ原色ノ黃上ニ出テ、善ク青ヲ見ルニ絶エテ、疲倦ヲ來ササルノ久シキ、他ノ亞色ノ上ニ出ツ。天ノ青色ト、地ノ綠色トハ「自然」ノ表現スル彩色ノ中ニ於

テ最大塊ヲ成ス者ナリ、從テ眼ノ能ク安シテ之ヲ見ルノ久シキ事モ、自餘ノ彩色ノ比ニ非ズ、サレハ此事ハ一方ニ於テハ比例ノ美、太陽ノ光線ニ在リトノ觀念ヲ憑証シ、又一方ニ於テハ内境ノ事情即チ人類ノ性質善ク外界ノ實在即チ物体ノ實理ニ順應ストノ義ヲ明示スルニ足レリ。

對色

右ニ言フ如ク、太陽ノ光線ハ最モ善ク眼ノ所須ニ適シタル

比例ヲ備フル者ナルガ故ニ、若シ眼ニシテ一色ノ別在スルヲ見ルトキハ、必ス早晚疲倦セザルコト無キナリ、而シテ其斯ク疲倦スルニ際シテハ、之ヲ休ムルノ法、所謂對色ナル者ヲ觀ルニ在リ。即チ太陽ノ光線ハ三原色(青黃赤)ノ結合セル者ナルガ故ニ、其一ハ他ノ二色ノ別在スル者、又ハ結合セル者ニ關シテ所謂對色ナル者ヲ爲スナリ。例ヘハ眼ハ能ク久シク綠色ヲ見ルニ絶ユルコト、自餘ノ鮮色ニ越ユト雖モ、尙ホ且ツ久シキニ過クレハ遂ニハ疲倦セリ、而シテ其果シテ疲倦スルニ臨テハ、之

カ對色タル赤色ヲ見ンコトヲ要ス。同シ次第ニテ、眼紫色ニ倦ムトキハ、黄色ヲ見ンコトヲ要シ、橙色ニ倦ムトキハ、青色ヲ見ンコトヲ要スルナリ。又例ハ青ノ如キ單純ナル色ニ倦ムトキニ當リ、若シ眼ヲ轉シテ、例ハ緑ノ如ク青ヲ包含スル複雑ナル色ヲ見ルトキハ、其中ノ青ヨリ成リ立ツ元素ハ眼ニ入ラザルカ爲メニ緑ハ恰モ黄ノ如ク見ユベシ。又對色ヲ相接近スル處ニ置クトキハ、互ニ他ノ一色ヲシテ鮮明ナラシメ、以テ一種ノ愉快ナル結合ヲ生ス、例ハ紫黃相交レル草花及ヒ赤色赫々タル草花ノ綠々タル春草ト相對スル場合ニ於テノ如シ。若シ二種ノ非對色ノ普通ノ元素ヲ包含スル者(例ハ青ト綠ト)ノ如シ、並存スルニ臨ムトキハ、互ニ他ノ著明ナルノ度ヲ減スルノ影響アリテ、又一種ノ愉快ナル結合ヲ生ズ、即チ山谷ノ間ニ於テ草花ト發色セル苔トノ自然ニ相交レルヲ見、或ハ空氣ノ微薄ニシテ透明ナル青色ニ因テ廣大ナル郊野ノ綠色ヲ緩和スルヲ見ル場合ニ於テノ如シ。

光彩ノ駁雜 凡ソ光彩ノ種類ハ、制限無キ者ナリ、即チ様々ニ比例ヲ變シテ二ツノ原色ヲ結合スルニ因テモ數多ノ雕色ヲ生シ、種々ノ雕色又一々無數ノ深淺濃淡ノ差違アリ、或ハ又種々ノ原色ノ益、複雑ニ結合スルコト有リテ、自然ニ制限無ク只タ人類ノ視力ノ諸色ヲ辨別スル能力ニ制限アルノミニ因テ光彩ノ駁雜ニ制限ヲ生スルモノトス。サレド亦此能力ノ制限ハ人類ノ發育ニ從テ漸々變遷スル者ナリ、即チ未開ノ民種ハ只タ鮮明ナル彩色ノミヲ喜フトイヘ、好尚ノ修練進歩スルニ及テハ、却テ緩和ナル中庸ノ諸色ノ微薄ナル深淺濃淡ノ雅趣ノ上ニ一層高尚ナル美觀アル事ヲ感知スルニ至ルナリ。

光彩ニ注意スヘキ事 凡ソ光彩ハ、美ノ觀念中ノ重大ナル處ニ居リ、衣服家具、工藝ノ上ニ在テ、應用ノ範圍、最モ廣濶ナル者ナレバ、學校ニ

於テハ、特ニ深ク其理論ト實際トノ教授ニ注意スヘキナリ。近年ニ至リ、光明ノ性質ニ關シテ、數多ノ發明ヲ爲セシニ因リ、大ニ此事ヲシテ理學的ノ精密ヲ加ヘシメタリ、是ヲ以テ今日ノ教師ハ、理學上ノ討究法ニ依テ之ヲ教授シ、以テ好尚ノ修練ト、理學ノ修練トヲ結合スルヲ得ヘキニ至レルナリ。

◎音聲

夫レ美ナル者ハ、獨リ視力ノ目的タル光彩ノ間ニ存スルノミニ非ズ、又音聲及ヒ音聲ノ結合ノ或ル者ニ至リテ、光彩ニ因テ生スル所ニ比類スル快樂ヲ惹起シテ美ノ感覺ノ認識スル所ト爲レリ、故ニ之ヲ稱シテ音聲ノ美ナル者ト曰フ。音聲ノ中ニ就テ、稱シテ美ナリト爲スニ足ル者ハ、人類ノ發聲ト音聲トノ二ヲ出テズ、蓋シ音聲ト曰フ中ニハ、唱歌スル聲ノ音聲ト、樂器ヲ以テ奏スル人爲ノ音聲ト、鳥類ノ天然

ノ聲曲トヲ包括ス。

音樂上ノ知覺力ノ根源

音樂ニ關シテモ、形樣ノ場合ニ於テノ如ク、美ノ標準ト做スヘキ者ニ關シテ、二派ノ理論アリ、其一ハ之ヲ以テ直覺ニ依テ神靈上ノ完全態ニ近キ者ヲ覺知スルニ起ルト爲シ、他ハ之ヲ以テ人類發達ノ沿途ニ於テ經驗ヲ積テ得タル所ナリト爲セリ。ヘルベルト、スペンセル氏ハ後ノ理論ヲ取リテ其要ヲ撮シテ曰ク

「余輩ノ證明セシ所ヲ數フレバ、左ノ如シ、曰ク感覺ト筋骨ノ發作トノ間ニ一定セル生理上ノ關係アリテ、此關係ハ人類ニモ百種ノ動物ニモ普通ナルヲ、曰ク口ヨリ發スル音聲ハ筋骨ノ發作ニ因テ出ツル者ナルガ故ニ、感覺ト口ヨリ發スル音トノ間ニモ亦生理上ノ關係アルヲ、曰ク聲ノ變化ニ依テ感情ヲ表現スルハ、直接ニ此生理上ノ關係ニ原由セル結果ナルヲ、曰ク所謂音樂ナル者ハ、總ヘテ此ニ原由スル音

聲ノ變化ヲ取リテ之ヲ朗烈ニシタル者ナルニテ、其益、高尙ナル者ヲ取リテ朗烈ニスルニ從ヒ、益、音樂ノ音樂タル所以ノ高尙ナル處ニ入ル者ナルヲ、曰ク自家ノ詩篇ヲ呻吟セシ古代ノ史詩ノ作者ヨリ、當今ノ聲曲家ニ至ルマテ、皆感情非常ニ激烈ナル人物ニシテ、常ニ最モ激烈ナル形様ヲ以テ此激烈ナル感情ヲ表現セントスルノ嗜癖アルカ爲メ自然ニ斯ク之ヲ朗烈ニスルノ業ヲ取ルニ至リシモノナルヲ、曰ク此ノ化シテ理想ト成リタル情緒ノ聲音即チ音樂ト情緒自然ノ聲音トノ間ノ懸隔ハ初メ僅少ナリシヨリ、漸次廣大ニ進ミシモノナルヲ、曰ク此ノ直接ノ證據アルカ上ニ、又自餘一切ノ思考ハ以テ音樂ノ根源並ニ其善ク情緒ヲ表現スルノ徳アル所以ヲ詳ニスルニ足ラズト云フ間接ノ證據モ有ルヲ是レナリト。

今ヤ吾人ハ音樂ノ本性及ヒ根源ニ關スル此二派ノ理論ノ孰レヲ取ル

トスルモ、茲ニ到底同意セザルヲ得サル所ノ者有ルハ他無シ、音樂上ノ能力ハ得テ修練ス可キ者ナルヲ、音樂上ノ修練ハ完全ナル教育ノ一部ニシテ、其人ニ賦附スルニ一種特別ノ快娛ヲ得ルノ能力ト方法トヲ以テスルノ徳有ル者ナルヲ、及ヒ此修練ハ之ヲ學校ノ授業ノ一部ニ置クヲ以テ十全ニ正當ナル處置ナリトスルヲ是レナリ。

音樂ノ好尙上及ヒ道德上ノ價格 || スペンセル氏發育ヲ十分ニス

ル爲メニ音樂ノ緊要ナル所以、及ヒ之ヲシテ教育ノ上ニ於テ占メシムヘキ置位ノ如何ヲ解説シ得テ妙ナレバ、此ニ再ヒ氏ノ語ヲ抄録セントス、曰ク

「文明ノ趨向ハ益、人類ノ性質ノ中ニ在ル爭鬪ノ元素ヲ殺滅シテ親交ノ元素ヲ開展セシムルニ在リ、即チ人類ノ純然タル自愛ノ情願ヲ抑制シテ他愛ノ情願ヲ運用スルニ在リ、私利ノ慾望ニ代フルニ他人ノ

幸福ニ根基シ或ハ他人ノ幸福ヲ包容スル慾望ヲ以テスルニ在リ、而シテ斯ク社會ノ状態ニ順應セントスルニ因テ人類ノ本性中ノ交感ニ係ル部分ノ啓發スルト同時ニ、又交感ニ基ツク交際ニ於テ用井ヘキ言語モ成長セリ、即チ自身ノ感覺スル所ノ幸福ヲ以テ他人ニ告ケ、他人ノ幸福ヲ以テ自身ニモ同感スル所以ノ言語コレナリ此ニ言フハ眞ノ言語ノミニ非ス總ヘテ感情志念ヲ表現スル所以ノ者ヲ指スナリ

學校ニ於テ授クル音樂

音樂ヲ學校ノ課業ニ加フルノ可否ニ關シテ世ノ論者中ニ種々ノ議論ノ起リテヨリ、之ヲ可トスル論說ノ最モ動カシ難キ者ヲ出シタリ、爾來經驗ニ徴シテ之ヲ見ルニ、音樂ハ學校授業ノ定規ニ於テ必ス缺ク可カラザルノ一事ナリト假定スルモ誤無キヲ保スル益、確實ナルモノアリ。即チ各科各級ノ生徒ヲシテ日々唱歌ヲ演習セシメ、以テ一ハ直接ニ快樂ヲ感セシムルノ資ト爲シ一ハ好尙

ノ修練ヲ進ムルノ料ト爲シ一ハ學校ノ授業ヲ利スルノ策ト爲スヘキナリ。高尙ナル科級ニ至リテハ音樂ノ技術ニ加フルニ、之ガ理、學ヲ以テスヘシ、且ツ唱歌ハ樂器ヲ用テスル各種ノ奏樂ニ比スレバ遙ニ重大ナル者ナルガ故ニ、特ニ深ク之ニ注意セシムヘシ。

學校ノ音樂ノ品格

夫レ音樂ノ用ハ、情緒ヲ表現シ、之ニ依テ性質ノ上ニ反動シテ、尙ホ又情緒ヲ衝動シ、以テ益、之ヲシテ適當ナル表現アラシムルニ在リ、是ヲ以テ學校ニ於テ教授スル音樂ノ品格ヲシテ其宜シキヲ得シムルハ、無比ニ重大ナル事トス。音樂ニ於テモ文章ニ於テノ如ク、賤劣ニシテ情慾ニ趨ル者有リテ、此等ハ却テ嗜好及ヒ感情ヲシテ卑劣ナラシメントス。音樂聲曲ノ中ニモ廉價ノ小説戯作ニ比敵スル者アリテ其中ニハ全ク旨趣ヲ缺ク者有リ、情慾ニ趨テ情慾ニ終リ、決シテ慈善ヲ勤メズ德行ヲ促サバル者有リ、嘲弄ヲ旨トシ、高貴温雅ナル

者ヲ轉シテ賤劣鄙俗ナラシムル者有リ、野鄙ニシテ痴情ニ籍スニ盛徳ノ皮相ヲ以テスル者有リ、惡魔ノ如クニシテ直接ニ劣情ヲ鼓舞スル者有リ。總ヘテ此類ノ音樂ハ、務メテ之ヲ避ケザル可カラズ、而シテ特ニ高尙ナル性質ヲ振起シ、利己ヲ遏止シ、劣情ヲ抑制スルノ傾向アル者ノミヲ取ルヘキナリ。斯ル傾向アル音樂ハ直接ニ好尙ノ發育ヲ補益スルカ上ニ、又道德修練ノ緊要ナル元素トモ成レリ。

發聲——人ノ發聲ニ二重ノ功能アリ、一ハ言語及ヒ言語ノ結合ニ因テ思想ヲ表現スル事ト、二ハ主トシテ音調ノ資質及ヒ變化ニ因テ感情ヲ表現スル事ト是レナリ。道德ノ修練ニ於テハ、目的トスル所、情慾、軀慾及ヒ利己ノ情癖ヲ仰制シ、交感及ヒ愛他ノ念慮ヲ養成シ、一切ノ行爲ヲシテ道理ノ管理ニ順從セシムルニ在リ。好尙ノ修練ニ於テハ本旨トスル所、道德ノ修練ヲ助ケテ抑制スベキ情緒ノ表現ハ之ヲ禁遏シ、養成

スベキ温厚ナル情緒ノ表現ハ之ヲ修練シ、以テ去レ惡爲レ善ノ堅固ナル氣習ト爲スニ在リ。

不愉快ナル音調——通常談話ノ際ニ於テ音調ノ高キハ精神ノ傲慢ナルヲ、情操ノ荒粗ナルヲ、若シクハ強テ人ニ聽カレントスル利己ノ決心アルヲ表現シ、其銳キハ氣質ノ善良ナラザルヲ表現シ、其訛々トシテ詆ルカ如キハ人ヲ害セントスルノ性情アルヲ表現シ、其蘇々トシテ平滑ナラザルハ思慮不足シ、人情交感ニ乏シキヲ表現ス。斯ルカ故ニ、若シ生徒ヲシテ單ニ此クノ如ク不愉快ナル音調ヲ擬セシムルノミナルトキハ、必ス其心中ニ於テモ初メ之ヲ用非ル人及ヒ其他ノ人ノ之ニ由テ自然ニ表現スル所ノ情緒ヲ惹起スルニ至ルノ外無シ、サレバ教師タル者ハ常ニ小心翼々トシテ自家ノ發聲ニ注意シ、又生徒ノ談話ニ留心シテ止ムトキ無カルベキナリ。若シ發音ノ教練ニシテ一旦

其宜シキヲ得バ、好尙上ノ感覺發達セシ、好尙上ノ感覺發達セバ、又反動シテ發音ノ美ヲシテ一層増進セシメ、漸ク進行シテ、遂ニハ教師並ニ生徒ノ用井ル所單ニ親愛温厚ノミヲ表現シ、敢テ其他ヲ表現スル所無キニ至テ竣テ始メテ止ムヘキナリ。

◎全体ノ綱領——上文剖析スル所ヲ通讀セバ、美ノ本性及ヒ元素ノ普遍ナルコト何處ニモ必ニ關シテ盡然タル觀念アルヘク、且ツ好尙修練ノ一方ニ於テハ理學ニ跨リ、一方ニ於テハ道德ニ涉レル所以テ了解スヘキナリ。又今日弘ク世ニ行ハル、觀念、即チ好尙上ノ感覺ノ與リ關スル所ハ、通シテ美術ト稱スル名目ノ中ニ包括スル繪畫及ヒ其他ノ物品ヲ品評シ製作スルノ業ノミニ在リト做ス觀念ノ、甚タ謬妄ナルコトヲモ了解スルコトヲ得ベシ。蓋シ美術ヲ以テ好尙上ノ發動ノ正當ナル範圍

ヲ畫スル者ナリト爲スハ確論ナリ、然リト雖モ亦何ソ獨リ斯ル區々ノ少技ノミヲ以テ美術トセンヤ、須ク其範圍ヲ擴張シ、苟モ百般ノ物体及ヒ材料ノ排列法ニシテ、美ニ根原スル満足ノ情ヲ心中ニ惹起シ來ルニ足ル一切ノ事物ヲシテ其中ニ囊括スル所ヲラシムヘキナリ。此目的ヲ達スル所以ノ作法ニ二アリ、曰ク心中ニ美ヲ爲ス者ノ何タルニ關スル意匠ヲ得ルコト、曰ク凡ソ取用スルコトヲ得ヘキ材料ヲ排列シテ畧ホ此意匠ニ合ヒタル趣アラシムル實地ノ才能ヲ得ルコト是レナリ。此二ツノ作法ハ、思想ノ上ニ於テこそ斯ク分離スルコトヲ得ヘケレ、實際ニ於テハ然スルコト殆ト難ク、其一方ニ關スル一步ハ、必ス他ノ一方ニ關スル一步ノ之ニ伴フ者有ルヲ要スヘキナリ。凡ソ事ヲ爲サントスルノ奮勵ハ、爲スヘキ事ノ如何ニ關スル知識ヲ増殖シ、知識増殖スルトキハ、又反動シテ之ヲ爲スノ能力ヲ増大スルモノナリ。

◎好尙上ノ授業——今日ノ學校ニ於テ好尙ヲ修練セシカ爲メニ施スヘキ授業ノ作用ハ、直接ナル者ト間接ナル者トノ二有ラシト要ス。其直接ナル者トハ、美ノ觀念ヲ發達セシムルト、實地ニ之ヲ表現スルノ才能ヲ得シムルトヲ曰フ、其間接ナル者トハ學校ニ屬スル一切ノ事物器用ノ排列ヲシテ覺ユズ知ラズ美ノ觀念ヲ生徒ニ傳フルニ適シタル者ナラシムルヲ曰フ。

教場——教場ヲ構造スルニ當リ、須ク比例統一、調和ノ三事ニ注意シ、以テ之ヲシテ寧ロ好尙上ノ感覺ヲ満足セシムルニ適ストモ、決シテ不満足ノ情ヲ發セシムルガ如キヲ無キヲ計ラサル可カラズ。房室ノ形狀、牆壁ノ彫修、什物ノ形質、皆繫ル所最モ重大ナラザルハ無シ。幅ノ堅ヨリモ長キ其四分ノ一ニ至レル室ニシテ、闊大ナル光明ヲ入ル、ニ足ル群窓ノ設アリ、且ツ「ペンキ」ヲ用非ズ寧ロ天然ノ木理ヲ以テ雕修シ、牆壁ニ

施スニ温雅ナル染色ヲ以テスヘシ、斯クストモ初ノ要スル所ノ費用ニ至リテハ往々世上ニ見ル如ク恰モ屋宇ノ藏書ニ髣髴タル校舍ヲ建築スルト敢テ大差無キモノナリ。照室ノ計畫、採温通氣ノ裝置ニ至リテモ、單ニ衛生ニ於テ利アルノミナラズ、又好尙ニ於テ美ナル者ト然ラサル者トノ別アルヲ知ルベキナリ。

建築ノ事務ハ、主トシテ校長ノ擔當スル所ナレバ、教師ノ此事ニ關シテ務ムベキハ唯タ忠告ノミヲ出テザルベシ。然リト雖モ教室ノ經理ニ至リテハ、全ク教師ノ權限ニ屬スルヲナレバ、其好尙上ノ結果ニ十分ノ注意ヲ加ヘザル可カラズ。教室ハ必ス常ニ意力ヲ盡クシテ之ヲ清潔ニスルヲ緊要トス。凡ソ物ノ醜態、事ノ不具ニシテ好尙ノ修練ヲ荼毒スルノ甚シキ、垢染汚穢ノ如キ者ハ無シ。須ク器具ヲシテ破損無カラシメ、宜キヲ酌ミテ裝置ヲ藏スルノ處ヲ定メ、之ヲ使用セザルノ間ハ一

々其處ニ在ラシムベキナリ。
無識者ノ手ニ成リシ校舍ノ墻壁ニシテ、染色無ク、且ツ往々甚タ清白ナラザル者ト雖モ、多ク金圓ヲ費サズシテ、繪飾ヲ加ヘ、醜ヲ轉シテ美ト爲サント亦難キニ非サルナリ。即チ數株ノ堅強ナル葛羅ヲ講求シテ其上ニ纏ハシムルヲ良策トス、若シ之ヲ得ザルトキハ、常綠木ノ條枝ヲ代用スルモ可ナリ。夏日ニ至リテハ、插花ヲ裝置スルモ亦一策ナリ、然スレバ美色郁香トモニ愉快ヲ生セントス。

學校ノ周圍 〓 學校ノ地位ヲ選定スルニ當リテハ、須ク其衛生上ノ利ト好尙上ノ美トヲ併セ謀ルヘキナリ。樹林ニ近キ美麗ナル傾坡、水面若シクハ溪間ニ望ム高丘、四隣山丘ヲ以テ圍ム平地ナドハ最モ雅美ナル心象ヲ生シ、知ラズ識ラズ生徒ノ感情ヲ動カス者ナリ。且ツ夫レ位置ノ善惡ニ依テ影響ヲ被ル者ハ敢テ今日ノ生徒ノミニ止マラズ、向

後其學校ノ存續セン限リハ幾世代ノ學童ヲ誘導スルノ基本ト爲ルヘキヤモ量知シ難キコトナレバ、當今世人ノ通例此事ニ加フル所ノ注意ハ、尙ホ十分ナルノ點ヲ去ルヲ甚タ遠シト謂フ可キナリ。學校ノ庭園ノ景狀及ヒ經理ニ關シテハ、草木ヲ以テ決シテ缺ク可カラザル者トシ、花卉ヲ以テ甚タ願フ可キ者トス。又反面ノ策ニ關シテハ、悉ク惡草ノ根ヲ絶チ、毫モ汚穢ノ地ヲ殘スベカラザルナリ。

衣服 〓 身體ノ外貌ニ注意スルハ、好尙ノ修練ニ於テ第一ニ樞要ナル事情ノ一ナリ。衣服ノ清潔ヲシテ完全ナラシムルハ、健康、道德、雅美ノ三事ニ涉リテ等シク措キ難キ事ナリトス。且ツ後ノ一事ハ、清潔ナルカ上ニ、形樣、染色及ヒ事物特殊ノ功用ニ順應スル事ニ正當ノ注意ヲ加フルヲ要ス。蓋シ衣服ヲシテ眞ニ美ナラシメンガ爲メニハ、必スシモ高價ナル材料ヲ用非ノヲ要セズ、又時々ノ流行ニ從ハントヲ要セ

ズ、只タ分ニ應シタル材料ノ布置排安ヲシテ宜キヲ得シメバ則チ足レ
リト做スナリ。

習慣及ヒ行儀——各自ノ習慣及ヒ行儀モ、好尙ノ修練ニ直接ノ關係
アル者ナリ。世ノ教師タル人、往々苛酷ニシテ性急ナル言語ヲ以テ生
徒ニ命令スト雖モ、是レ啻ニ生徒ヲシテ教師ニ敵對スルノ念ヲ發セシ
ムルノミナラズ、又生徒ニ於テ自ラ温厚ニ戾レル言辭アル所以ノ原因
ト成リテ、直接ニ野鄙粗暴ナル行儀ヲ養成スルノ弊アリ。之ニ反シテ
教師生徒常ニ禮讓ヲ以テ相待スルハ、好尙道德ノ共ニ要求スル所ナリ。
凡ソ他人ニ順從スルハ、嚴格ナル命令アル時ニ於テヨリモ、温厚ナル請
求アル時ニ於テ、遙ニ俊速且ツ篤實ナルモノトス、而シテ、其後者ニ對シ
テ發スル者ハ自然ニ出テ、甘心スル所ナルニ反シテ其前者ニ對シテ
發スル者ハ躬ヲ欲セサルノ一致ナリ、恐怖ノ所生ナリ。此等ノ事ニ關

スル修練ハ、又教場ニ入り來ルトキ靴履ヲ清メ、室内ヲ動行スルトキ容
儀ヲ正シ、勉強及ヒ復誦ニ從事スルトキ五体ノ位置ヲ整スニ注意セシ
メ、ノヲ要ス。

生徒ノ自ラスル所作ノ巨細ニ至リテモ、直接ニ好尙ノ修練ヲ資クルノ
機會トス可キ者無シトセズ。例ヘバ書籍ハ常ニ之ヲ清潔ニシテ、置ク
ヘキ處ニ置カザル可カラズ。机卓ハ汚瀆無ク、又破損無カラノヲ要
ス。紙面及ヒ石盤ノ上ニ書寫スル法ノ如キモ、常ニ清潔ヲ旨トセザル
可カラズ。塗板ヲ用テスル演習ノ如キモ、常ニ潔白ヲ主トシ前後斷續
ノ次第ヲ明瞭ニスルヲ勉メシムヘシ。生徒往々其所作ノ潔白佳麗
ナラザルヲ批評セラル、チ好マザル者有ラノ乎、又教訓其宜シキヲ得
タルカ爲メニ所作ヲ潔白佳麗ニスルノ才能ヲ得タルヲ喜ハザル者モ
有ラザルナリ。

◎畫學 —— 凡ソ各科ニ属スル勞作ヲ實行スルノ法ニシテ、間接ニ好尚ノ修練ヲ資クルノ原因ト爲ラザル者ハ無シト雖モ、茲ニ直接ニ此修練ヲ以テ目的トスル勞作アリ、畫學コレナリ、畫學ハ必ス之ヲ以テ各科各級ノ日々ノ課業ニ加フベキ者ナリ。此學タル、弘ク世人ノ想料スル如ク單ニ畫工タラント欲スル者ノミノ修ムベキ所ニ非ズ、自餘一切ノ人ニ對シテモ無比ノ利益アル者ナリ、即チ手ノ筋骨ヲ教練シテハ身體ヲ益シ、觀察ヲ精密ニセシテ勸メテハ智力ヲ益シ、形樣ノ者ナル者ヲ鑑識シ、擬作スルノ才能ヲ進メテハ好尚ヲ益スルノ三德アリ。且ツ夫レ畫學ハ誠ニ自餘ノ諸學科ノ侍婢トモ稱スヘキ者ナリ、何トナレバ學校ノ課業種々ナリトイヘ、到底或ル類ノ畫圖ヲ以テ須要ノ資助ト爲サシテ教授シ得キハ有ラザルナリ。斯ク畫學ハ好尚ノ修練ニ關シテモ、其餘ノ事業ニ關シテモ、極メテ重要ナル者ナレバ、今之ヲ修習スルノ順序ヲ稍、綿密ニ叙述スルモ、無用ニ非サルニ似タリ。

筋骨ノ熟練 —— 經驗ニ依テ之ヲ觀ルニ、畫學ヲ課業ニ加ヘ、之ト習字トナ交轉シテ授クルトキハ、生徒習字ニ熟達スルノ俊速ナル、單ニ習字

ノミニ時間ノ全体ヲ費サシムルノ場合ニ倍スルモノ、如シ、其故何ソヤ他無シ、畫學ニ由テ施ス所ノ教練ハ、手ノ筋骨ヲシテ發動ノ自在ト正密トヲ得シムルノ徳有レバナリ、此二者ハ是レ苟モ接觸ノ緻密ヲ要スル各科ノ工業ニ於テ最モ貴重スヘキ者タリ。此クノ如キ教練ヲ計ル所以ノ演習ノ中ニ置クヘキ者ハ、原書置カレシ者ハニ物体ノ形樣ヲ摸寫スルコト及ヒ一定ノ元素ヲ取テ新奇ノ意匠ヲ擬作スルコト是レナリ。

觀察ノ修練 —— 次ニ畫學ニ於テ達センヲ務ムベキ目的ハ、觀察ヲ正密ニスルコト是レナリ。此目的ヲ達センカ爲メニハ、先ツ摸寫畫學ヲ

十分ニ演習シテ以テ物体ヲ再現スル所以ノ技術上ノ法則ヲ習得セシメ、次ニ現實ノ物体ヲ圖スルコトニ熟練セシメザルヘカラズ。此事ニ關シテノ成功ハ形而下理學ノ諸科ニ關シテ最モ重大ナル所以ノ者アリ、他無シ、此等ノ理學ハ、圖畫ヲ以テ表現スル所ノ材料ヲ給資スル者ニシテ、畫學ハ此等ノ理學ニ於テ觀察ヲ細精ニセンコトヲ務メシムルノ誘因ト成レバナリ。斯ク現實ノ物体ヲ再現スルノ能力ハ、又大抵ノ機械的工業ニ關シテモ甚タ貴重スヘキ者トス、況ヤ技藝ニ於テチャ、其各科ニ就テ成功ニ達スル所以ノ本眞根本ニ繫ラスト云フコト無シ。

遠近及ヒ晦明 現實ノ物体ハ、其眞ニ見ユルカ如クニ之ヲ圖セザルヘカラズ、此事ヲ完クセント奮勵スルトキハ、茲ニ一條ノ事實ヲ展發シ來ルヘシ、是レ遠近ノ經營ニ關スル法則ノ由テ出ツル所ナリ。畫學ヲ修ムル者、先ツ是クノ如キ法則ヲ修メ之ヲ以テ一個ノ物体若シクハ

數箇ノ物体ノ結合ニ應用スルトキハ、大ニ此業ヲ易クスルコトヲ得ヘシ。同様ノ次第ニテ、光明ノ厚薄ノ差等ヲ摸擬スル方法、即チ晦明法モ亦自ラ一箇ノ技術トシテ練習スヘキ者ニシテ、一定ノ法則ヲ選定シ、之ヲ以テ實地ニ應用セバ得ル所少ナカラザルナリ。

色彩ノ使用 兒童ハ色彩ヲ好ム者ナリ、故ニ畫學ニ於テハ須ク此情ヲ轉シテ以テ教育上ノ利ヲ謀ルヘキナリ。初等ノ諸級ニ於テ授クル定規ノ彩色課業ハ、主トシテ生徒ニ教フルニ原色ノ名稱ト實質トヲ以テスルコトヲ旨トシ、併セテ原色ノ稍、單純ナル結合ニ及ブベシ。又稍、上進セル科級ニ至リテハ、漸次ニ生徒ヲ導テ、晦明法ヲ施スニ際シテ、黒線ニ代フルニ、彩色ヲ以テスルノ術ヲ得シメ、平易ナル程度ヲ追テ、遂ニ彩色ヲ直チニ圖畫ニ使用スルノ術ニ至ラシムベシ。是クノ如キ實地ノ演習ヲ取ルトキハ、之ニ依テ光彩ノ美ノ觀念ヲ育成シ、且ツ之ヲ實地

ニ應用セシムルヲ難キニ非サルナリ。

工業上ノ藝術

高等ナル科級ニ於テハ、畫學ノ原理ヲ轉シテ以テ工業ニ應用スルヲ教ヘザル可カラズ。各科ノ理學ノ稍、高尚ナル課業ニ於テノ如ク、畫學ニ於テモ既ニ此ニ至ルトキハ、其方向ヲ轉シテ、歸納ヨリ演繹ニ移リ發明ヨリ應用ニ移ルヘキモノトス。前ニ實地ノ演習ニ於テ推應シ徵驗シタル理法、並ニ下等ノ科級ニ於テ得タル精巧ヲ以テ今ハ格段ナル工業ノ範圍ニ應用センヲ要シ、前ニ得タル好尚上ノ感覺ニ依テ以テ、今ハ有用ナル者ニ雅美ノ情致ヲ添ヘンヲ務ムヘシ、言ヲ換ヘテ言ヘバ、有用ナル者ヲ構成スルノ方ヲシテ、又其物ヲ美ニスルニ適シタル者ニセンヲ務ムヘキナリ。此點ニ至ルニ及テハ、前ニハ一般ナリシ課業ヲ改メテ、特殊ノ分別ヲ設ケ、人々ノ嗜好、若シクハ他日専門トセントスル所ヲ斟酌シテ之ヲ授クヘキナリ。

本眞藝術

學校ニ於テ畫學ヲ授クルニ依テ得ヘキ利益ノ最モ著大ナル者ハ、之ニ依テ人生百般ノ事業ニ關スル高尚上ノ感覺ノ發育ヲ資クルト是レナリ。即チ此學ヲ修ムル者ハ、之ニ因テ一切ノ美ニシテ雅ナル物ヲ尊敬シ稱讚スルノ念ヲ生シ、從テ大体ノ醜ニシテ俗ナル者ヲ厭惡スルノ念ヲ發ス。好尚上ノ感覺ハ、道德上ノ感覺ノ補助トシテ言行ヲ感化スルノ効有リ、即チ後者ハ一切ノ物皆善ニ從フヘシト爲スニ對シテ、前者ハ善ナル者ヲシテ、其極メテ美ナルカ故ニ一層人心ヲ喜ハスニ足ラシメントスルナリ。但シ畫學ヲ教フルノ價格ハ只タ是レノミニ非ズ。其課業ハ生徒中ニ於テ特ニ藝術上ノ才能ニ富メル者アルトキ、之ヲ發見スルノ最善良法ト成リ、又藝術上ノ能力ヲ修練スルノ最好機會ヲ興セリ。若シ學校ニ於テ畫學ヲ授クルト、國中一般ニ行ハル、ノ日ニ至ルトキハ、世人一般ニ自然及ヒ藝術ノ上ニ於テ美ナル者

ヲ賞玩スルノ念、一層弘ク傳播スルノミナラス、又真正ノ藝術家ノ列ニ加ハル者モ大ニ増加スヘキナリ。

國藝 好尙上ノ感覺發育シ、美ノ觀念傳播スルニ及テハ、特ニ米國ノ藝術ト稱スルヘキ一派ノ流義興ルベキヤ否ヤト云フ事、往々識者ノ論題ト爲ス所ニシテ、今ヨリ審思シテ其形質如何ヲ豫料セントスル者スラ少ナカラズ。余輩ハ他日斯クノ如キ流派ノ將ニ起ラントスルヲ信ス、然リト雖モ其形狀如何ニ至リテハ、今日ニ於テ詳知ス可キニ非ス、只タ概略ヲ察知ス可キノミ。先ツ第一ニ斯ル流派ハ、古代ノ藝術ヲ摸倣シ、或ハ歐洲近代ノ流義ヲ踏襲スル者タルベカラザルヲ、昭々タリ何トナレバ、他國ノ流派ノ由來スル所タリシ時勢ハ、我が亞米利加ノ社會ノ寛大ニシテ四海ヲ一家視スル謂フ可キ情勢ニ比スレバ、誠ニ區々ノ一小局ニ拘泥スル者ナレバナリ。苟モ米國風ノ藝術ト稱スルニ足

ル者ハ決シテ異邦ニ成長セシ流派ヲ以テ此國ノ物情ノ上ニ接枝シタル者タルベカラズ、必スマ内國固有ノ事情ト必須トノ生出スル所ナラザルベカラザルナリ。是クノ如キ流派ヲシテ、果シテ管ニ朝生暮死ノミナラザラシメント欲セハ、「自然」ニ於テ深ク堅ク根蒂ヲ固メテ、第一ニ此國ノ人民ノ外貌、風儀ニ由テ表レ、次ニ室家ノ修齊スル風ノ極メテ善良ナル者ニ由テ現レザルベカラズ。此ニ至ランガ爲メニハ、日々ノ豫樂ニ必用ナル尋常ノ材料ノ經理措置ヲシテ宜シキヲ得シメ、兒童ニ至ルマデモ意識發達スルヤ否ヤ直チニ美ノ觀念ヲ吸收セシメント尤モ肝要ナリトス、何トナレバ、一國ノ藝術モ元トハ一個々々ノ人ノ修練ニ出ルヲ、猶ホ一國ノ道德ノ、元トハ一個々々ノ人ノ性質ニ出ツルガ如クナレバナリ。

國中ノ小學校ハ好尙上ノ觀念ヲ傳播スルカ爲メニ最好機會ヲ興ス者

ナレバ、四方ニ教師タルノ輩ハ、單ニ國民ノ智力ノ看護者タルノミナラズ、又其將來ノ藝術ノ看護者タリ。是ヲ以テ若シ彼等ニシテ是クノ如ク夫レ重大ナル職分ニ對シテ忠實ナラント欲セバ、須ラク熱心シテ好尚上、並ニ智力上ノ練習ヲ計リ、以テ一方ニ於テハ生徒ノ人品ヲ進メ、又一方ニ於テハ其學識ヲ開クノ一路ト爲スベキナリ。教師果シテ此ニ務ムル所有レバ、之ガ薰陶ヲ受ケタル生徒ハ、雅美ナル形樣ヲ製作スルニ熟練シ、又自然及ヒ藝術ノ上ニ於テ美ナル者ヲ鑑識スルノ才能ヲ得ントス。然ルトキハ其學校ニ於テ得タル所ノ嗜好ハ、普ク全洲ノ室家ニ浸透シ、此等ノ室家ニ在テ、美ノ神靈ニ依テ其休ヲ變裝シテ、米國土看ノ藝術ト成リテ、再ヒ世ニ起リ、駁雜廣大ニシテ新奇ナル、猶ホ亞米利加人民ノ智力ニ於ケルガ如クナラントス。

第十三章

道德修練

◎道德ノ本旨 〓 道德上ノ高尚ナル性質ヲ備フルコトニ關シテ、近時ノ一著述家言ヘル有リ、曰ク

「吾人ハ須ク現時ノ急務ヲ考ヘ、實際上ノ本分ヲ審ニシ、人類一切ノ事情ニ依テ成ル可ク十分ニ人我ヲ利センコトヲ計リ、無量ノ障礙、混雜、染濁ノ中ニ立テ眞正ナル性命ノ道ヲ踏ミ、一切ノ不義ヲ見テハ之ヲ退ケ、一切ノ正義ヲ見テハ之ヲ贊ケ、貴キニ對シテハ上帝ノ愛子タリ、卑キニ對シテハ賤者ノ兄弟タル一身ヲ以テ、道理ノ犠犧ト爲シ、上ハ神

ニ事へ、下ハ人ニ盡サ、ルベカラズト。

此高尚ナル本旨ニ達スル所以ノ者ハ、一ニ教育ト、二ニ修身トノ外ニ出テズ、是ヲ以テ學校ハ其効力ニ依テ此本旨ノ幾分ニ達スルヲ得ヘキ者ナリヤト云フ、最モ重大ナル疑問ト成レリ。

道德教訓ノ緩慢 〓 世ニ當今ノ教育法ヲ評シテ言フ者アリ、曰ク當今ノ學校ハ、寧ロ智力ヲ促進スルニ切ニシテ、道德ニ疎ナリ、辨識力ト實行力トヲ修練スルニ精ニシテ、督制力ニ緩ナリト、此言マ素ヨリ悉ク信ズルニ足ラズト雖モ、亦全ク據ル所無キニ非ス、何ニシテモ吾人ハ今日此クノ如キ評論ヲ聞ク所以ノ原因ヲ探尋シ、以テ救済ノ法ヲ窮究セザルヲ得サルコト疑ヲ容レサルナリ。

緩慢ノ因原 〓 學校ニ於テ道德ノ教訓ヲ輕忽ニスルニ至ラシメタル理由ノ最モ明白ナル者ハ、道德ニ關係スル學科ニ通スル者ニ比スレ

バ、純粹ノ智力上ノ事ニ關スル理學以下ノ學科ニ通スル者ハ多ク、且ツ斯ル學科ハ其体裁善ク整頓セルニ反シテ、獨リ道德ニ至リテハ、未タ理學上ノ點ヨリシテ之ヲ考究セシ者有ラズ、人類化醇ノ普關觀念ニ照シテ之カ原理ヲ修述セシ者無キト是レナリ。

此事ニ關スル今一ノ理由ハ、旨趣コソ相反スレ道德ヲ以テ學校ノ課業ニ加フルヲ碍クルニ於テハ一致セル二箇ノ荒粗ナル哲學上ノ總念、流行セシト是レナリ。其第一ハ、道德ニ合ヘル行狀ハ、自ラ智力ノ修練ニ伴ヒテ發スル者ナリ、故ニ通常學校ニ於テ授クル所ハ、以テ道德ヲ疎クニモ足レリト云フ是レナリ。其第二ハ、道德ノ事ハ全ク神學教ノ範圍ニ屬スル者ナリ、從テ之ヲ以テ國家教育ノ俗務俗務ハ教務ノ反對ニ曰フ上ノ計畫ニ加フヘキニ非ス、嚴正ナル神學ノ學校ノミニ於テ授クヘキ者ナリト云フ是レナリ。

然リト雖モ、當今ニ至リテハ、斯クノ如キ理論モ既ニ世ニ容レラレズ成
 リ、凡ソ思慮アル教師及ヒ教育賛成者ハ大抵何如ナル統系ノ教育法ニ
 於ケルヲ問ハス、應分ノ注意ヲ道德ニ盡サ、ルヲ目シテ若シ幸ニシ
 テ全体ノ効力ヲ畫餅ニ屬セシムルニ至ラザルモ、尙ホ且ツ最モ恐ル可
 キノ缺典ナリトセリ、此輩ハ又皆以爲ク、過去ニ在テ人ヲシテ道德ノ教
 訓ヲ忽棄スルニ至ラシメタル理由ハ、必ス將來ノ學務ニモ影響セント
 スルカ如ク深根ニシテ猛威ナル者ニ非スト。即チ舊來ノ哲學上ノ總
 念ノ如キハ今人ノ大ニ疑ヲ容ル、所ト爲リ、既ニ今日ト成リテハ大ニ
 地歩ヲ改メテ以テ此事ヲ處理セントスルノ願情世人ノ胸中ニ勃々タ
 ルヲ鏡ニ照シテ見ルガ如シ。サレバ今此改革ニ臨テ第一ニ占メテ
 必要ナル數歩ハ、道德ノ本然ノ原理ヲ稽查スルヲ是レナリ。

◎道德ハ何爲者ソヤ 〓 道德ノ範圍ハ人性ト共ニ濶大ナリ是ヲ以
 テ、凡ソ人ト人トノ間ニ存立スル一切應有ノ關係ヲ包含ス。夫レ生テ
 人類ニ得タル者ハ造物主ニ對シテ欽崇上ノ本分アリ、自己ニ對シテ本
 身上ノ本分アリ、隣人ニ對シテ道德上ノ本分アリ、下等動物ニ對シテ慈
 悲上ノ本分アリ。總ヘテ此等ノ本分ハ、不易ニシテ必定ナル者ナリ、然
 リト雖モ、其範圍ニ至リテハ、一々相同カラズ。特ニ道德ナル者ノ範圍
 トスル所ハ、人ト人トノ關係ニ在リ、此關係ニシテ畫定ニ至ルトキハ始
 メテ道德ト云フ者起ルナリ、其未タ畫定ニ至ラザルニ當リテハ、道德ハ
 得テ施ス可キ者ニ非サルナリ。
 然ルニ世人ハ道德ト云フ字ヲ解スルコト往々甚タ汎濫ニシテ限定ナ
 ラズ、或ハ之ヲ以テ弘ク人類各般ノ本分ヲ指ス者ト爲スカ故ニ此事ヲ
 論スルニ當リ、門派ニ依テ下タス所ノ定義ヲ異ニスルニ至リ爲メニ甚

タシキ混雜ヲ釀セリ。甲ノ論者ハ神ニ對スル本分ノ重スヘキヲ痛論スルニ際シテ、乙ノ論者ハ他人ニ對スル本分ノ重スヘキヲ力辨セリ、是レ宗教上ノ本分ト道德上ノ本分トヲ混雜スル者ニ非スシテ何ソヤ。今余輩ノ所見ニ從テ此ニ道德ナル者ノ區域ヲ斯ク精細ニ畫定スル所以ノ者ハ他無シ、凡ソ此事ニ關屬セザル紛々議論ハ悉ク之ヲ排除シ、讀者ヲシテ目下講究スル事項ノ範圍ノ内ニ在ル者ノミニ限り專ラ注意ヲ向ケシメントスレバナリ。若シ論者アリテ此定義ハ未タ十分ニ曠懸ナラズト言ハ、余輩ハ之ニ答ヘテ言ハントス、果シテ其論ノ如クナルモ何ノ顧ミル所カ有ランヤ、余輩ノ關スル所ニ於テハ、人類相互ノ關係ニ拘ル道德ノミヲ論究セバ則チ過不及無キナリト。

道德ノ何タルニ斯クノ如キ定義ヲ下タストキハ、此事タル人類ニ關スル事物ノ外ニ出スルコト無シト雖モ、其應用ハ社會活動社會活動トハ衆人社會活動トハ衆

即チ間ニ起レル一切ノ事務ヲ曰フノ全体ヲ包含スルニテ、政治經濟ノ統系ノ如キモ、正理ニ合セントスル上ハ、必ス皆基本ヲ道德ノ原理ニ取ラザルベカラサルナリ。

道德ノ基本

凡ソ人タル者ハ必ス其實在スル所以ニ附着シ、直チニ其生存スル所以ニ根據スル一定ノ所須アル者ナリ。此等ノ所須アルカ爲メニ、茲ニ要求ヲ生ス、而シテ此要求ニ給資セズンバ則チ其人ノ生存ハ忽チ終止セサルヲ得サルナリ。例ヘバ人ハ飲食シ、呼吸シ、一定ノ温度ヲ保維センコトヲ要求ス、是ヲ以テ之ニ給資スルニ食物ト空氣ト温暖トヲ以テセスンバ、其天賦ノ權利ニ因テ有スル所ノ性命將ニ斷絶セントス。

所須ノ際限

是クノ如キ所須ハ、人性ノ全体ト際限ヲ共ニスルモノニシテ、身軀、心意、道德ノ三區域ニ跨レリ。彼レ其軀軀成長シテ強壯

ヲ得健康ヲ保セシカ爲メニ、身軀上ノ効力物衣食住等ヲ要求ス、彼レ其心意發育センガ爲メニ、勉強及ヒ教導ノ材料ヲ要求ス、彼レ其道德ノ感覺鋭敏ニシテ善行ヲ誘促センガ爲メニ、仁義ノ儀範、社會ノ交際、行狀ノ訓戒ヲ要求ス。

所須ノ平等 〓 初見ニハ境遇ノ差違、國風ノ差違、及ヒ人々性質ノ差違ハ自ラ其所須ノ上ニ差違アルニ至ラシムルモノ、如シ。且ツ現ニ一人ノ發育、若シクハ一民ノ開化稍、進歩スルニ及ヒテ、始メテ存在スルニ至ル如キ所須モ敢テ些少トセズ。然リト雖モ一般ノ所須ハ衆人皆一ナルカ上ニ、特別ノ所須ニ至リテモ衆人同一ノ事情ノ下ニ立ツニ當テハ皆一ナリ。然レバ則チ其時其時ニ表ハル、所コソ差違スレ、内ニ潜在セル理務ヨリ言フトキハ一人ノ所須ハ敢テ自餘各人ノ所須ト更ニ異ナルヲ無ク、却テ精密ニ均一スル者ナリ。

權利ノ基本 〓 此等ノ所須ニ源泉スル要求ハ、一個一己ノ權利ノ由テ生ズル所ナリ、而シテ一種ノ所須有レバ必ス之ニ對スル一種ノ權利無キヲ得ズ。人ハ身軀ノ所須有リ、是ヲ以テ此所須ニ於テ要求スル所タル身軀上一切ノ効力物ニ對スル權利有リ。人ハ心意及ヒ道德ノ所須有リ、是ヲ以テ此等ノ所須ニ於テ要求スル所タル心意上及ヒ道德上一切ノ効力物ニ對スル權利有リテ、本來其身位ニ内附シ、其存在ノ一部分ヲ爲セリ、故ニ之ヲ剝奪スルハ身軀ノ一部ヲ剝奪スルニ異ナラズ。

本分ノ基本 〓 サルホドニ、人類ハ社會ヲ結成スル實在物ナリ、是ヲ以テ其社會ノ一員トシテノ生存ハ他人ノ生存ト結帶シテ離レザル者ナリ。是ニ於テ人ト人トノ間ニ一定ノ關係ヲ生ス。此關係ハ一方ニ於テハ一個人ノ能力ヲ制限スト雖モ、亦一方ニ於テハ大ニ其能力及ヒ將成爲難キニ非サルヲ云フヲ増殖セリ。他人ノ活動ヲ以テ彼レノ活

動ヲ補遺スルナリ。彼レ社會ノ一員タルノ地位ニ立チテハ資助ヲ他人ニ受ク、之ヲ受クルカ爲メニ又他人ヲ補助スルノ義務ヲ負擔セリ。此義務ハ是レ吾人ノ稱シテ道德上ノ本分ト曰フ所ノ者ナルニテ、正シク其人ノ箇身ニ屬スル權利ニ對スル者タリ、即チ茲ニ權利有レバ、又必ス之ニ對應スル本分無カルヘカラザルナリ。

例件 〓 人皆空氣ノ須要有リ、從テ空氣ニ對スル權利有リ。然リト雖モ空氣ハ自然ノ十分ニ給資スル所ナリ、故ニ此給資ニ關シ他人ノ吾人ニ對シテ負荷スル所ノ本分ハ只タ之ニ干涉シテ或ハ其分量ヲ減シ、或ハ其資質ヲ濁スヲ避クルニ在ルノミ。サレバ此場合ノ本分ハ反面ナリ。

人皆食物ノ須要有リ、從テ食物ニ對スル權利有リ。此所須ハ常恒ニ不易定必ナリ、且ツ此權利ハ皆人ノ本具スル所タルヲ、其幼少ナル時又ハ不具ナル時ニ於テモ、自ラ食物ヲ得ルニ絶ユル時ニ於テモ、敢テ増減スルヲ有ラズ。是ヲ以テ吾人若シ自活ノ路ヲ失フトキハ、誰レナリトモ他人ノ中ニテ吾人ノ所須ニ給資スル者無カルベカラス、且ツ之ト同様ニ、他人ノ斯ル事情ニ陥ル者有ルニ臨テハ吾人之ガ爲メニ其所須ニ給資セサルヘカラサルナリ。吾人自活ノ力有ルニ當リテモ、尙ホ他人ハ吾人ノ所須ニ給資スルノ本分有リト云フ論ハ立ツ能ハズ、何トナレバ斯クノ如キ事ヲ爲スハ、他人ニ於テ其權利ヲ犧牲ニシ、從テ其現實ニ負擔スル所ノ本分ヲ完了スルノ能力ヲ減スル者ナレバナリ。上ニ云フ如ク他人ノ爲メニ殊サテ盡クス所ノ本分ハ正面ナリ。

反面及ヒ正面ノ本分 〓 是レニ由テ之ヲ觀レバ、道德上ノ本分ニハ二重ノ義アルヲ知ルナリ、曰ク**正面**ニシテ他人ノ權利ヲ尊崇セシメテ要スル者、曰ク**反面**ニシテ他人ノ爲ニ盡クス所アラシメテ要スル者コ

レナリ。他人ノ權利ヲ遵崇スト云フ事ハ、吾人ノ各一作爲ノ、他人ニ係ル所アリ、或ハイカニモシテ他人ニ影響スル所アラントスル者ハ、必ス之ヲシテ人タル者ハ彼我ノ差別無ク皆同一ノ權利有リテ其間分量ノ差違アラズトノ原理ニ基據セシムヘシトノ義ヲ藏指ス、之ニ反シテ他人ニ盡クスノ本分ハ、人類ノ幸福ヲ増進スルヲ得ヘキ場合ヲ見ル毎ニ必ス自ラ振テ所須ニ給資スヘシトノ義ヲ勸諭セリ。

反面本分ノ要求ハ定必ナリ、其要求スル所ニ曰ク、他人ノ食物ノ資質ヲ濁シ、或ハ其分量ヲ減スルヲ勿レ、曰ク他人ノ身軀ヲ傷害スルヲ勿レ、曰ク他人ノ所有ヲ轉シテ自己ノ使用ニ供スルヲ勿レ、曰ク他人ノ思想シ及ヒ一家ノ意見ヲ立ツルノ自由ヲ制限スルヲ勿レ、曰ク意見ヲ異ニスルニ當リテ他人ニ歸スルニ卑劣ナル志念ヲ以テスルヲ勿レ、曰ク他人ノ行爲ヲ誤解シ、志念ヲ誹謗シテ、彼レガ自活ノ生計ヲ爲スノ機會ヲ減

スルヲ勿レト。

正面本分ノ要求スル所ニ至リテモ亦同様ニ定必ナリ。其催促スル所ニ曰ク、各幼者ノ爲メニ養育ヲ懇切ニス當シ、曰ク無告廢疾ヲ憐テ之カ爲メニ明智ニ合ヒ且ツ十分ナル活路ヲ開ク當シ、曰ク既ニ一生ノ事業ヲ結了セシ老者ノ爲メニ親愛孝養ヲ盡ス當シト。本分ト云フ字ヲ斯ク解釋スルトキハ、世人ノ「金律」己ニ欲スル所ヲ以テ人ニ施ト稱スル所ノ倫理ノ理法ヲ統體セリ、則チ吾人ハ日夜黽勉シテ此律則ヲ現在ニ實行セントスヘキナリ。

道德上ノ本分ノ標準 || 凡ソ道德ノ範圍ニ屬スル行爲ニ於テハ、必ス兩造アラントキヲ要ス、即チ發動者ト受動者トコレナリ。發動者其正面及ヒ反面ノ本分ヲ實行ストセンカ、是レ一種ノ發動ナリ、或ハ之ヲ實行セストセンカ、是レ亦自ラ一種ノ發動ナリ、是ヲ以テ善惡ノ由テ分カ

ル、所ハ、發動者ノ地位ヨリ言ヘハ實行セシト然ラザルトニ在ルニ非
 スシテ、實行シ或ハ然セザリシ所以ノ決意如何ニ在ルナリ。委シク言
 ヘバ發動者一ノ行爲アラントスルニ當リ、此行爲ハ受動者ノ幸福若シ
 クハ人類ノ幸福ヲ資クヘキヤトノ疑問ヲ心ニ起シ、肯定ヲ以テ之ニ答
 ヘテ發作ニ至リシモノナリセバ、其發作ハ道德上ノ斷決力ノ是認スル
 所ニシテ正、經ナリ、若シ又拒否ヲ以テ之ニ答ヘナガラ、尙ホ強テ發作ニ
 及ヒシモノナリセバ、其發作ハ道德上ノ斷決力ノ問罪スル所ニシテ不
 正ナリ。サレバ善惡ノ依テ分カル、所ハ、全ク志念ノ如何ニ在ルナリ。』
 サレド今又受動者ノ地位ヨリ言フトキハ、同一ノ動作ニ關シテ、全ク異
 ナル判決ノ標準ヲ取ラザルベカラス。即チ受動者タル人ハ、直接ニ發
 動者ノ志念ヲ糾スヲ用ヰズ、特ニ其發動ノ結果、何如ニ注目スルナリ。
 志念ノ如何ヲ問ハズ此發動ニシテ若シ受動者ノ幸福ヲ資クル者ナリ

セバ則チ善ナリ、然ラサレバ則チ惡ナリ。
 是レニ由テ之ヲ觀レバ、凡ソ道德ノ範圍ニ屬スル行爲ニ關シテハ、茲ニ
 二重ノ判斷アリテ、一ハ直接ニ影響ヲ被ル人、若シクハ世界一般ニ及フ
 結果ノ如何ヲ憶度スルニ成リ、他ハ發動者ノ志念ニ關シ、結果惡シキト
 キトイヘトモ之ヲ以テ或ハ無辜ニ歸シ或ハ有罪ニ歸スルニ成レル者
 ナルヲ知ルナリ。然リ而シテ道德ノ最モ高尙ナル者、即チ社會全体
 ノ利害ノ關スル所ノ者ニ於テハ、發動ノ管ニ善良ナル志念ニ出テ、正
 經ナラシムルヲ要スルノミナラズ、又有益ナル結果ヲ生シテ善良ナラシ
 ムヲ要スルナリ。
 常ニ吾人ノ注目シテ慨嘆ニ堪エザル所ノ者ハ他無シ、其志念ハ極メテ
 善良ナリト雖モ、尙ホ且ツ其影響ヲ被ル人ノ爲メニ有害ナル行ヲ爲ス
 者世ニ多キト是レナリ、是ニ於テ乎吾人ハ斯ク有害ナル結果ヲ生スル

ニ至ルノ原因ヲ探リ、以テ志念ノ善惡ノ外ニ道德ニ於テ必要ナリトスル元素ノ何々タルヲ知ラノコトヲ求ムルノ急務ナルヲ感知ス。

實例

茲ニ母アリ、其兒ノ幸福ヲ切望シ、晝夜勞苦ヲ忘レテ看守愛育ス。斯クテ朝夕唯タ其意是レ從ヒ、其請フ所ハ悉ク之ヲ與ヘ、其欲スル所ハ必ス之ヲ許シ、毫モ其情操ヲ抑制スルコト無シ、是ニ於テ乎大ニ其兒ノ我慢我愛ノ念ヲ撫育シ、全ク其性質ヲ汚濁シテ、又如何トモスヘキ無キニ至ル。

茲ニ父アリ、其兒ノ有害ナル性癖ヲ抑制センヲ心願シ、恐喝諂媚交、出ツ、或ルトキハ恐ルヘク嚴重ナレドモ、亦或ルトキハ柔和ニシテ、前ニ禁約セシ所ヲ忘遺ス、是ニ於テ乎其兒成長スルニ及テ、父ノ顔色ヲ伺フコト甚タ鋭敏ナリト雖モ、亦全ク自ラ制スルノ意力ヲ備ヘズ、毫モ誠實ヲ重セサルニ至ル。

茲ニ教師アリ、生徒ノ行狀ヲ矯シ、智力ヲ進メ、ノコトニ熱心シ、爲スヘキヲ爲サズ、爲スベカラザルヲ爲スアル毎ニ、甚タ苛酷ナル刑罰ヲ以テ之ヲ待ス、是ニ於テカ生徒親愛ノ情ヲ失ヒ、慘忍復讐ノ念ヲ生ス。

茲ニ醫師アリ、患者ノ苦痛ヲ救ハノ事ヲ企念シ、疾速ニ治療ヲ施行ス、然リト雖モ不幸ニシテ病ノ性質ヲ誤診シ、或ハ藥劑ノ品類ヲ誤調セシガ爲メニ、却テ毒害ヲ被ラシテ病篤キヲ加ヘ、或ハ終ニ死ニ致セリ。

茲ニ船將アリ、難風ニ遇フニ當リ、針路ヲ失フコトヲ避ケンカ爲メニ、艙口ヲ閉塞ス、風濤治マルニ及テ之ヲ開キ見レバ、汚氣重積セシニ因テ乗客既ニ死ス、即チ其生命ヲ救ハノカ爲メニシタル事ハ却テ其生命ヲ絶ツノ原因ト成ナリヌ。

茲ニ寺僧アリ、今世ノ罪惡ヲ悔ヒスシテ死スル者アレバ地獄ニ墮落シテ最モ恐ルヘキノ責罪ヲ受ケントスルコトヲ痛憂シ、病者アルニ臨テ推

シテ之ヲ訪ヒ、強テ之ニ勸メテ祈願セシム。死ニ垂タル者ヲレテ懺悔セシムルヲ基督教ノ法則ナリ。是レカ爲メニ病者却テ大ニ神經ノ疲勞ヲ致シテ死ヲ早クス。

道德ノ要緊

總ヘテ此等ノ場合ニ於テハ、志念ハ即チ善良ナリト

雖モ、結果ハ則チ有害ナリ、然リ而シテ若シ發動者チシテ一層高尚ナル知識ヲ有シテ、一層總明ナル裁智ヲ施サシメタラシニハ、此クノ如キ禍害ヲ除クコト難キニ非サリシハ昭々乎トシテ明ナリ。是レニ因テ之ヲ觀レバ、道德ノ要素ハ善○意○ト○明○智○ト○ニニ在リテ、最モ高尚ナル道德ニ在テハ、此二者モ亦最モ高度ニ達セル者ナラシメテ要スルヤ明カナリ。善良ナル意志ハ固定セル要素ナリ、云フ意ハ常ニ動カ密ニ言ヘバ、是レ本分ノ要求スル所タル行チ爲スノ志念ナリ、即チ善チ爲スノ意向ナリ、人ノ行狀ノ標的ノ最モ高尚ナル者ナリ。一己々々ノ人ニ在テハ、此意向往々利己ノ情願性癖ト混淆スルコト無シトセズ、然リト雖モ本然ノ性

質ニ至リテハ決シテ人ニ依テ異ナルコト無キナリ。

然ルニ明智ニ至リテハ則チ然ラズ、必ス人ト、代ト、民トニ依テ異ナル者ナリ。開明進歩スルニ從ヒ、人類ノ幸福ヲ資クル者ノ何タルニ關スル觀念漸々變遷シ、前ノ世代ニ在テ道德トセシ所ノ者モ、後ノ世代ニ至リテハ目シテ甚タ不完全ナル者ト做ス所ト爲レリ。無對自全、萬世不易ノ道德ト云フカ如キハ、無量智者即チ神ヲ云フヲ云フテ知ル可キノミ。

一個人ノ道德

前論ヲ總攝シテ言ヘバ、一個一己ノ人ノ身ニ係ル

道德ノ催促スル所ハ左ノ如シ、

曰ク、凡ソ其身ニ係ル反面并ニ正面ノ本分ハ、必ス之ヲ完了スヘキ事。

曰ク、凡ソ他人ニ關スル所アル行爲ニ於テハ、自己ノ幸福ニ均シク他人ノ幸福ヲモ憶度スヘキ事。

曰ク、何レハ場合ニ於テモ、其行爲ハ必ス其明智ノ最モ高尚ナル所ニ

從フヘキ事。
 曰ク、苟モ、明智ヲ増進スルノ機會ハ、決シテ之ヲ失ハザルベキ事。

◎學校ニ於テ授クル道德上ノ教訓——上文揭示スル所ノ剖析ハ、以テ吾人ノ教育ニ於テ解答センコトヲ要スル疑問ノ性質ヲ見ルニ足り、又道德ヲ以テ學校ノ課程ニ加ヘントスルニ當リテ取ルヘキ方法ヲ定ムルノ引指ヲ爲スヘシ。正道ヲ行ハントスルノ意向ハ、心意ノ單一ノ能力ノ運轉ニ由テ出ツル者ナリヤ、將タ亦數多ノ能力ノ作用ノ俱發ノ結果ナリヤトノ疑問ハ姑ク措テ論セズ、茲ニ到底動力シ難キノ地步ト爲スヘキ者アルハ他無シ、道德上ノ能力モ、身体上及ヒ智力上ノ能力ニ均シク、演習ニ依テ育成スルヲ得ヘク、統紀整頓セル教練ニ依テ大ニ増殖スルヲ得ヘキ者ナリト云フ是レナリ。

儀範ノ勢力——世ノ諺ニ曰ク「教師既ニ是クノ如シ、故ニ生徒モ亦然リ」ト。兒童ハ摸擬的ノ動物ナリ、是ヲ以テ或ハ知リツ、或ハ知ラズ識ラズ、其交ル所ノ人々ノ行儀ヲ見習ヘリ。教師若シ驕慢無禮ニシテ、公平ナラザルトキハ、生徒モ此摸擬癖アルガ爲メニ同様ノ氣風ヲ現セリ、而シテ或ル強勢ナル反對ハ感化力ニ會ヒテ之ヲ矯正スルニ非サレバ、必ス生涯ノ習慣ト成ラントス。之ニ反シテ、若シ教師條理ヲ辨ヘ、親愛ヲ盡シ、公平ヲ重シテ、禮節ヲ正クスルトキハ、生徒ヲシテ同シ擬似癖ニ依テ此等ノ氣風ニ習ヒ且ツ此ニ應スル習慣ヲ爲スニ至ラシムヘシ。是レニ由テ之ヲ觀レバ教師ノ行儀及ヒ習慣ハ道德教練ノ上ニ於テ無比ニ重大ナル者タルヲ昭々タリ。學校ノ委員及ヒ監督ノ任ニ在ル人ハ、教師ノ人物ヲ精選スルノ一事ニ注意スルヲ如何ニ深キニ至ルトモ決シテ深キニ失スルノ恐無シ、而シテ自ラ教師タル者ハ、兒童ニ影響ス

ル感化力中ニ於テ、儀範其最モ強勢ナル者ノ一ニ居ルヲ辨ヘテ、深ク自己ノ行狀ヲ省察シ、管ニ一事一行トイヘ正經ナル志念ニ出テサルハ無キノミナラズ、又生徒ヲシテ其果シテ善良ナル志念ニ出ツル所以ヲ確知セシムルニ適シタル方法ニ於テセンヲ勉ムベキナリ。

行儀——此序ニ一言スベキ者ハ他無シ、行儀ハ道德ト親密ナル關係アル者ナルコト是レナリ、云フ意ハ、凡ソ道德ノ與リ關スル所ハ、獨リ行爲ノ善惡ノミニ在ルニ非スシテ、又行爲ヲ表現スルノ法ノ醜美ニモ在ルナリ。親愛ノ心ハ、之ヲ表現スルノ法ヲシテ拙劣ナラシムルモ、尙ホ其大體ヲ失フコト無カルベシ、然リト雖モ、若シ表現ノ法ヲシテ平易且ツ温順ナラシメ、人ノ注意ヲ引テ行爲ニ着セズシテ、却テ行爲ノ容儀ニ着セシムルガ如キコト無キトキハ、銘心スル所一層有益ニシテ、永久ナラントス。道德上善良ナル者ヲ稱賛スルニ當リ言語荒粗ナルコト、若シクハ顔色體

容ノ禮節ニ當ラサルコトヲ見ナガラ、之ヲ不問ニ附スルガ如キアルハ、教育ノ本旨ニ於テ決シテ容レザル所ナリ。

不行儀ノ儀範

——ドクトルサミユエル、チヨンソンハ親愛ノ心深キ

ト、不具不幸ヲ憐ムノ博キトヲ以テ天下ニ有名ナリ。氏ノ著述ヲ見ルニ、高尚ナル情感ヲ以テ充滿シ、徹頭徹尾一點ノ嫌惡スベキ者ヲダモ見ズ。氏、中年ノ頃名譽既ニ頗ル高カリシトキ、曾テ杖ヲ生邑アツトクセタルニ引キ幼少ノ時ニ父ノ命ニ從ハサリシコトヲ追想シテ、悔恨ニ絶エズ、罪ヲ償ハンガ爲メ、終日帽ヲ脱シテ市場ノ中央ニ直立セシト云フ、良心ノ潔白ナルコト見ルベシ。世ノ人皆氏が天才ノ非凡ナルト心情ノ善良ナルトヲ稱賛セザリシハ無シ。然ルニ、其交際ニ至リテハ大ニ缺クル所アリ、談話高聲、動止傲慢、往々不敬ニ流レ、且ツ喫食ノ作法ハ最モ鄙野ニシテ、見ル者悉ク嫌忌シタリトイフ。是ヲ以テ氏ノ言論ノ快活ナ

ルカ爲メニ生ズル愉快、及ヒ英智ノ非凡ナルガ爲メニ得タル教訓ハ、其行儀ノ粗暴アリシニ因テ大ニ減少スル處アリシコト、氏ノ親友ノ甚タ遺憾トナセシ所ナリ。

責任ノ際限

—— 家庭及ヒ社會一般ノ風儀ノ感化力ハ、學校ノ感化力

ニ比アレバ、遙ニ強キ者ナレバ、教師ヲシテ責ニ任セシムベキ所ハ、其力ノ及ブ所ニ因リテ、出テシ分ノ結果ノミニ限ルベキナリ。若シ此際限内ニ在ル感化力ニシテ、直接ニ、及ヒ間接ニ最モ高尙ナル道德上ノ秀質ヲ養成スルノ實アル者ナル上ハ、他ニ其力ノ及バサル所ニ於テ反對ノ感化力有ルカ爲メニ之ヲシテ無効ニ属セシムルコト有リトモ、敢テ教師ヲ咎ムベキニ非ザルナリ。

道德上ノ感受性

—— 生徒ノ道德上ノ感受性ヲ醒起シテ鋭敏ナラシ

メシコトヲ務メサル可ラズ。此目的ヲ爲センカ爲メニハ、各般ノ交際ニ

臨テ他人ノ人躰ト所有トニ關スル權利ヲ尊崇スルノ路ヲ教訓センコト緊要ナリ。例ヘハ甲ノ生徒、乙ノ生徒ノ同意ヲ經ズニ強テ乙ノ身躰ヲ留拘スル遊戯ノ如キモ、學童ノ間ニ於テ往々見ル所ニシテ、俗ニ之ヲ呼テ「ホイデソ」ト謂フトイヘ、是レ他人ノ身躰權ヲ侵スニ近キノ行ナレバ、許スヘキニ非ザルナリ。年齒稍長シタル生徒、幼少ナル生徒ヲ撫育シ、體方稍強キ生徒、庀弱ナル生徒ヲ撫育セントスルコトノ如キハ、利己ノ情慾ニ反對セル心性ヲ涵養スル策ノ由テ入ル所ナレバ、須ク獎勵ヲ加フベシ。強者ノ弱者ニ對シテ侮慢ノ行アリ或ハ亂暴ヲ働クコトノ如キハ、必ス柔和ナレ、強剛ナル處置ヲ以テ禁遏シ、凡ソ此類ノ意向アルヲ見レハ盡ク之カ根ヲ斷タザレバ已ムコト勿レナリ。總ヘテ私利自愛ノ行アルトキハ、教師須ク公利他愛ノ行ヲ以テ之ニ對照シ、發動者ヲシテ自ラ其不善ヲ感知セシムヘシ、又生徒私利ヲ放棄シタル有徳ノ行アル

ヲ見テハ其能ク會得スルニ堪ユヘキ方法ヲ以テ除々ニ讚美スルヲ怠ルヘカラズ。斯ク絶エズ專思研精シテ善ヲ勤メ惡ヲ懲サンヲ勉ムルキハ、終ニ學校ヲシテ親愛ヲ重シ正道ヲ貴フノ公益心ヲ養成スルノ處タラシムルヲ得ベク、生徒學校ヲ辭スルニ及テモ、教師ノ直接ノ干涉ヲ嫉タズ、社會ノ勢力ノ自然ノ作用ニ因リテ此鍛練ヲ繼テ大ニ存養ヲ資ケントス。然ルトキハ此公益心ノ誘促スル所タル善行ハ漸次堅固ヲ加ヘ、一種ノ常習ト成リテ、死ニ至ルマテ消滅セサルベシ。

道德上ノ偶發教訓

ペスタロツチ氏ノ初メスタンツニ於テ教師

ノ業ニ着手スルヤ、廢寺ニ寄宿スル一百ノ貧兒ヲ一人ニテ監督シタリ。器具財物甚タ備ハラズ、食物モ粗惡且ツ不十分ナリキ。是時ニ當リ、アルトドルフト稱スル近隣ノ村落ニ於テ火ヲ失シ、家ヲ亡フテ路頭ニ迷フ者甚タ多カリキ。全ク不意ニ起リタル災害ナレバ、急キ救濟ノ策ヲ

施サンコトヲ要シタリ。則チペスタロツチ氏火災ノ慘狀ヲ生徒ニ説明シ、村民窮乏ニ苦シムノ有様ヲ名狀シ、且ツ生徒等ト同様ニ幼少ナル兒童ニシテ寒氣空服其身ニ迫ル者必ス多カルヘキ由ヲ告ゲタリ、而シテ生徒等之ヲ聞テ交感ノ情ヲ發セシテ見テ、問フニ「吾人果シテ此難澁ヲ救濟スルノ法アリヤ」トノ義ヲ以テシタルニ、多クノ生徒ハ斯ク不幸ナル兒童ヲスタンツニ招待シテ、自分等ノ小社會ニ加ヘンコトヲ主張シタリ。ペスタロツチ氏告ケテ曰ク「然リト雖モ若シ彼等來ルトキハ供スルニ汝等ノ器具食物ノ一部ヲ以テセザルベカラズ、サレバ汝等ノ豫樂減少シ且ツ恐クハ空服ヲ滿タスニ足ル食物ヲ得サルノ日モ往々アルヘキヲ奈何センヤ」ト。

然ルニ生徒等敢テ不足ヲ意ニ介セズ、尙ホ前論ヲ主張シテ止マズ、遂ニ招待ヲ發シテ遭難者ノ領承スル所ト爲リヌ。此義舉ヤ、舊來ノ生徒ヲ

シテ多少缺乏ニ至ラシメタリト雖モ、曾テ怨言ヲ爲ス者ヲ聞カス、却テ皆新入者ニ親愛ヲ盡クシ、特ニ尊敬ト名譽トヲ以テ之ヲ遇シタリト云フ。此慈善ヲ實行スルコノ教訓ハ、深ク彼等ノ心裡ニ銘刊シ永ク彼等ノ一生ニ美德尊威ヲ加ヘタリ、且ツ後世ノ歴史ニ文詞ニ傳ヘテ、教師ノ英智ト生徒ノ英敏ナル感受生トノ紀念ト爲リ、爾來教師ノ職ニ就ク者ヲシテ益、教訓ヲ務メシムルノ獎勵トハ爲リヌ。

凡ソ孰レノ學校ニ於テモ、才幹アル教師ノ轉シテ以テ道德上ノ教訓ヲ授クルノ奇貨ト爲スコヲ得ヘキ偶事ノ起ラザルハ無シ。辨當ヲ失ヒタル兒童アリ、誰レカ己ガ辨當ヲ以テ彼レニ分チ與ヘントスルヤ。學校ヲ清淨ニシ愉快ニシ美麗ニセントス、誰レカ此舉ヲ助ケントスルヤ。教場ヲ破損シ汚濁スルコトヲ避ケントス、誰レカ此意ヲ體スルヤ。斯ク毎日毎時他人ニ苦痛ヲ與ヘントスルノ行爲ヲ遏止シ、或ハ他人ニ愉快

ヲ與ヘントスルノ舉動ヲ誘促スルノ機會ノ興ラザルハ無シ。又生徒ノ中ニ不具ナル兒童、或ハ生來他人ニ異ナル形質アリテ人ノ注目スル所ト爲レル者有ルニ當リテハ、教師之ヲ以テ深遠且ツ永久ナル道德上ノ感覺ヲ銘心セシムルノ機械ト爲スコヲ得ベシ、且ツ然スルトキハ、此不幸ナル一兒童ノ爲メニ取リテモ、同僚ノ親愛淺カラザルカ爲メニ、學校ノ交際愉快ノ原因ト成リ、以テ大ニ其不具ナルニ生スル不自由ヲ補フコトヲ得ベシ。又近隣ニ於テ難澁ニ陥リシ者アルニ際シテハ、之ヲ以テ生徒ヲシテ己カ愉快ト光陰ト豫樂トヲ犠牲ニシテ救濟ヲ務ムルノ意ヲ發セシムルノ機會トスルコトヲ得ベシ、若シ一度此クノ如キ義舉アルトキハ既ニ之ニ依テ本分ノ爲メニ私慾ヲ制スルノ途ニ於テ一大地歩ヲ占メ得タルモノト云フベシ。

總ヘテ斯クノ如キ場合ニ於テハ、教師タル者慈善ヲ受クル人ニ於テ生

徒ノ義心ヲ十分ニ認識スルノ色有ラシムルコトニ注意スベシ、且ツ又鼓舞セントスル感情ヲシテモ、之ニ因テ生ズル慈善ノ行ヲシテモ、必ズ現實ニ難澁スル者ノミニ對シテ發セシメ、ノコトニ注意スベシ、何トナレバ慈善義捐ノ誤用ハ必ズ有害ナル結果ヲ生ズル者ナレバナリ。

反面ノ結果 〓 教師ニ於テ愚昧ナル處置アルトキハ、生徒ノ道德上ノ感受性ヲ遲鈍ニシ、若シクハ滅却スルニ至ル、之ヲ反面ノ結果ト謂フ。被ラスヘキ理由無キ刑罰ヲ被ラスコトノ如キハ、生徒一生ヲ害スルモノナリ。大醫カーペントル氏曰ク

「凡ソ道德上ノ感覺ノ發育ノ健全ヲ妨害スル者、兒童ノ公正ニ非スト感スル所ノ刑罰ヲ加フルヨリモ甚タシキハ無シ、而シテ凡ソ智力ノ作用ヲ自督スル力ノ發達ヲ遲滯セシムル者、不正ヲ感スルニ依テ發スル情緒ノ錯亂ヨリ甚タシキハ無シト」。

生徒他人ノ苛酷ナル待遇ニ會フヲ見ルトキハ、自ラ無情ニ染ミテ、不幸者ヲ憐ムノ交感心ノ銳利ヲ失ヘリ、是レ本分ノ完了ヲ促スノ勢力ヲ減スルニ異ナラズ。屢、猛惡ナル所業ヲ見ルトキハ、却テ不幸者ヲ見ルヲ愉快トスルノ心情ヲ發シ、道德ノ修練モ無効ニ歸シ、道德ノ理法ハ反順シテ有徳ノ性質ヨリモ寧ロ惡魔ノ如キ性質ヲ養成スルニ至ル。教師ニ於テ誹謗及ヒ感情ヲ刺傷セントスル冷語、叱罵、人情ニ背ク所爲、愛憎偏頗ノ處置、無用ノ規則命令、及ヒ其他スヘテ不定輕浮ナル處置アルトキハ、必ズ生徒ノ心意ノ上ニ道德上ノ反面結果ヲ生セントス。教師ノ訓練ニシテ精緻ヲ缺キ、勸善懲惡ノ方策不定ナルトキハ、生徒毫モ自督ノ觀念ヲ有セザルマ、ニ成長シ、自己ノ行爲ヲ制督スルノ能力全ク開展セズ、遂ニ生涯私利ノ情慾ヲ逞フスルコトニ熱心シ、全ク他人ノ幸福ヲ顧ミル所無キニ至ルヘシ。

努力及ヒ義舉 〓 道德上ノ感受性ヲ振起スルコト、此感受性ヲシテ正當ナル方向ニ於テ發セシムル事トハ、全ク別事ニ屬セリ。交感ノ情ヲ發育セシメ得タリトモ、只タ之ヲ情緒ヲ動カスノミニ徒費スルコトアリ、例ヘバ難澁スル者ノ憫情ヲ聞クトキ悲嘆ヲ感シテ涕ヲ流スニ止マレ場合ニ於テノ如シ、或ハ又之ヲ無益ノ目的ヲ達スルニ浪費スルコトアリ、例ヘバ乞食ヲ職業トスル者ニ施與シテ直接ニ懶惰匪徳ヲ獎勵スル場合ニ於テノ如シ、或ハ又難澁ヲ救ヒ貴尊有益ナル事業ヲ助クルニ之ヲ費用スルコトアリ。獨リ最後ニ言フ類ノ場合ニ於テノミ義舉ハ其之ニ與ル生徒ノ心ニ正當ナル感覺ヲ起シ、以テ有徳ナル性質ノ一元素ト成ルヘキモノトス、是ヲ以テ教師タル者只タ感受性ヲ振起スルコトヲ務ムルノミニ非スシテ、又之ヲ指揮シテ正當ナル方向ニ於テ發セシメ、交感ノ情ヲ轉シテ眞ニ人ノ道ニ稱ヘル行爲ト成ラシメ、ノコトヲ務メザル

ベカラズ。親切ナル企念ヲ筋骨發作ノ間ニ表現セシムルコトノ極メテ必要ナルハ、心ニ企ツル所ヲ手ニ發シテ如何ホド必要ナリト言フモ決シテ當テ過グルノ恐無シ。

兒童ノ私慾ヲ制スルノ教訓ト成ル者ニシテ、最初ニ發スル者ハ、其父母ニ對シテ眞實ニ有益ナル行爲ヲ作ストキ、自身モ果シテ有益ノ事ヲ爲シ得タリト感知スルニ依テ愉快ヲ感シ、且ツ父母モ其果シテ有益ナルヲ認識スルニ因テ、再ヒ同様ノ行爲ヲ作サント勉ムルニ至ルコト是レナリ。教師モ亦此原則ニ準ヒ生徒ニ多少ノ親切ヲ請ヒ、以テ之カ道德上ノ能力ヲ獎勵スルノ策ト爲スコトヲ得ベシ、然レモ此類ノ請求、アマリ數回ニ及フハ宜シカラズ、又教師ノ懈怠ニ出ツルカ如キ感アラシムルハ最モ慎ムベキ所ナリ。

警省 〓 凡ソ情操ハ其類ニ依テ異ナル消費ノ條路ノ自然ニ且ツ正

當ナル者アリ、例へバ難澁者ヲ憐ムノ情ハ救濟ノ舉ヲ以テ其正當ノ消
費ノ條路ト爲スカ如シ。是故ニ若シ到底自己ノ力ニ於テ扶助シ得ヘ
キニ非サル類ノ苦難ニ陷ル者ヲ目撃スルハ、恰モ正當ニ消費スルノ
路無キ感受性ヲ衝動スルニ等シカルヘク、其結果タル、智心及ヒ道德ノ
錯亂ヲ招クニ至ラントス。則チ斯クノ如キ有ルトキハ、情操ノ發作、
心身ノ上ニ反動シテ身軀若シクハ心意ノ衰弱ヲ來ス有リ、或ハ又全
ク正當ノ條路ニ違ヒタル條路ヲ經テ外ニ漏ル、有リ。例へバ得テ
救濟スヘキニ非サル汚穢、鄙陋、赤食ノ狀ヲ目撃スル協合ノ如シ、激烈ナ
ル憐情ヲ發ストイヘ、之ヲ漏ラスノ條路無キカ爲メニ、狂亂ノ体裁ニ
出テ、暴動ノ間ニ消費スル有リ、或ハ又此情操ヲ轉シテ肉慾ヲ逞フ
セントスルノ條路ニ發セシメ、徒ニ事ヲ醉酩ニ托シテ慘狀ヲ忘レ心狀
ヲ易クセントスルニ致レリ。

サレバ教師ハ道德上ノ行爲ヲ獎勵セントスルニ當リ成ル可ク此ノ類
ノ場合ヲ避ケ、只タ正當ナル救濟ノ法ヲ經テ發情ヲ消散シ得ヘキ場合
ニミテ撰擇スルヲ注意セザル可カラズ。即チ此目的ヲ達センカ爲
メニハ、聞クニ忍ヒサル困窮、難澁、火災、難船、瀟車ノ遭難、戰爭、飢饉等ノ故
細テ告グルコトヲ全ク避ケザル可カラズ。

善行ノ認識 善行ヲ認識スルニ關シテハ、二ツノ極端ノ避クベ

キ者アリ。其一ハ稱美、過大ナルレナリ、稱美厚キニ過クルトキハ、
生徒他人ヲ救濟シ又ハ扶助シタル愛他ノ義舉ニ因テ生ズル満足ノ感
ヲ失ヒ、之ニ替フルニ行爲ノ徳ト稱美トヲ結合スル自足ノ情ヲ以テス
ニ至ルノ弊アリ、而シテ稱美數回ニ及フキハ、之ニ因テ自ラ感スル快樂
ニノミ留心スルコト深ク成リテ、遂ニハ稱美ヲ得ント欲スルノ慾念ヲシ
テ行爲ノ徳ヲ研カントスルノ志念ヲ壓倒セシメントス。

之ニ反シテ若シ義舉アルヲ見ナガラ少シモ稱美ヲ加ヘザルトキハ、生徒其勉ムベキノ行爲ト然ラザル者トナ知ル所以ノ引指ヲ得ス、又耐忍シテ善行ヲ勉メントスルノ獎勵ヲ得ザルニシ。經驗ニ於テ裁智既ニ十分ニ發育セシ大人ニ在リテハ、認識ノ有無ニ因テ本分ノ履行ニ影響スルヲ殆ト無シト雖モ、兒童ニ在リテハ、認識ノ事之ヲ誘促シテ行爲ニ至ラシメ、之ヲ引指シテ爲ス當キ所ト爲ス當カラザル所トナ辨知セシムル所以ノ勢力ノ最モ有功ナル者ヲ爲スナリ。

斯クノ如キ認識ハ、顔色、音聲、褒詞ノ就レニ依リテナリトモ表示スルヲ得ベク、若シ時機事情其宜シキヲ得バ、深ク銘心シテ將來ニモ同様ノ行爲アラントスル勢烈ナル激因ト成レリ。認識ヲ加フルニ於テハ、必ス先ツ志念ヲ憶度センヲ緊要ナリ、志念ニシテ果シテ善良ナレバ、縱令其義舉ニ因テ一ノ善良ナル結果ヲダニ生セスモ、尙ホ且ツ稱美ヲ加ヘ

ザル可カラザルナリ。又義舉ニ因テ却テ惡シキ結果ヲ生スルヲアリタリモ、只タ裁智ノ謬誤ヲ指示スルノミニ止マリテ、決シテ公然ト又ハ隱然ト批難ノ意ヲ表示スヘキニ非ズ。又稱譽ヲ明告スル事ハ衆生徒ニ對シテ嚴密ニ公平ナラントナ要ス。輕忽ナル意癖若シクハ愛憎ヲ以テ稱美譴責ヲ加フルトキハ爲メニ兒童ノ感愛性ヲ刺傷シ學校一般ノ道德氣象ヲ荼毒スルニ至ルベシ。

◎學校ノ管理 學校ニ於テ善良ナル秩序及ヒ善良ナル行狀ヲ確

保センガ爲メニ用井ル一切ノ効力物ハ悉ク皆之ヲシテ道德上ノ教訓鍛練ノ方法ト爲スニ足ル者ナラシメザル可カラズ。學校管理法ノ全体ノ目的トスベキ所ノ點ハ各生徒ノ躬自ヲ督制スルノ能力ヲ發育セシメテ制馭シ難キノ情慾及ヒ願望ヲ正當ノ範圍内ニ閉塞セシメ、劣等